令和５年度　第９回「南城市教育の日」

南城市学力向上実践報告書

幼児児童生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ
「生きる力」を育む

南城市

「教育の日」

南城市

令和5年度

南城市学力向上推進協議会
南　城　市　教　育　委　員　会

第９回「南城市教育の日」学力向上実践報告書

－　目　次　－

Ⅰ 「南城市教育の日」
１ 教育長あいさつ
２「南城市教育の日」実施要項
３ 表彰者一覧
４ 南城市学力向上推進要項

Ⅱ 実践発表
１ 研究指定校
（１）沖縄県教育委員会研究指定校　体育・スポーツ推進校
　　船越小学校
（２）沖縄県教育委員会研究指定校　組織的な授業改善
　　大里中学校

２ 地域、その他の取組
（１）生涯学習課
（２）幼小連携事業
（３）小中外国語教育
（４）先進地区視察　「通常学級における特別支援教育」

Ⅲ 公私連携認定こども園、幼稚園及び小・中学校における実践概要
１ 公私連携認定こども園・幼稚園
（１）大里こども園
（２）玉城こども園
（３）佐敷こども園
（４）知念こども園
（５）久高幼稚園

２ 小学校・中学校
（１）玉城小学校
（２）百名小学校
（３）知念小学校
（４）久高小学校
（５）佐敷小学校
（６）馬天小学校
（７）大里北小学校
（８）大里南小学校
（９）玉城中学校
（10）知念中学校
（11）久高中学校
（12）佐敷中学校

○「南城市教育の日」を定める規則

あ　い　さ　つ

第9回「南城市教育の日」を開催するにあたり主催者として一言ごあいさつ申し上げます。

本市においては、1月を南城市教育月間として位置づけ、明日を担う子どもたちの健やかな成長を願って、市全体で教育に関する取組を推進しているところであります。

その関連行事として「学校・家庭・地域及び行政が連携し、市民全体で教育に関する取組を連携する」ことを目的に「南城市教育の日」を設定しております。

令和4年度から令和5年度にかけては、幼稚園・公立認定こども園、小中学校単位でコミュニティスクールを設置し、社会に開かれた学校、地域とともにある学校を目指した取り組みを通して「南城市教育の日」を進めております。これからの「南城市教育の日」は、各幼児教育施設、小中学校が地域の方々と協働で実施し年を重ねる毎に更に充実するものと思っております。

本市は教育目標として、「自立・協働・創造」を掲げ、その実現に向けて学校では「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に取り組んでおります。令和５年度は、大里中学校が沖縄県教育委員会研究指定校として「主体的な学習を促す組織的授業改善の推進」～数学科における振り返りシートの工夫と単元の核となる授業の探求を通して～をテーマに調査研究に取組みました。講師招聘の研修会や研究発表会では、大里中学校のみでなく市内各小中学校から教師が参加し指導内容の改善等について共有しました。また、一人一台端末を活用して個別最適な学び・協働的な学びにも取り組み、遠隔地の生徒や教師との交流授業にも挑戦しました。

本市が進めている幼小中連携事業では、2 年目となる幼児教育センターの下、幼児教育施設、小中学校を通して、切れ目のない支援ができるよう保育参観、授業参観と研修会を持ちました。それぞれの発達段階での学びや育ちを確認し、日頃の教育活動での実践を通して、連携の輪が広がるように努めていきます。

家庭は、すべての教育の出発点であり、家族との触れ合いを通じ、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成する場であります。令和5年度全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査では、「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じ時間に寝ていますか／起きていますか」の生活に関する質問事項において本市は、肯定的な回答が全国平均を上回っております。こどもの生活リズムをご家庭で日々整えてくださり、その積み重ねが学びに向かう意欲に繋がっていると感じております。心から感謝申し上げます。

地域においては、児童生徒を地域行事や PTA 行事に参画させ、地域アイデンティティを育むとともに学校を盛り上げてもらっております。さらに、地域ボランティアの皆さんから学習支援や登下校時の安全支援に多大なご協力を頂いています。地域の方からご支援頂いた温かい思いは、今後も子どもたちの学びを支える基盤となると確信しています。

このように学校・家庭・地域のご協力のおかげで、今年度も本市児童生徒の活躍は輝くものがありました。各学校では、児童生徒が先生方のご指導、保護者・地域の皆様の温かいご支援を受け、学力・スポーツ・文化面で優秀な成績をおさめることができました。児童

生徒の文化・スポーツ面での活躍と先生方の優れた教育実践は南城市の誇りです。今後とも努力を続けてください。さらなる飛躍を期待しています。

教育委員会としましてもコミュニティスクールを推進し、変化の激しい社会を生きる子供たちに学んだことを活用し、これまで経験したことの無い事柄に他者と協働で対峙する「生きる力」を多方面から育んでいく基盤整備を積極的におこなってまいります。

結びに、本市の学力向上にご尽力いただいた学校関係者、並びに保護者、地域の皆様に感謝申し上げます。そして、今後とも本市の学力向上推進にご理解とご協力をお願い申し上げまして、あいさつといたします。

令和6年1月28日
南城市教育委員会
教育長　具志堅兼栄

令和５年度 第9回「南城市教育の日」実施要項

南城市教育委員会

１．趣　旨

授業参観等を通して、本市の学校教育に対する市民の意識と関心を一層高め、学校・家庭・地域の教育力の向上及び充実を図る。

２．期　日

令和６年１月２８日（日）　学校公開【授業参観・地域と協働での取組等】（特別日課）
令和６年１月中　　学校公開【授業参観・地域と協働での取組等】（特別日課）

３・場　所

各幼稚園、公立こども園及び小・中学校

４・主　催

南城市教育委員会

5. 参加者

幼児教育施設（公立）、小中学校教職員、保護者、学校関係者、南城市民

6. 内　容

⑴各幼稚園、小・中学校の授業参観等を実施する。＊給食は無し。
⑵日頃の学力向上推進の実践を学校部会、ＰＴＡ連合会、子ども会育成連絡協議会等がホームページにて発表する。（負担軽減のため、各種発表大会での発表原稿をそのまま掲載する）
⑶年間を通して児童生徒の善行賞、活動賞並びに教職員へ教育実践賞を設け表彰する。ホームページにて発表・表彰は各学校にて校長が行う
⑷地域で貢献した方の表彰（南城市教育委員会表彰規定に沿う）
⑸今年度の成果と課題、次年度南城市教育の方向性等を確認する。

7. 役割分担

⑴児童生徒の表彰及び教職員実践賞等については、各小中学校及び関係団体と連携し教育総務課が担当する。

8. 表彰者の推薦

⑴児童生徒等の表彰については、教育・文化・スポーツ活動等の分野において顕著な成績を収めた児童生徒及び他の児童生徒の模範となる功績が認められものを学校から推薦する。推薦に関しては「南城市児童生徒等表彰実施要綱」に基づいて行う。
⑵教職員の実践賞については、各学校の職員・ＰＴＡ・地域から評価が高く、かつ実績のあったものを学校から推薦する。推薦に関しては「南城市教育の日」教職員表彰規定に基づいて行う。
①各幼稚園、公立こども園・小学校・中学校、若干名とする。
②校長、教頭は対象外とする。
③表彰該当者がいない場合、表彰は行わない。

令和5年度「南城市教育の日」児童生徒等表彰者一覧表

No.	学校名	氏　名	区　分	活　動　等	備　考
1	船越小学校	西田 結翔	教育・文化活動	ドローンの試験『JMA無人航空機技能認定・安全管理者』に合格	6年生
2	船越小学校	松田　昴	スポーツ活動	新法児童オリンピックバドミントン（5年生以下男子シングルス　優勝）	5年生
3	百名小学校	上里　倫輝	スポーツ活動	第39回沖縄県小学生総合シングルスバトミントン選手権大会　2・1年生　男子優勝	2年生
4	知念小学校	日向　ことり	教育・文化活動	児童生徒の平和メッセージコンクール優良賞	6年生
5	知念小学校	宮田　松晴	スポーツ活動	新法児童オリンピックテニス（3年生以下男子　優勝）	2年生
6	久高小学校	西銘　夏海	教育・文化活動	全沖縄青少年読書感想文・感想画コンクール　優秀賞	1年生
7	佐敷小学校	山本　穂乃	教育・文化活動	第56回新報音楽コンクール（高学年の部)バイオリン3位	6年生
8	佐敷小学校	山城　空	スポーツ活動	全日本卓球選手権大会　沖縄県予選　優勝	2年生
9	馬天小学校	馬天スターズ	スポーツ活動	虹の松原カップ旗争奪九州山口地区親善大会　優勝	団体
10	馬天小学校	東條　夏帆	スポーツ活動	NPBガールズトーナメント2023全日本女子学童軟式野球大会　優勝	6年生
11	大里北小学校	高嶺　夢乃	教育・文化活動	県新聞スクラップコンテスト　県PTA連合会長賞	5年生
12	大里南小学校	吉田　悠真	スポーツ活動	第28回少年少女全日本空手道選手権大会　小学1年生の部3位	1年生
13	大里南小学校	城間　哉人	教育・文化活動	第91回全国書画展覧会　文部科学大臣賞	4年生
14	大里南小学校	玉那覇　雪葉	教育・文化活動	第92回全国書画展覧会　広島県教育委員会賞	4年生
15	大里南小学校	古堅　結音	スポーツ活動	沖縄県少年少女レスリング選手権大会DIPLOMA　1～2年生の部2位	1年生

令和5年度「南城市教育の日」児童生徒等表彰者一覧

No.	学校名	氏　名	区　分	活　動　等	備　考
1	玉城中学校	宜保 海音	スポーツ活動	JOCジュニアオリンピックカップ大会沖縄県予選優勝　全国大会出場 第43回沖縄県中学校バドミントン競技大会男子シングルス準優勝　九州大会出場	3年生
2	玉城中学校	上里 明輝	スポーツ活動	第43回沖縄県中学校バドミントン競技大会男子ダブルス準優勝　九州大会出場	3年生
3	玉城中学校	飯塚 聡	スポーツ活動	第43回沖縄県中学校バドミントン競技大会男子ダブルス準優勝　九州大会出場	3年生
4	玉城中学校	照屋　盛麻	スポーツ活動	第65回沖縄県中学校ソフトテニス競技大会　個人準優勝 第33回知花哲杯中学校ソフトテニス大会　個人優勝	3年生
5	玉城中学校	大城　和之真	スポーツ活動	第65回沖縄県中学校ソフトテニス競技大会　個人準優勝 第34回知花哲杯中学校ソフトテニス大会　個人優勝	3年生
6	玉城中学校	大湾　政汰	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属　琉米中学生友好親善野球大会　優勝	団体
7	玉城中学校	高坂　弦侍	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属　琉米中学生友好親善野球大会　優勝	団体
8	知念中学校	長田　宏河	スポーツ活動	沖縄県夏季中学校陸上競技大会　1年男子　1500m　1位	1年生
9	知念中学校	糸数　圭衣	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属　琉米中学生友好親善野球大会　優勝	団体
10	知念中学校	外間　大愛	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属　琉米中学生友好親善野球大会　優勝	団体
11	知念中学校	屋比久　来寿	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属　琉米中学生友好親善野球大会　優勝	団体
12	知念中学校	富盛　恭太	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属　琉米中学生友好親善野球大会　優勝	団体
13	知念中学校	神谷　昊	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属　琉米中学生友好親善野球大会　優勝	団体
14	知念中学校	玉寄　稜貴	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属　琉米中学生友好親善野球大会　優勝	団体
15	知念中学校	我如古　大河	スポーツ活動	八重瀬ボーイズ所属　日本少年野球選手権沖縄大会　優勝	団体
16	知念中学校	桃宇　花	教育・文化活動	沖縄県中学校アートコンクール　最優秀賞	3年生
17	知念中学校	知念中学校美術部	教育・文化活動	沖縄県中学校アートコンクール　団体3位	団体
18	知念中学校	神谷　杏莉	教育・文化活動	中学生の税についての作文　優秀賞	3年生
19	佐敷中学校	照喜名 海湖	スポーツ活動	JOCジュニアオリンピックカップ 第37回全国都道府県対抗中学バレーボール大会　沖縄県選抜メンバー選出	3年生
20	佐敷中学校	女子バスケットボール部	スポーツ活動	【U15】2023年度　第4回沖縄県U15バスケットボール選手権大会 兼Jr.ウインターカップ　第4回全国U15バスケットボール選手権優勝	団体
21	佐敷中学校	眞喜屋　一休	教育・文化活動	第71回全琉小中高校図画作文書道コンクール　図画　最優秀	3年生
22	佐敷中学校	知念　蒼侑	スポーツ活動	SYM・大和工業カップ　第56回　沖縄県U－15サッカー選手権大会　準優勝	3年生
23	佐敷中学校	當眞　騎士	スポーツ活動	第17回琉米中学生友好親善野球大会　優勝　安仁屋ヤングスピリッツ	団体
24	佐敷中学校	仲村 武琉	スポーツ活動	第17回琉米中学生友好親善野球大会　優勝　安仁屋ヤングスピリッツ	団体
25	佐敷中学校	奥間　賢	スポーツ活動	第17回琉米中学生友好親善野球大会　優勝　安仁屋ヤングスピリッツ	団体
26	佐敷中学校	富盛 恭太	スポーツ活動	第17回琉米中学生友好親善野球大会　優勝　安仁屋ヤングスピリッツ	団体
27	佐敷中学校	我如古 弥一輝	スポーツ活動	第17回琉米中学生友好親善野球大会　優勝　安仁屋ヤングスピリッツ	団体
28	大里中学校	男子バスケットボ	スポーツ活動	第49回沖縄県中学校バスケットボール競技大会2位 九州中学校体育大会第53回九州中学校バスケットボール競技大会2位 第53回全国中学校バスケットボール大会出場	団体
29	大里中学校	大畑 凛佳	スポーツ活動	第63回沖縄県中学校体操・新体操競技大会女子総合2位、女子個人フープ1位、女子個人リボン2位 第47回九州中学校新体操大会出場	2年生
30	大里中学校	仲里 碧夏	スポーツ活動	第65回沖縄県中学校水泳競技大会自由形800M1位　自由形400M3位 第51回九州中学校水泳大会出場	2年生
31	大里中学校	女子駅伝部	スポーツ活動	第39回沖縄県中学校駅伝競走大会2位第35回九州中学校駅伝競走大会出場	団体
32	大里中学校	比嘉 陽	スポーツ活動	沖縄伝統空手道古武道少年少女全国大会古武道　中学生女子　棒の部　優秀賞	3年生

33	大里中学校	親泊 美音	教育・文化活動	沖縄県立博物館・美術館「第7回アートコンクール」中学校の部　優秀賞	3年生
34	大里中学校	有志合唱	教育・文化活動	島尻地区中学校音楽発表会最優秀賞 第69回全沖縄学校音楽発表会出演 第69回全琉音楽祭に推薦	団体
35	大里中学校	新垣 琉介	教育・文化活動	第63回沖縄県児童生徒科学賞作品展優秀賞 青少年科学作品展に選ばれている（県で10作品程度）	2年生
36	大里中学校	大城 葵裡	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属 第4回ヤングリーグ秋季沖縄支部大会ジュニアの部優勝	団体
37	大里中学校	前野 聖太	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属 第5回ヤングリーグ秋季沖縄支部大会ジュニアの部優勝	団体
38	大里中学校	玉城 成惺	スポーツ活動	安仁屋ヤングスピリッツ所属 第6回ヤングリーグ秋季沖縄支部大会ジュニアの部優勝	団体

令和5年度「南城市教育の日」教育委員会表彰一覧

No.	氏名（団体名）	賞状	活　動　等	備　考
1	うふざとぅぬ会	感謝状	学校支援ボランティア	会長　西銘　宜正
2	さしちぬ会	感謝状	学校支援ボランティア	会長　前里　輝明
3	ちにん太陽ぬ会	感謝状	学校支援ボランティア	会長　前城　盛雄
4	ミントゥンの会	感謝状	学校支援ボランティア	会長　知念　かねみ
5	安里洋子	感謝状	スクールガード（馬天小）	
6	金城定雄	感謝状	スクールガード（馬天小）	
7	新垣恵美子	感謝状	スクールガード（馬天小）	
8	識名シゲ子	感謝状	スクールガード（馬天小）	
9	高木キヨ	感謝状	スクールガード（馬天小）	
10	上原豊一	表彰状	部活動指導者（大里中）	
11	中村良	表彰状	部活動指導者（大里中）	
13				
14				
15				

令和５年度南城市学力向上推進要項

南城市学力向上推進協議会

１　南城市の教育目標

（１）家庭・地域の教育力の向上
（２）幼児・児童・生徒一人一人の個性を伸長し、生きる力をはぐくむ
（３）生涯学習の理念のもと積極的に学び、成果を活かす市民の育成
（４）南城市民としてのアイデンティティーの確立

２　南城市学力向上推進目標

（１）

知・徳・体の調和の取れた幼児・児童・生徒の育成
～「確かな学力」を持ち、主体的に他者と協働して夢や希望を持って生きる子～

総括目標：幼児・児童・生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」をはぐくむ

年度	推進目標
○令和4年度 ○令和5年度 ○令和6年度	全国学力学習状況調査において小学校全科目全国平均正答率の維持、及び中学校において全国水準まで向上させる。

（２）加えて、本市の具体的達成目標として、以下の４つを達成する。

【南城市の達成目標】※次年度の全国学力学習状況調査の結果

①「自分には、よいところがあると思いますか」で「当てはまる」を35%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成する。
※R4　小6「当てはまる」32.0%「どちらかといえば当てはまる」47.5%
※R4　中3「当てはまる」40.2%「どちらかといえば当てはまる」42.4%

②「学校に行くのは楽しいと思いますか」で「当てはまる」を50%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成する。
※R4　小6「当てはまる」51.4%「どちらかといえば当てはまる」35.3%
※R4　中3「当てはまる」52.4%「どちらかといえば当てはまる」35.7%

③「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「当てはまる」を30%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると70%以上を達成する。
※R4　小6「当てはまる」14.8%「どちらかといえば当てはまる」32.5%
※R4　中3「当てはまる」14.8%「どちらかといえば当てはまる」36.5%

④「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」「当てはまる」を35%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると80%以上を達成する。
※R4　小6「当てはまる」28.8%「どちらかといえば当てはまる」49.2%
※R4　中3「当てはまる」34.1%「どちらかといえば当てはまる」44.8%

※③については、学校評価の項目に加えて下さい。

３　成果指標

（１）全国学力・学習状況調査を指標とする。
　○小学校全科目全国平均正答率の維持、及び中学校において全国水準まで向上
　○平均正答率30%未満児童生徒の割合及び無解答率の減少
（２）上記４項目で、児童生徒の達成状況を把握する。

4　達成目標実現の手立て

（１）沖縄県学力向上主要施策「学力向上推進プロジェクトⅡ」（令和２年度～令和６年度）及び「令和３年度島尻教育の基本方針」と南城市の現状と課題を踏まえ、「確かな学力」の向上をめざし推進する。

（２）キャリア教育の視点を踏まえ、幼児児童生徒に「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させ「学ぶ意欲」を向上させる取組を推進する。

（３）全ての幼児児童生徒を尊重し、認め、受け入れ、教師と幼児児童生徒が共に成長していこうとする教育を推進(実践)する。
（取組例）人権意識を高める築くための言語環境の整備
・ていねいで、優しく、正しい言葉があふれる学校（教師が模範となる）

（４）主体的・対話的で深い学びに迫る授業を推進（実践）する。
（取組例）学びの接続を意識し幼小中で授業改善を図る。

（５）特別支援教育の視点を踏まえ、教室環境の整備・授業（保育）のユニバーサルデザイン等、幼児児童生徒一人一人に寄り添ったインクルーシブ教育の視点に立った学級・学校経営を推進する。

5　具体的取り組み

□「沖縄県学力向上推進５か年プラン・プロジェクトⅡ」と関連付け、３つの視点「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」、５つの方策（具体的取り組み）を通して、各学校の授業改善・学校改善を推進する。
※【視点１】を成果指標とする。

【　行政　】

	方　策	【視点１】 自己存在感の実感 （自己肯定感の高まり）	【視点２】 学び・育ちの実感	【視点３】 組織的な関わり
方策１	日常化する 【授業改善】	**教育指導課** □学習指導要領を基に、『学力向上推進５か年プラン・プロジェクトⅡ』や『「問い」が生まれる授業サポートガイド』等を活用して、日常の授業を見直し、授業改善を図る。 □教職員協働による授業改善の充実に向けた取組 □各種取組を通して日常的な授業改善を支援する。		
方策２	そろえる 【組織的共通実践】	**教育指導課** □インクルーシブ教育の視点での学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導を推進する。 ・Q-Uを活用したアセスメントの明確化 ・インクルーシブ教育の視点での学級・学校経営 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、環境づくり		
方策３	支える 【学校支援】	**教育指導課** □学校訪問を通して、学校と教育委員会との連携強化及び教育活動の充実を図る。 □キャリア教育担当者連絡会を開催し、各校のキャリア教育の充実に努める **（学推：授業改善）** □主体的・対話的で深い学びに迫る授業改善を図る。 （学推主任・校内研修主任連絡会／中学校研修の日） □アセスメントテストを活用し、到達度の把握、授業改善を図る。 標準学力テスト（4月：中学1, 2年生）学力テスト(10月：中学3年生) □沖縄県教育委員会研究指定校の推奨 ・船越小学校：体育　　・大里中学校：数学、校内研修		

		（学推：幼小、小中連携）※幼：保育所、幼稚園、こども園を含む □幼児教育と小学校、中学校の育ちをつなぐ。 **（学推：幼児教育）** □市内統一テーマを基にした５園研修の充実を図る。 **（学推：特別支援教育）** □認知トレーニングの実施、MIM教材の活用を広げる。 □SST（ソーシャルスキルトレーニング）及びSGE（構成的グループエンカウンター）等の研修会を行い、授業や学級経営を支援する。 □Q-Uを活用したアセスメントを支援する。 **（学推：外国科教育）** □「南城市小中外国語研修会」において、講師を招聘し、小・中連携した外国語科における指導と評価、授業づくりを支援する。 **（学推：ＩＣＴ活用）** □GIGAスクール構想(1人1台PC配布)におけるPC活用を支援する。 **（学推：不登校・登校渋り改善）** □各学校の生徒指導、教育相談担当とハート教室の連携・協働 **（学推：学校図書館充実）** □司書教諭が連携協働をし、読書を楽しむ児童・生徒の育成を図る。 **教育総務課** □「子どもとしっかりと向き合い、質の高い授業、教育活動ができる働き方」をめざし、学校業務改善を推進する。 **生涯学習課** □スポーツ少年団や部活動の終了時刻厳守等家庭学習時間の確保と定期的な休養を確保する取組を推進する。 □リーダー育成キャンプ、ＥＳＬキャンプ、海外短期留学、中国国際交流事業を実施する。
方策４	見通す 【ｶﾘｷｭﾗﾑ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ】	**教育指導課** □学校課題解決に向けた組織マネジメント機能を高める。 □学校評価と関連付けたカリキュラムマネジメントの確立
方策５	つなぐ 【学校・地域連携】	**教育指導課・生涯学習課** □幼小連携と幼児教育の充実を推進する。 □幼小中連携の取組を通して中学校区での児童生徒の育成を推進する。 □コミュニティ・スクールの取り組みで地域と課題や目標を共有し取り組む。 □地域学校協働活動を充実させ、各学校の「地域教育資源」の活用を推進する。 「ミントゥンの会、ちにん太陽の会、さしちぬ会、うふざとぅぬ会」 □学校における体験活動を推進するため　様々な機関との交流活動の取組を推進する。

【　公立認定こども園・幼稚園　】

	方　策	【視点１】 自己存在感の実感 （自己肯定感の高まり）	【視点２】 学び・育ちの実感	【視点３】 組織的な関わり
	○幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す、資質・能力を明確にした教育課程を編成する。 ○幼児教育で目標としている心情・意欲・態度を培い、生きる力の基礎を育む。 ○カリキュラム・マネジメントと関連付けながら、学校評価を実施する。			
方策１	日常化する 【保育の充実】	□「遊びこみ」を通して「10の姿」を育む。 □幼児一人一人の行動理解と予想に基づき、計画的に環境を構成する。 □自ら興味･関心を抱いたことに存分に取組む環境と時間を確保する。		
方策２	そろえる 【組織的共通実践】	□遊びを通して心情・意欲・態度を育成されるように指導する。 □生活リズムカードを活用して、基本的な生活習慣を確立し、自立心を育む。 □幼児教育関係者研修会と園内研修の充実を通して、資質の向上と各園の課題解決に努める。 □市内統一テーマを基に５園研修を行い保育の充実を図る。 □インクルーシブ保育の視点での園・学級経営の充実及び幼児一人一人に応じた指導に努める。		
方策３	支える 【発達の支援】	□互いを受け入れられる温かい人間関係の構築を図る。 □人の役に立つ喜びを味わう活動を行うとともに自分のことは自分でできるように指導を工夫する。 □具体的に「支える」「認める」ことばかけや、幼児が考えて行動できるようなことばかけをすることにより、幼児に自己存在感を実感させ自己肯定感・自己有用感を育む。		
方策４	見通す 【学校組織マネジメント】	□保育カンファレンスを実施し、協働でドキュメンテーションを作成する。 □学力向上年間サイクルの活用 □アプローチカリキュラムの実践 □教育目標を明確にし、PDCAサイクルを通して学校評価を行う。 □ドキュメンテーションを適宜作成する。		
方策５	つなぐ 【学校連携・地域連携】	□「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、接続期カリキュラムを協働で見直し小学校教育との円滑な接続を図る。【幼小連携】 □幼児教育センター・公立認定こども園を結節点として、就学前施設間の連携を図るとともに円滑な接続めざす。		

【　小中学校　】

	方　策	【視点１】 自己存在感の実感 （自己肯定感の高まり）	【視点２】 学び・育ちの実感	【視点３】 組織的な関わり
	○授業の質的な改善を図り「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 ○学習指導要領を読み込み、授業の焦点化を図る。			
方策	日常化する 【質的授業改善】	□「学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」に基づく授業改善、他者と関わりながら問題解決に向かい「問い」が生まれる授業を目指す。		

1		□学ぶ意義・身に付けさせたい力の明確化、指導内容の吟味、指導方法の工夫・改善を行う。(「指導の個別化」「学習の個性化」) □ICTや視聴覚機器を効果的に活用したわかる授業の推進を図る。 □学年会や教科会、校内研修等を充実させる。
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	□「全国学力・学習状況調査」や沖縄県学力定着状況調査「学びのたしかめ」(県Webシステム)、沖縄県学力到達度調査を活用した実力調査等の結果を分析し、「授業における基本事項」や「問いが生まれる授業サポートガイド」等を活用して組織的に授業改善に取り組む。(本市実施標準学力テスト・中学３年生学力調査の結果も活用) □学力向上マネジメントの推進 □教師が模範となった人権意識を高め築くための言語環境の整備・推進を図る。 □学校経営ビジョンを共有した取組の推進 □管理職による日々の授業観察とフィードバックの取組を推進する。 □インクルーシブ教育の視点での学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導に努める。
方策3	支える 【発達の支援】	□豊かな心や確かな学力の育成に向けた取組を、特別教育の視点で再確認し、児童生徒一人一人を大切にする教育を推進する。 □児童生徒を適宜、具体的に「支える」「認める」ことばかけや、児童生徒が考えて行動できるようなことばかけをすることにより児童生徒に自己存在感を実感させ自己肯定感・自己有用感を育む。 □学習支援員・特別支援教育支援員を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を進める。 □将来の夢や希望を形づくる学習で「なりたい自分」を広げ、様々な知識や技能を身につけ「なれる自分」を広げる。 □「キャリア・パスポート」の活用 ・児童生徒一人一人が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにする。 ・「キャリア・パスポート」に学びのプロセスや自己評価等を記述することを　通して、小中高12年間の学びの履歴をつなぎ、自立した社会人・職業人の育成を図る。
方策4	見通す 【学校組織マネジメント】	□学力向上年間サイクルの活用 □カリキュラム・マネジメントの実施 □児童・生徒と教職員が学習の履歴や、年間を見通せる掲示物を作成する。
方策5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	□幼小中が連携し系統的・継続的な授業改善を推進する。 □スタートカリキュラムを工夫し、幼児教育から小学校教育への円滑な移行を図る。 □小中相互の授業参観や協働での授業実践を推進する。 □地域教育資源や本物に触れる活動を通した取組で「学ぶ意義」や「働く意義」「地域貢献への芽生え」を醸成する。 □お仕事調査隊、職場見学や職場体験学習を教科等の内容と繋ぐことで取組の充実を図る。 □コミュニティ・スクールの取組みで学校とともに地域と課題や目標を共有し、子供を育む。 □地域学校協働本部事業（活動）の充実 「ミントゥンの会、ちにん太陽の会、さしちぬ会、うふざとぅぬ会」

【　家庭・地域　】

	方　策	【視点１】 自己存在感の実感 （自己肯定感の高まり）	【視点２】 学び・育ちの実感	【視点３】 組織的な関わり
	○全ての保護者の学びや育ちを支援する。 ○コミュニティ・スクールの取り組みによる地域とともにある学校づくり			
方策１	日常化する 【家庭教育の充実】	**周知・広報** □子どもに「働くこと」「勉強すること」の関係や将来の夢や希望について子どもと語り合う。（対話の充実） □家族の一員として役割を与えたり、お手伝いをさせたりすることで家族の役に立つことの喜びを味わわせる。 □あいさつや返事ができるようにする。（規範意識・マナーの向上）		
方策２	そろえる 【組織的共通実践】	**周知・広報** □幼児児童の生活リズム向上を図るため、「食べて・動いて・よく寝よう」運動に取り組む。（生活リズムの確立） □家庭における読書活動を充実させ、言語における能力を培うとともに、豊かな心を育む。（第３日曜日のファミリー読書の実施）（読書動の充実） □「地域の子は、地域で守り育てる」４つの共通実践の推進を図る。 （大人版GO家運動、親子、地域でｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを持とう、大人が変われば子どもも変わる運動、未成年者の飲酒・喫煙防止の取組）		
方策３	支える 【家庭教育の支援】	□家庭教育の充実を図るために、「家～なれ～運動」「GO家運動」に取り組む。 □県や市が主催するプログラムへ参加し家庭教育の充実に役立てる。 □幼児児童生徒が子ども会・スポーツ少年団等の地域活動を通して自主性や社会性を育成する。 □地域では、幼児児童生徒の登下校時や帰宅時の安全安心を見守る活動を展開し家庭教育を支援する。		
方策４	見通す 【組織マネジメント】	□学校と目指す児童生徒像を共有し、「社会に開かれた教育課程」実現への素地を育む。 □コミュニティ・スクールの取り組みで地域と課題や目標を共有する。		
方策５	つなぐ 【学校連携・地域連携】	□コミュニティ・スクールの取組みで学校とともに子供を育む。 □学校と連携し主体となって「家庭学習」を充実させる。（家庭学習の習慣化） □地域の伝統文化行事に関する活動に積極的に参加させ、世代間交流でコミュニケーション能力を育成する。（体験活動と対話の充実）		

学校名 **南城市立船越小学校**	連絡先　TEL：　**098-949-7108** e-mail：funasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項

沖縄県教育委員会研究指定校

「体育・スポーツに関する教育実践校（２年次）」の取り組み

研究テーマ「－運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成－」
～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～

２　実践内容

①研究テーマの実現に向けた理論と実践の研究

②地域コーディネーターとの連携

３　説明資料

①研究テーマの実現に向けた理論と実践の研究について

本校では、令和４年より「体育・スポーツに関する教育実践校」として体育学習の研究に取り組んでいる。１年次は、児童に運動の楽しさや喜びを味わわせることを目標とし、教材・教具の工夫を行ったり、授業の中で使用する道具や課題及び練習の場を自己決定する機会を設けたりしてきた。教材・教具の工夫を行うことで、その運動が持つ特性の面白さを児童が味わうことができ、意欲的に体育学習に取り組む児童が増えてきた。また、道具や課題及び練習の場を自己決定できる機会を設けたことで、児童が自分の力に応じた活動に安心して取り組むことができた。一方、児童が形成した課題は自己や集団の実態に合っているか、対話的な活動は効果的に行われているか等の疑問が生じた。そこで本年度（２年次）は、研究テーマを「－運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成－」サブテーマを～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～と設定し、以下の計画（表１）で研究を進めてきた。

表１　令和５年度校内研修計画（一部）

日付	内容	担当・講師及び指導助言
4/5	令和５年度の校内研についての共通理解	研究主任
4/28	令和５年度の校内研についての共通理解	研究主任
6/30	校内研代表授業Ⅰ「ボール運動」	沖縄大学教授　嘉数 健悟
7/26	理論研修	豊崎小学校教諭　喜名 正人
7/28	小学校体育実技指導者講習会	日本体育大学教授　白旗 和也
11/10	校内研代表授業Ⅱ「ボール運動」	島尻教育事務所指導主事　上原 立誠
11/22	２年次公開授業及び研究報告会「ゲーム」	沖縄大学教授　嘉数 健悟
12/15	校内研代表授業Ⅲ「保健」	中城小学校教諭　照屋 保（体育科指導コーディネーター）
1/31	体育専科公開授業「ボール運動」	沖縄県保健体育課

（１）体育学習の進め方について全職員で共通理解を図る

１学期スタート前に、全職員で体育学習の進め方について共通理解を図った。体育学習のスタイルを確立することで、体育の指導に不安のある先生でも、学習規律やタイムマネジメントを意識しながら授業づくりを行うことができ、また各単元や領域で大きく授業の流れが変わることがないため、児童が見通しを持って学習に取り組むことができる。本校では、以下（図１）の内容に留意しながら、体育学習を進めている。

○教師の指示、言葉がけは明るく短く　→　「教師の動き」「表情」「言葉がけ」で雰囲気を作る
○児童に「学習の見通し」をもたせる　→　何のための活動か動きか等「問い」を持たせながら授業を進める
○BGM の活用　→　気持ちを高める、躍動感、音楽でタイムマネジメント行う
○肯定的な言葉かけ（称賛、承認、励まし）→　その子なりの変容を見つける、価値づけ
○体育着、赤白帽着用の徹底（ユニフォーム）
○「体育着の上着はズボンに入れる」「帽子はきちんとかぶる」　→　けがの防止、物を大切にする心を育む
役割の視覚化、到達状況の把握
○体育着、赤白帽を忘れたことを理由に見学させることはしない　→　学習機会の保障
（ただし、忘れた理由は必ず教師に伝える）
○見学する児童には「見学カード」を記入させ、思考力・判断力を育てる
（可能な範囲で場づくりや補助等の機会を与える）

【授業の流れ】
①集合・あいさつ・準備運動
②パワーアップタイム（基礎感覚作りの運動）
③めあての確認
④チャレンジタイム１（活動１）or ゲーム１
⑤キラリタイム（学びの共有）or チームタイム（対話的な活動）
⑥チャレンジタイム２（活動２）or ゲーム２
⑦振り返り・あいさつ

図１　体育学習の進め方

（２）授業力向上を目指した研究授業の実施

本年度は、領域を「ゲーム」「ボール運動」「保健」に限定し、５本の研究授業を実施した。低学年部、中学年部、高学年部と３つの分科会を組織し、各分科会で授業づくりを進められるように体制を築いた。夏季休業中の校内研修では、体育科における「指導と評価の計画」の作成手順について全職員で確認した後、Google ドキュメントの共同編集機能を活用し、指導案の一部分（目指す児童の姿、単元目標、単元の評価規準、評価規準に合わせた具体的な児童の姿及び評価方法等）を作成した（図２）。

図２　分科会で単元指導計画を作成

研究授業に向けて、授業づくり及び指導案作成をするに辺り、以下の内容を全学年の共通実践事項として定めた。

〇教材として扱う運動の特性を明確にすること
〇アンケートを実施し児童の実態に応じた授業づくりをすること
〇安全対策を十分に行うこと
〇その運動を楽しむための最低限の技能を保障すること
〇自己決定する場面を設けること
〇自己や集団の課題形成に向けて分析ツールを開発すること
〇課題解決に向けて思考を可視化するためのツールを活用すること
〇フェアプレーの行為を価値付けること
〇振り返りの視点を明確にすること

第５学年学習指導案
「ソフトバレーボール」

第６学年学習指導案
「ソフトボール」

第２学年学習指導案
「ながれぼしゲーム」

（３）授業の様子

パワーアップタイム（基礎感覚づくり）

タオルを使って腕振りの動きを身につける
（５年ソフトバレーボール）

的を狙って左右に打ち分ける
（６年ソフトボール）

柔らかいボールを使ってキャッチボール
（６年ソフトボール）

ゲームを想定してチームでボールの投げ合い
（２年ながれぼしゲーム）

チームタイム（分析結果をもとに作戦を考える）

ジャムボードを活用し動きの確認をする
（５年ソフトバレーボール）

電子黒板で児童の考えを全体で共有する
（５年ソフトバレーボール）

ゲーム記録から作戦を考える
（６年ソフトボール）

少人数で作戦について話し合う
（２年ながれぼしゲーム）

ゲーム（チームタイムで話し合ったことを後半のゲームに活かす）

よくボールが落とされている場所を守る
（５年ソフトバレーボール）

打者に合わせて守り方を変える
（６年ソフトボール）

前後に並んで守る
（２年ながれぼしゲーム）

はじめとおわりのあいさつは必ず行う
（２年ながれぼしゲーム）

②南城市地域コーディネーターとの連携について

（１）外部講師を活用したクラブ活動

本校では、年間１０回程度クラブ活動の時間を設定しており、地域の方が講師となり活動しているクラブも複数ある。運動系のクラブは、屋外スポーツクラブ、屋内スポーツクラブ、一輪車クラブとあるが、今年度は屋外スポーツ活動の一つとして陸上競技を取り入れた。知念地区では、例年１０月に知念地区小学生陸上競技選手権大会が開催されるため、大会自体を屋外スポーツクラブの成果を表現する場として設定した。また、専門的な指導を行える人材がいないか地域コーディネーターに相談し、陸上競技の指導者を探してもらった。

クラブ活動では、講師の方から速く走る為に必要な体の動かし方や練習メニューなどを教わり、リラックスして楽しみながら運動に励む児童の姿が見られた（図３）。

図３　クラブ活動の様子

（２）教職員を対象とした実技研修会の開催

教職員を対象にした研修会にも南城市より講師の方を派遣していただき、陸上競技の指導方法について教わった（図４）。研修会に参加した先生方から「学校で子ども達に還元したい」「専門的な知識を学べて貴重な経験ができた」「次年度も是非開催して欲しい」という感想があった。また、１０月の大会直前には研修会でサポートしてくださった講師の方を招き、知念地区の児童を対象とした陸上教室を開催、直接児童に指導をしていただいた。

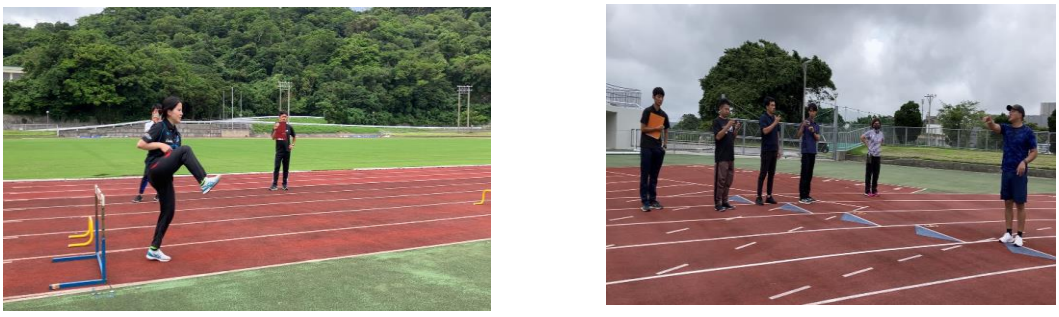


図４　知念地区小学校体育連盟　実技研修会の様子

４　成果と課題

R5 新体力テストの結果

	学年	握　力	上体起	体前屈	反復横	ｼｬﾄﾙﾗﾝ	50m 走	立幅跳	ｿﾌﾄ投げ
男子	１年	△48.6	△49.1	◎57.0	◎51.4	◎53.3	△45.7	◎59.9	◎59.7
	２年	△48.9	◎50.9	◎63.3	△49.6	△49.9	△44.1	◎55.9	◎59.0
	３年	△47.4	◎50.7	◎52.8	△40.3	△46.8	△45.5	◎54.4	◎55.2
	４年	△46.3	△45.0	◎55.1	△49.7	◎50.9	△40.9	◎54.3	○50.0
	５年	△43.5	△49.1	◎55.3	◎51.8	◎50.3	△45.1	◎51.0	◎54.1
	６年	△43.6	△49.6	△49.2	△47.4	△48.4	△47.7	◎53.6	△49.7
女子	１年	△45.0	△48.7	◎51.3	△49.1	◎54.7	△40.0	◎56.4	◎52.9
	２年	△45.7	△47.1	◎52.0	◎51.0	△49.7	△43.1	◎54.0	◎52.9
	３年	△44.1	△46.7	◎52.4	△42.4	△43.3	△40.8	◎52.6	◎51.0
	４年	△45.8	◎50.1	◎50.4	△47.2	◎51.7	△45.3	◎55.8	◎51.3
	５年	△48.2	△49.2	◎52.4	△49.9	◎52.8	△40.0	◎55.0	◎53.0
	６年	△46.0	◎51.4	◎51.6	△48.6	△49.7	△47.5	◎55.4	△49.6

◎全国平均より上、○平均同値、△平均未満

全国平均以上の項目数　　※全９６項目（８種目×６学年×２性別）

年　　度	Ｒ１年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度
項　目　数	２５	２７	２３	４４
達　成　率	２６％	２８％	２４％	４６％

全国体力、運動能力調査体力合計得点（小学５年生）　　Ｔ得点（全国比）

年　　度	Ｒ１年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度
男　　子	45.3	48.0	46.1	49.8
女　　子	42.1	44.8	47.4	49.6

※経年比較

	新体力テストの結果より	研究全体を通して
成果	○20M シャトルランの値が全国平均値を上回っている学年がある（過去数年間全ての学年で全国平均を下回っていた。） ○全国平均以上の項目数が前年度より２倍近く増えた。	○ボール運動領域の授業実践を通して、児童自らルールの工夫を提案したり、チームの特徴に応じて用具や作戦を選択したりする姿が見えた。 ○分析ツールを活用することで、データ（根拠）をもとに課題を設定することができた。
課題	△握力、50M 走の値が全学年全国平均値を下回っている。 △体力合計得点（小学５年生）が全国比をまだ下回っている。	○運動領域と保健領域を関連づけた指導計画が不十分である。 ○全校体制で行う体育的活動の推進が不十分である。

南城市立大里中学校	連絡先　TEL：098-945-2442 Ｅメール：oochu-kyoutou@edu.nanjo.okinawa.jp

【沖縄県教育委員会研究指定校】
研究主題　「主体的な学習を促す組織的授業改善の推進」
サブテーマ
～数学科における振り返りシートの工夫と単元の核となる授業の探求を通して～

1　実践事項（研究指定校としての取組）

⑴　「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する理論研修
⑵　各教科の実践発表を通した「参観の視点」の共有化
⑶　数学科における取り組み
⑷　「主体的に学習に取り組む態度」を高める手立ての工夫

2　実践内容

⑴　「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する理論研修

①　6/29(木)オンライン講話
演題：「生徒一人一人が主体的に学ぶ授業づくり」
講師：お茶の水女子大学附属中学校　藤原大樹教諭

参加者は本校職員だけではなく、南城市内の算数・数学科の先生方にも参加を募りました。最近の国の教育施策のお話しから、ご自身の中学校数学の指導を例に、問いを生む教材の選び方や、生徒が問いを発したくなる授業の準備など、お話ししていただきました。

中でも、結果・過程の見通しと結果・過程の振り返りを含む、４つの「見通す・振り返る」学習活動については、数学科だけでなく、他教科の先生方にとっても授業改善のヒントになったようでした。

講話のあとは、参加者同士で講話の内容をシェアする時間を設け、学習の振り返りの方法について、お互いが気軽に意見交換ができた充実した研修会になりました。

最後に藤原先生が講話の中で、主体的に学習に取り組む態度を見取るだけではなく、「高める指導」が重要だと述べられていました。この研修を機に、本校は「主体的に学習に取り組む態度」を「いかに見取るか」だけでなく、「いかに高めるか」へと視点をシフトしていくことになります。

【結果の見通し】
達成すべきゴールを見据え、イメージすること
【過程の見通し】
ゴールへの手順を把握したり方法や手立てを考えたりすること

【結果の振り返り】
得られたものの意味や価値を明確に意識化すること
【過程の振り返り】
課題解決に至るまでのプロセスにおける要点を把握すること

⑵　各教科の実践発表を通した「参観の視点」の共有化

①　8/23(水)校内研修：「主体的に学習に取り組む態度」を高める指導と評価について

6月のオンライン講話を受け、夏休みの校内研修では、「『主体的に学習に取り組む態度』を高める指導と評価」について、各教科で実践している内容を発表してもらいました。具体的には「粘り強く取り組む力」と「自己調整力」を高める指導、また、それらをどのように見取り、評価に繋げるかについて発表がありました。

その後、各グループに分かれ、先ほどの各教科の発表内容に共通していることは何かについて話しあいました。話しあい活動をより焦点化するために、**「粘り強く取り組む力を高める指導」**と**「自己調整力を高める指導」**の２つの視点を決め、各グループから授業改善の取り組みに関するキーワードを発表してもらい、本校の授業改善の視点として次のようにまとめました。

①粘り強く取り組む力を高める指導の視点

個人の目標や課題解決の見通し・道筋を持たせる指導の充実を図る

②自己調整力を高める指導の視点

協働的な学びを通じたアウトプットの機会と振り返り活動の充実を図る

②　9/15(金)校内研修：数学科主事招聘研究授業（全体研修）

9月15日(金)に本校数学科大村智子先生による３年数学の授業を全職員で参観しました。授業参観の視点は８月の校内研修で共有した前述の２つの授業改善の視点です。お隣の大里南小学校の先生方（４名）にも参観していただきました。

既習事項を振り返り、発問を工夫することにより、生徒に新たな視点を与え、多様な解決方法を引き出す。

生徒同士でお互いの解決方法をアウトプットし、比較したり、教え合う協働的な学びの場面を設定した。

授業改善の２つの視点をもとに、授業リフレクションを行い、各グループのまとめを発表、全体で共有しました。

【島尻教育事務所　奥原絵理子指導主事】
具体的な子どもの姿（予想反応）で授業をデザインしましょう！子ども目線で！

③　10/30(月)校内研修：島尻教育事務所教科総合訪問（全体研修）

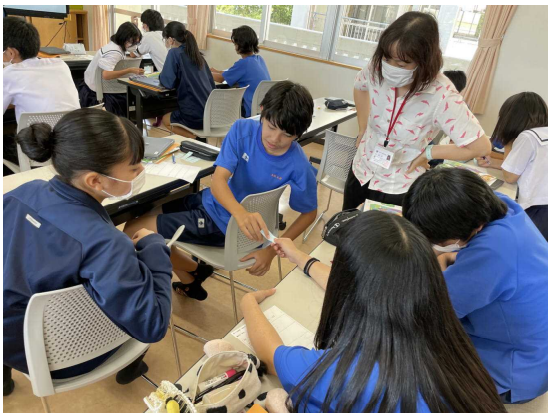
10月30日(月)に島尻教育事務所教科総合訪問を行いました。今年度は、国語、外国語、道徳、特別活動で公開授業を実施。その後、各教科部会で授業リフレクションを行い、各教科指導主事から貴重な助言を賜りました。

【国語（３年２組)】　授業者：糸洲里南 教諭
（単元名）実行委員会へ提案！持続可能な「ふる伝」を目指して

【指導助言より】
○生徒の興味・関心をしっかりと引き出しながら、自分たちで解決していく必要性を感じて学んでいる姿が見られた。
●「立場」を明確に意識させ話し合うのは難しいところではあるが、今後の研究を続け、授業づくりに生かしてほしい。

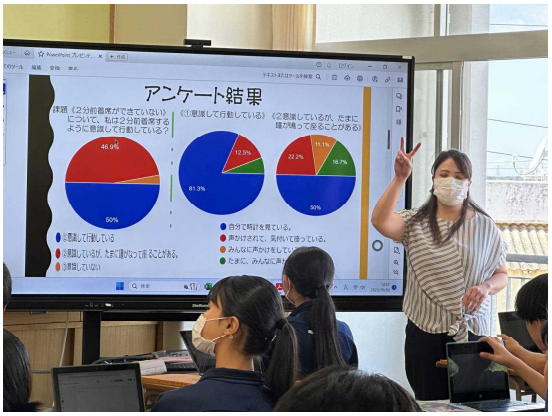
【外国語（３年１組)】　授業者：金城綾香 教諭
（単元名）Program ５　The Story of Chocolate

【指導助言より】
○生徒が中心の授業展開、丁寧な言語活動の設定、学級の支持的風土、生徒同士の学び合える雰囲気等から、授業力・指導力の高さが感じられた。
●１時間における活動を精選し、メインの言語活動の時間を十分に確保することで、更なる言語活動の充実を図るとよい。



【道徳（２年２組）】　授業者：照屋紗苗 教諭
（単元名）「自分」ってなんだろう

【指導助言より】
○中心場面において、友達の考えに触れ、考えられるようタブレット端末を活用し、多様な意見を取り上げていた。
●深い学びへ繋げるためには、導入でのアンケートやテーマ、展開での言葉の贈り物、リフレーミングの活動を教材での学びと結びつけ、さらには自分との関わりで考えさせるとよい。



【特別活動（２年１組）】　授業者：兼元稚佳 教諭
（単元名）２年１組レベルアップ作戦会議③

【指導助言より】
○ＡＩテキストマイニングやジャムボードを活用し、生徒が思っていることや考えていることを効果的に引き出していた。
●生徒の発言で注意すべき場面では、教師が毅然とした態度で適宜声かけを行い、みんなでより良い学級集団を創ろうとする雰囲気を大切に育ててほしい。

⑶　数学科における取り組み

①　「単元の核となる授業」について

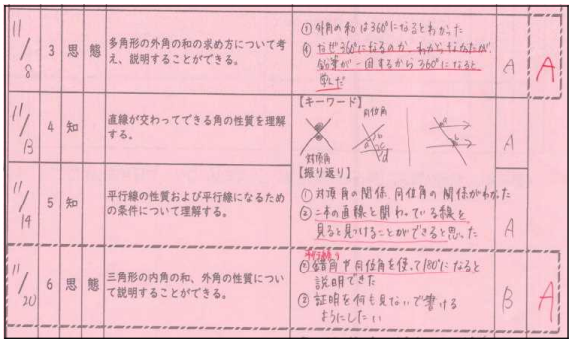
「単元の核となる授業」とは、単元の第１時から身に付けてきた力を十分に発揮して、生徒が試行錯誤しながら、自立的に協働的に問題を解決する授業を意味し、島尻地区の算数・数学科の研修会や公開授業で共有されている内容です。単元の中では主に、既習事項を使って問題を解決する発展的な内容を扱う場面が多く、本校数学科では、「単元の指導と評価の計画」や「振り返りシート」に単元の核となる授業を位置付けています。また、１つの学年を複数の教師で担当しているため、毎週の教科会等で単元の核となる授業について検討しています。

/	6	知	思	符号と絶対値での加法の計算の仕方がわかる		
/	7	思	態	加法の交換法則・結合法則のよさについて考える		
/	8	知		減法の計算の仕方がわかる		

単元の核となる授業を太枠で明示した

②　振り返りシートの工夫について

単元の指導と評価の計画をもとに、各学年の担当で振り返りシートを作成しています。４月当初は全学年統一した振り返りシート（毎時間の振り返りと自己評価を記入する）を使っていましたが、単元が進むにつれ、学年の発達段階や学習状況に応じて、各学年で工夫を重ねてきました。例えば、１学年では、小単元を１つのまとまりとして捉え、毎時間の授業の繋がりを意識して振り返りさせたいという意図から、毎時間の振り返り記入を小単元ごとの記入に変更しました。



大事なことばやキーワードを追記し、小単元ごとに振り返りを記入する

③　9/18(火)教科研修（数学）：藤原大樹先生招聘公開授業

9月18日(火)に６月の校内研修でお世話になったお茶の水女子大学附属中学校藤原大樹教諭をお招きし、「主体的な学習を促す効果的な指導と主体的に学習に取り組む態度の評価」のテーマで示範授業並びに公開授業を行っていただきました。

午前中は示範授業の後、大里中学校数学科が同じ内容の授業（再現授業）を行い、午後からの公開授業並びに講演会には島尻地区内の小中学校の先生方50名余りが参加しました。

示範授業より。生徒の発表のときの教師の立ち位置が重要。聞き手側の生徒の表情から理解状況を見取る。

示範授業の板書をもとに、授業リフレクション。数学教科会で活発な意見交換が行われました。

午後の公開授業より。意図的な机間指導で、子どもやる気を促す。

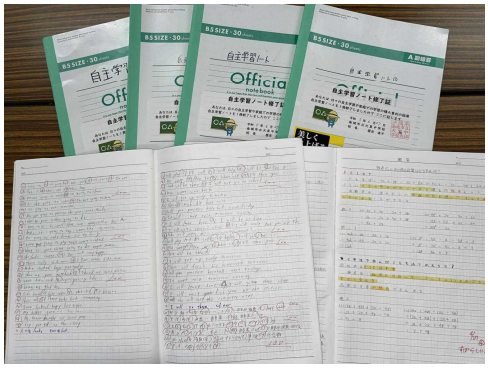
藤原大樹先生による講話。大里中数学科並びに島尻地区数学科の先生方のために、ありがとうございました。

⑷　「主体的に学習に取り組む態度」を高める手立ての工夫

①　自主学習ノートの取り組み

今年度から自主学習ノートの取り組みを始めました。４月に生徒全員に自主学習ノートを配布し、ノートを１冊終わるごとに担任を通じて校長先生にノートを提出します。ノートに修了証を貼付して生徒に返却され、新しいノートを学級担任からもらいます。

ノートは毎週木曜日の放課後、学習委員会が回収、チェックしています。



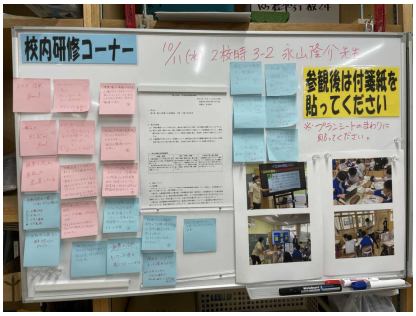
生徒会学習委員会が週１回チェック

②　校内研修だより等を通した授業改善の取り組み

校内研修だよりでは、校内研修の様子や感想などを振り返ったり、全国学力・学習状況調査の結果分析を共有するなど、授業改善や学力向上に関する情報を提供しています。

また、職員室に校内研修のコーナーを設け、一人一公開授業の告知や授業後の感想を付箋紙で貼付したりすることで、公開授業を参観できなかった職員もどんな授業だったかを共有する場として活用しています。さらに、全体研修後の授業リフレクションで使ったシートも職員室内に掲示し、職員全体の授業改善に対する雰囲気づくりを心がけています。

一人一公開授業後のリフレクションの様子。教頭先生も入っていい光景です。



職員室内に校内研修コーナーを設置。貼られている付箋は、後日、授業者に渡します。

公開授業後に感想が書かれた付箋を見ながら、自身の授業を振り返る。

３　成果

○　沖縄県児童生徒質問紙調査の質問⑽、⒀の結果より、生徒同士の話しあい活動を通じて自分の考えを深めたり、決めたことに協力して取り組む姿勢が見られた。

	質問	７月(%)	12月(%)
⑽	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	86.8	87.8
⒀	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。	85.7	88.1

※あてはまる、どちらかといえばあてはまるのいずれかを回答した割合

○　教師向けの学校評価アンケート「授業では生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできるよう工夫している。」の肯定的な回答率が89.7%(7月)→94.4%(12月)であった。「『主体的に学習に取り組む態度』を高める授業改善の２つの視点」について全職員で考え、共有することで、授業改善に対する意識が高まった。

○　外部講師を招聘し、南城市、島尻地区合同の研修会を実施することができた。

○　数学科において、核となる授業の設定について検討したり、振り返りシートの工夫・改善に取り組んだりすることを通して、教科会を充実させることができた。

４　課題

●　沖縄県児童生徒質問紙調査の質問⑻、⑼の結果より、課題解決の見通し・道筋を持たせたり、粘り強く課題に取り組む力を高める指導を充実させたい。

	質問	７月(%)	12月(%)
⑻	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	59.2	49.7
⑼	これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	82.9	78.2

※あてはまる、どちらかといえばあてはまるのいずれかを回答した割合

●　他教科の授業を参観する職員が昨年に比べて増えたとはいえ、まだ消極的である。

●　授業改善の２つの視点をどのように効果的に学習評価に繋げればよいか、検討する必要がある。

【報告書様式】　　令和５年度

南城市教育委員会生涯学習課	連絡先　TEL:098-917-5369 E メール：yagi00580@city.nanjo.lg.jp

１　実践事項

タイトル：「特色ある取組み」

２　実践内容

地域学校協働活動において、学校支援ボランティアのスムーズなコーディネートをすることを目的に公式 LINE を活用し、地域連携担当教諭との効率的な連携に取組みました。また、地域学校協働活動の活動事例やコーディネーターの役割を学校に周知するため、活動新聞を発行し学校職員への認知を広げる取り組みを行いました。

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

４　成果

公式 LINE を活用することで、要請内容を的確に把握し、地域コーディネーター同士で情報共有することでスムーズな人材のコーディネートをすることができた。公式 LINE を活用できていない学校もあるので、地域連携担当教諭への連携の仕方をレクチャーしていく必要がある。

５　課題

地域連携担当連絡会において公式 LINE の活用方法や地域コーディネーターとの連携方法について説明を行っているが、未だ全教員への認知が行き届かず、生涯学習課に電話の問合せが来るケースがある。また、学校支援ボランティアの要請においても直前に依頼が来る場合があるため、教員間で年間スケジュールの管理や引継ぎがうまくできていないのが課題である。学校の年間スケジュールを管理し、計画的な取り組みができるようコーディネーターがフォローしていく必要がある。

令和5年度　南城市幼小連携事業実践報告

南城市幼児教育センター

令和５年度の幼小連携事業は新年度初めにスタートカリキュラムの実践紹介を皮切りに、小学校１年生の授業参観・公開授業、そして幼児教育施設の公開保育をすべて終えることができた。幼小連携事業を進める中で成果や課題を確認することができた。

令和５年度より
本事業の名称を改める
南城市幼小連携事業とする
幼＝保育園・こども園・幼稚園
　　幼児教育施設を称する

１　取組内容（計画）

（１）「スタートカリキュラム」の実践紹介
（２）小学校１年生の授業参観及び振り返り（意見交換）
（３）公開授業及び合同研修会　「玉城小学校」
（４）公開保育及び合同研修会
　　「玉城こども園、おおざと保育園、馬天保育園、おひさま保育園」

２　幼小連携の実際

（1）スタートカリキュラムの実践紹介〈実施日〉令和５年4月4日（火）、〈場所〉南城市役所・大会議室

〈趣旨〉

小学校教諭が一堂に会し「スタートカリキュラム」の実践発表を通して、各学校のスタートカリキュラムの充実と教諭の実践力向上に資する。

〈内容〉

・発表者：金城　愛梨　南城市立大里北小学校教諭
・スタートカリキュラムの実践紹介
　①スタートカリキュラムの必要性
　②スタートカリキュラムの実践
　③合科的・関連的な授業

金城愛梨先生

〈参加者〉

・小学校１年生担任１５名、情緒学級２名、その他２名、行政６名

〈成果〉

・入学式前の実践発表で多忙な中を各学校からの参加があり、とても参考になりすぐに実践していきたいとの感想が多く寄せられた。
・入学前にスタートカリキュラムの実践紹介をしたことは時期的に良く効果的であった。

〈課題〉

・小学校一年生担任になりスタートカリキュラムの存在を知ることになるが、小学校の職員全員がスタートカリキュラムのことを知っているかと言えばそうでもない。（アンケートより）
・南城市以外から転勤してきた職員の中には、スタートカリキュラムを知らない職員もいる。

〈改善策〉

・校長がスタートカリキュラムを編成するとあり、学校全体で取り組むことが重要である。
・各小学校では、スタート期に小学校一年生の授業参観を実施している。２年生～６年生担任も自校の一年生の授業参観をしてスタートカリキュラムに関心を持つようにする。

〈その他〉＊研修会に参加者からの感想

・今年度１年生を担当するのでとても参考になりました。具体的な実践事例をたくさん紹介してもらったので、早速持ち帰り学年で共有し真似します。スタカリは１年生を小学校に慣れさせる期間やルールを教えるというイメージがありましたが、全然違うことが良く分かりました。
・子供達に聞いてみる、任せてみる、待つという姿勢が大事だと思いました。私自信も子供達と楽しく過ごすことができるといいな、とワクワクしてきました。ありがとうございました。

(2)小学校一年生の授業参観及び振り返り(意見交換)〈実施日〉4月19日～5月16日

〈趣旨〉

小学校入学間もないスタート期の授業を参観したり振り返ったりして、幼児教育施設の職員と小学校職員との対話を通して幼児教育で培った学びや育ちを小学校教育へつなぐ。また、語り合うことで双方の保育・教育の理解を深める。さらにスタートカリキュラムに生かしていく。

〈方法〉

・授業参観　８：１０～９：３０　・振り返り（意見交換）１５：３０～１６：４５

・「授業の振り返り（意見交換）」の司会は小学校の職員が務める。・記録係は行政が担当する。

・小学校長、幼児教育施設長の参加を必須とする。

〈授業参観と授業参観の振り返り（意見交換）の様子〉

期日・実施校	授業参観の様子・振り返り（意見交換）の様子
百名小学校 4月19(水) 参加者 午前　１７名 午後　１５名	
幼児教育施設から → 小学校から→ 幼児教育施設から	・我がこども園から２０名ほど百名小学へ入学した。本日は色々な子供との関わりが見られて良かった。９月にもう一度授業参観してみたい。 ・保育園では遊びこみ楽しんでいた子ども達は今どのようにしていますか、今までの良さは生かされていますか？昆虫の大好きな〇〇君でした。 **・幼児教育施設では先生方は幼児にどのような言葉かけをしているのか知りたい。** **・保育園では子ども達に考えさせるようにしている。すぐに答えを出さない。**
馬天小学校 4月20日(木) 参加者 午前　１６名 午後　１３名	
幼児教育施設から → 小学校から→	・体を動かしてから授業に移るのは子供達にとって入りやすいのでいいと感じた。脳が活性化するので自園でも朝登園すると体を動かす取り組みをしている。 **・保育園と同じような雰囲気でいきいきとしていた。子どもたちに考えさせているところが良かった。** ・教室の真ん中にテーブルが配置され、会話を楽しんで好きな遊びができる環境はいいと思った。 **・1からのスタートで、カバンの置き方、トイレの使い方、給食の仕方等を先生が教えていた。今は、子どもから聞きながらひとつひとつ進めている。** ・宿題も子どもの実態に合わせて出していく。まだ文字に抵抗を示す子が２名程度いるため線遊びを宿題にしている。 ・今まで勤務していた学校では泣いている姿がよく見られたが、馬天小学校ではそのような姿が見られない。遊びを通して満足することで、他者への関心へ向かう。保育園、幼稚園等で年長児としてできる子たちが一年生になって、できない存在になっていたところがあったので、自分たちはできる！を伸ばしていきたい。 **・このように集まるといいアイディアがある。今後も情報交換の場を持っていけたらいいと思う。先生方の指示の仕方も変わってきた。子ども達にとって分かりやすい環境作りをしていきたい。**

<table>
<tr><td>大里北小学校
4月25日(火)
参加者
午前　３０名
午後　２６名</td><td> </td></tr>
<tr><td>幼児教育施設から
→</td><td>・３組の一人がけん玉に夢中になっている姿が良かった。参観者に対し「できるよ」と話しかけ自慢していた。けん玉等の道具が少し足りないのではと感じた。
・のんびりタイムの2組さん。折り紙で手裏剣をそれぞれ夢中になって製作していた。学校探検の忍者のイメージに合わせて作っていることが分かった。
・コの字型のスペースで、子供達が真ん中に集まる姿が良い。児童に対し指示命令ではなく、子供達が主体的に子供に問いかける、投げかける声かけをしている。
Q1 なぜコの字型に机を配置しているのか？
・今日 4/25(火)が保護者の読み聞かせのスタートの日であった。外部の人（保護者読み聞かせ）の読み聞かせの時期が、早いのではないかと思う。担任が読み聞かせをするといいと思う。
・遅刻した子に対しての対応。「待ってたよ！」「君が来てくれてうれしい！」とその子の存在を認め、安心感を与えている。
・授業参観の振り返りの終了後、１年生担任と卒園した児童の様子や成長を話す時間を共有できることはとても大切だと思う。と同時に今後もこのような取り組みを継続してほしいと感じた。</td></tr>
<tr><td>小学校から→</td><td>・Q1 への回答　コの字型に学習机を配置している理由について
子どもと言葉のやり取りや表情をみてコミュニケーションが取りやすい。
・１組：学校探検が案内になっていないかが気になるところ。国語の授業であったが、自分達で教科書を準備するなど学びに向かう姿が見られた。
・２組：学校探検の振り返りでは「部屋がわからない」という子に対し、どうしたらいいか尋ねると、「ひらがな勉強しよう」と子ども達の声が聞かれた。楽しみながら学びに広がっていく、字を読むために平仮名を勉強したいと学びに繋がっていくのだと感じた。また、字が書けない子は絵を描く姿や２年生が平仮名の読めない子に対し、絵を描くなど「思いやり」の姿が見られた。
・３組：探検の服作りでは、2組の友達の衣装を見せイメージを膨らませられるようにし、自分達で衣装作りを進めているので、ワクワクしながら楽しんでいる姿が見られた</td></tr>
<tr><td>佐敷小学校
4月26日(水)
参加者
午前　２１名
午後　１７名</td><td> </td></tr>
</table>

幼児教育施設から →	・すぐに授業に入らず園でやっていたことを楽しみながらスタートし、授業に入りやすいと思う。動きもあり、絵本読み聞かせもあり静と動のバランスが良かった。
小学校から→	**Q：一年の教室隣に中庭があるが、子供達が遊ぶ姿が見られないのはなぜ？** **A：5校時前の長い休み時間には遊べる。今はまだ5校時がないので遊ばせていない。**廊下の製作コーナー、１組側のテラスで縄跳び、長縄など自由に遊べる環境がある。
幼児教育施設から	・小学校のスタートカリキュラムを見たいと思った。
小学校から→	**Q：なかよしタイムでリズム遊びや踊りなど「僕は絶対にやらない」と動かない子がいる。保育園やこども園等ではどうしているか？**
幼児教育施設から	**A:信頼関係つくりが大事では？子どもは、先生を試したり駆け引きしたりする時がある。のんびりタイムでこの子と関わってみたらどうでしょうか。**
小学校から→	**Q：現在、一年生が掃除をどの程度できるか分からない。園ではどのように掃除をしていたか知りたい。「佐敷小学校の掃除の仕方」を１年生から６年生まで共通実践をするため、6 年生に教えてもらっている。 ①机寄せ ②隅からはく ③ふく 手順を教えてもらった子をリーダーにして掃除を進めていく予定。**
幼児教育施設から →	**A：園では、年長組になると当番活動として掃除も分担してやる。飼育当番、水やり当番給食当番、床拭きなど当番表で役割分担して行っている。(保育者)**
小学校から→	**・各園の掃除の仕方を一年生に考えさせてはどうでしょうか。方法は色々あると思う。** **・小学校は 15 分しか掃除時間がない。当番にすると当番でない子の管理が難しい。** ・小学校では大きく時間をつくってやることが難しい。そこの壁をどうするか。スタートカリキュラムの取組だと思う。・幼児期の積み重ねを大事にしていきたい。
行政から　→	・のんびりタイムで活動（縄跳びや製作等）を授業へつなげることはできるのか。のんびりタイムの振り返りをやってはどうか。少しの時間でもいいと思う。
知念小学校 4月27日(木) 参加者 午前、１３名 午後、１３名	
幼児教育施設から →	・自分の意見をしっかり伝えていたので、成長を感じた。授業に意欲的に参加し１年生を楽しんでいる様子が伺えた。 ・園のウサギは死んでしまったので、小学校でウサギの世話ができる環境があり良かった。中庭ではウサギがたわむれていて温かさを感じた。 ・トイレのスリッパを揃えるなどトイレの使い方がとても上手にできていた。 **・幼小連携をすることで、小学校の環境、和式トイレがある事がわかり、保護者の方へ伝えることができる。** ・スタートカリキュラムの日案を準備していただき、とても参観しやすかった。 ・貨物列車のルールを変えると、新たな楽しみが増えると思うので、ぜひルールを変えてみてはどうでしょうか？
小学校から→	・のんびりタイムでは、今年度は８：２０までのんびりタイムの時間を延ばすことでウサギと触れ合い仲良くなる機会を設けることができた。 ・なかよしタイムでは、踊ったりジャンケンをしたり楽しい雰囲気の中、スムーズに実施できるようにしているが、計画通りいかないこともあった。

船越小学校 5月9日(火) 参加者 午前、２３名 午後、２２名	のんびりタイムの様子
幼児教育施設から → 小学校から→	・自分達で考えながら遊んでいる。駒で遊んでいる子はどのようにしたらうまく回せるのか何度も挑戦したり、友達の見たりしていた。 ・遊びの環境がすごい。下から上へ投げる環境がすごくいい工夫がある。上履きで広場に出ることができる環境で遊びがスムーズにできていた。 ・のんびりタイムで楽しそうな姿を見て安心した。遊びこみのできるコーナーを設置しているのも良かった。考えながら遊んでいる。友達の様子をみながら一人一人が伸び伸びと遊んでいた。 **・朝登校したら所持品の片付けをして自由に遊ぶようにしている。校長のアドバイスがあり外の遊びをやるようにした。そこでは、他の児童との関わりがある。5年生との交流もできている。好きな人(友達)と好きなことができる空間となっている。**
大里南小学校 5月16日(水) 参加者 午前、３４名 午後、２６名	
幼児教育施設から → 小学校から→	・教室の奥まで入っていく時に静かに入っていた。場に応じた行動を見みることができた。短期間でこのような成長が見られて感動した。 ・絵本の読み聞かせをした後に、絵本を廊下と教室の間に置いていた。興味を示した子は休憩中に絵本を見ていたので、環境的に良いと思った。 ・挨拶が形式になっている。挨拶に気持ちが入っていない。挨拶は型にはめない。 ・先生の声のトーン、関わりが良かった。文字や絵カードを使っての授業が良かった。・授業が終わる時に次の授業の準備をしての休み時間にはいっていた。 ・新園舎のため、我園の地図を作ろうということになった。子ども達は絵を描く、写真やその他の絵は先生が役割を分担。完成した地図は保護者に掲示する。今日の１年生の活動が繋がっていると感じた。 ・幼児教育では、子ども達に気づかせたり、気持ちを引き出したりすることを大切にしている。６組の探検掲示では、ドキュメンテーションのように絵や字で書いていて良かった。 **・入学当初から、スタートカリキュラムを実践。最初の頃は、のんびりタイム、なかよしタイムとゆるやかに小学校に慣れるように実践してきた。**

幼児教育施設 → 小学校から→	・探検に行く前に、感覚カードを使って（目・耳・鼻・触る）など五感を使って学校探検をするようにした。探検後は付箋に書く時間が足りなかった。 ・のんびりタイムでは、もっと遊びがあっても良いのではと思います。4 月（のんびりタイム）でいっぱい遊ばせ、授業では子ども達の意見を聞いてあげる等。 **グリーン広場での遊び方は、学校でルールが決まっている為、全職員で検討していく。**

（3）玉城小学校（公開授業実）の記録 〈期日〉令和5年5月18日（木）

〈趣旨〉

公開授業を通して幼児期の生活が小学校の生活科へどのようにつながっているか。又、幼児教育から小学校教育への「主体的・対話的で深い学び」の授業や保育はどのように展開されているのか双方の教育について語り合い理解を深めていく。

〈内容〉

・公 開 授 業　玉城小学校１年生教室
・合同研修会（ワークショップ・指導助言・講話）　南城市役所・大会議室
　演題　：　幼児期からつながる生活科　～主体的・対話的で深い学びへ～
　講師　：　宮城　利佳子　氏　琉球大学教育学部 講師

〈成果〉公開授業後の振り返り・玉城小学校）

・遊びの中での会話が、小学校でのグループ活動の話し合いで自分の思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いたりすることにつながっていた。
・子ども達との会話を通して、こども園で育んだ力を小学校生活にも生かせるよう一緒に考えることができた。（折り合いの付け方、言葉かけの仕方、遊び方のルール等）

〈課題〉

・子ども達のやりたいという思いを尊重し、活動時間を多く取り授業を進めていたが、自由に活動する児童が多くいたため振り返りや次時への見通しを持つ時間を十分に取ることができず、次の活動へ期待感を持たせることができなかった。

〈改善策〉

・子どもの思いを尊重しつつ、静かに話を聞くことや時間を見て活動する大切さ等の基本的学習規律を教えていく。

〈授業参観の様子〉生活科の授業「がっこうたんけん」：見たこと感じたことをグループで話合う

〈ワークショップの様子〉授業の振り返り：授業者　グループ協議：授業参観視点から協議する

（４）公開保育及び合同研修会の実施　こども園（1園）、保育園（3園）

〈趣旨〉公開保育を通して、幼児期の発達や学びを理解し、「子どもの姿」を中心に幼小中の職員が語り合い、切れ目のない教育を目指す。

〈時期〉夏休みに保育参観・合同研修会の実施をする。（夏休みは小中学校教諭も参加しやすい為）

〈時間〉公開保育９：００～９：５０　合同研修会１０：１０～１２：００

〈参加者〉Ａ～Ｄの４ブロックに分かれて実施。全中学校へも合同研修会へ参加を求める。

〈場所〉合同研修会の場所は小学校を活用する。その他

〈方法〉合同研修会は、各ブロックで司会進行・記録係を割り当て実施する。
講師を招聘　宮城利佳子氏　琉球大学教育学部講師

〈実施要項〉

①はじめの言葉　②園長あいさつ　③保育者の振り返り（前日までの保育発表）
④指導助言と視点の説明　⑤ワークショップ（グループ協議・発表）
『ワークショップの視点　☆主体的な保育の展開　☆遊びこんでいる姿』
⑥講話・演題：「幼児が主体的に遊びこむ姿をめざして」
～幼児期から児童期へと切れ目のない教育へ～

【玉城こども園・7月28日（金）】玉城地区（３小学校・中学校、幼児教育施設、行政、その他）

〈参加者〉幼児教育施設 18 名　小中８名、中堅研教諭８名、行政９名、琉大生１名　計 44 名

〈公開保育の様子〉９：００～　９：５０　＊保育参観終了後玉城小学校へ移動

〈合同研修会の様子〉　玉城小学校１０：００～１２：００　司会：小学校教務

〈成果〉

・７月現在は４月、５月より遊びこんで過ごす姿が見られた。

〈課題〉

・公開保育当日の振り返りがあまりできてなかった。子ども達が遊び込むための環境構成の工夫。

〈改善策〉

・子どもの声やつぶやきを拾ったり、保育の振り返りの時間を作ったりするようにする。

〈指導助言〉

・朝の集まりのもちかた（必要性について考える）　・子ども達の意見を制限していないか。
・大人が作った環境になってないか　・保育参観をしたいと申し出る園がたくさん出てほしい。

〈その他〉　＊参加者からの学びや感想

・先回りしすぎない、保育者と一緒に試行錯誤する、「なんでだろう」と問いかけて考えさせることを大切にしたいと思った。
・０歳からの遊びについて学べて良かった。自園でも“遊びこむ”環境づくり、時間の使い方を考え直し、保育者同士話し合って子どもの遊びの探究が深められる保育をしていきたい。

・子どもを主体的に学ばせるには、まず環境の整備が大切だと感じた。中学校にも言えるなと感じた。自分で学びを選択できるよう授業改善につなげていきたい。
・居場所、信頼感、ドキュメンテーション。いろいろなキーワードを聞くことで中学校でも必要なことを考えるきっかけとなりました。

【おおざと保育園・8月15日（火）】 大里北小区（中学校、大里北小幼児教育施設、行政、その他）

〈参加者〉幼児教育施設 18 名、小中 11 名、その他８名、行政９名、計４６名

〈公開保育の様子〉おおざと保育園　９：００～９：５０

地域の行事に参加した子ども達！
土俵を作りお相撲ごっこが始まった

〈合同研修会の様子〉大里北小学校　１０：００～１２：００　司会：小学校１年生担任

〈成果〉
・公開保育を通して園内研修を深めていく事が出来た。保育を具体的に振り返りアドバイスをいただく事によって、子どもの姿を捉え保育の展開につながった。
・職員が同じ目標に向かってお互いを認め合い学び合い質の向上への第一歩となった。

〈課題〉
・園内の自然環境の見直し、園庭での水遊びの発展、植物・植栽計画、虫や蝶を呼ぶための環境が不十分である。

〈改善策〉
・園内研修で共通理解をし、環境の改善等を伝え合いながら子どもに合った、園に合った環境作りを進めていく。

〈指導助言〉
・同僚性。年上からも年下からも学ぶ誰からでも学ぶ、フラットな関係性・完成形を求めない。
・保育者同士で子どもの成長を分かち合う。次週の計画（願い）、遊びこむことについて語る。
・環境構成。
子ども達は園内すべての場所でわくわくし、自由に使える環境。できる限り制限しない。
・保育者の援助
ゆったりとした雰囲気で、先回りしすぎない保育者も一緒に試行錯誤する。遊びの持続、探究へ。探究を子どもに見える形にしていく協働的に（記録する、調べる、表現する）

〈その他〉　＊参加者からの学びや感想
・子ども一人一人が自分の意志を尊重され意思決定し行動できる（遊びに没頭・集中する）からこそ主体的に意欲的に遊びこんでいけると感じた。朝の会をなくし十分遊べる時間の工夫と環境を作りしていた。
・先回りしすぎない適切な保育者への援助が素晴らしい。一緒になって寄り添いながら子どもの遊びを膨らませ、イメージできるような声掛けが良かった。

・子ども自身がやりたいことにむかって他の子ども達と協力しながら探究していく姿を、小学校でも問いが生まれる授業へと繋げていけるようにしたいと思った。
・幼小接続について幼児期の遊びが児童期へとつながる事、その具体例を見ることができ、小学校での環境や言葉かけ子どもとの関わり方を授業づくりに生かしていく。

【馬天保育園　8月18日(金)】 佐敷地区小学校・中学校、佐敷地区幼児教育施設、その他

〈参加者〉　幼児教育施設１８名、小中７名、その他１名、行政８名、計３８名

〈保育参観〉馬天保育園　９：００～９：５０＊保育参観終了後南城市役所へ移動

〈合同研修会〉南城市役所　１０：１０～１２：００　司会：子ども保育課係長

〈成果〉
・子ども達が自由に好きな遊びに集中したり、友達と協力したりしながら遊びを展開することができ、遊びこむ環境を確立できた。
・子どもたちが遊びこめる環境について考える良い機会となり、環境の大事さに気づいた。

〈課題〉
・子ども達の創造力や探究心が育つような環境。遊びこむ為の関わりが不十分であると感じた。

〈改善策〉
・子ども達の発達に応じて遊びを工夫し、子どもの姿から環境を整え改善していく。
・遊びこむ為に、一日の時間配分や職員の配置等の工夫をしていき保育の質向上を図っていく。

〈指導助言〉
・環境を整える→おもちゃは、いつ、どのくらい必要なのかを考える
・援助→保育者はどの遊びを発展させたいのか、願いをもつ、保育者は子どものパートナーになる
・子どもと対話する→子どものつぶやき保育を広げる。保育者の声量、安心感。

〈その他〉　＊参加者からの学びや感想
・わらのお家で、家賃なども話し合って決め遊びを楽しんでいる。その中で作りたいものがあったら廃材コーナーから材料を見つけ作っている。遊びがさらに広がっていた。約１時間ずっと集中して自分がイメージしたものを製作し、遊び込み集中する姿が見られた。
・オタマジャクシのビオトープ、わらの家、絵本からのアイスパーティー。子どもの願いや、イメージに寄り添い実現できるよう援助を行っている。中学校ではなかなかできないけど改めて大切なことに気付くことができた。
・中学校の校長先生も参加されていて、保育園での課題や小学校以降について欲しいこと等の意見が聞けたので良かったです。

【おひさま保育園・８月２３日（木）】大里南小区、大里中学校、大里南小幼児教育施設、その他

〈参加者〉小中１２名、幼児教育施設２０名、その他１名、行政１０名、計４３名

〈公開保育〉おひさま保育園　９：００～９：５０　＊保育参観終了後大里南小学校へ移動

〈合同研修会〉大里南小学校　１０：１５～１２：００　司会：小学校１年生担任

〈成果〉

・これまでの一斉指導から子ども主体の保育へと少しずつ変わることができた。

・日々の保育の振り返りができ質の向上につながった。環境を園全体で見直すきっかけとなった。

〈課題〉

・０～２歳児の年齢の応じた興味関心のある玩具を研究し、職員手作りの玩具を増やしていく。

〈改善策〉

・遊びこむ為の工夫として、登園後すぐに庭や屋上で遊べるような環境を整えていく。

〈指導助言〉

・ドキュメンテーションは、０歳児の読み取りがあり発達していく様子がよく分かる。

・４歳、５歳児が遊びの中で学んでいることを読み取っている

・製作が自由にできるような配置。製作遊びがどんどん発展していく

・色水遊び、シャボン玉遊び、水遊びへの工夫

・どうやったら楽しくなるのか、保育者がワクワクしている

〈その他〉　＊参加者からの学びや感想

・屋上では、水を使った遊び、色水遊び、ウォータースライダー、氷、シャボン玉、はかりで重さを図る環境があり、子ども達は好きな遊びを繰り返し試したり工夫したり満足して遊ぶ姿が良かった。

・小学校・中学校の先生方の話を聞いて。保育園での育ちが大事になってくることを改めて感じた。これからも丁寧な保育を心がけ楽しんでいきたい。

・保育園・幼稚園での文字の読み書きをしっかり教えていると思っていたが、遊びや環境の中に取り入れて自然に学びにつなげていることが分かった。

３　成果･課題･改善策

（１）成果

①一年生の授業参観を毎年行っているが、振り返りが実施されていなかった。その反省から今年度は幼児教育施設長・職員、小学校校長・教頭・1 年生担任、行政がスタート期の授業参観及び授業の振り返り（意見交換）を実施した。幼児期の学びや育ちがうまくひき繋がれているかを子どもの姿を中心に語り合うことができた。双方の保育・教育の違いを理解することができた。

②公開保育及び合同研修会では、小規模（各ブロック）で研修をすることで校区の幼児教育施設、小学校、中学校の職員が対話しやすい雰囲気でワークショップや研修会ができた。今年度は中学校の職員も幼小連携事業に参加を促し、幼児期から小学校教育・中学校教育へと切れ目のない教育へ踏み出すことができた。

③公開保育に向けて指導案の作成等、幼児教育センターと進めることができ一斉指導から子ども主体の保育へ、遊びこむための保育の展開を考えるきっかけとなった。また、指導助言や講話を講師の宮城利佳子氏から専門的な助言を受け保育・教育の質の向上につながった。

④保育ドキュメンテーションの取り組みは２年目となる。今年度は各園の保育ドキュメンテーションを大会議室に一斉に貼り他園の保育ドキュメンテーションから学び合う研修会となった。保育士は保育ドキュメンテーションを作成する中で、幼児理解や保育記録にもなり次期・次週の保育に生かすことができ保育改善につながっている。

（２）課題

①小学校一年生授業参観では、双方の教育の違いを理解するのに留まっている。幼児期で培った学びや育ち引き継がれているか、一人一人の良さが発揮されているかを考えていきたい。

②「子ども達の創造力や探究心が育つような環境。遊びこむ為の関わりが不十分であると感じた。」と公開保育園の課題があげられた。また、保育者主導の保育が見られ子どもが主体的に遊ぶ保育の展開になっていない園もある。

③保育ドキュメンテーションの作成する時間の確保が難しい。保育ドキュメンテーションの目的が十分に理解されてない幼児教育施設がある。

（３）改善策

①スタートカリキュラムの“のんびりタイム”“なかよしタイム”の過ごし方を幼児教育施設の職員と小学校一年生担任と環境や援助の仕方や子どもの姿を語り合い授業改善を図る。また、スタートカリキュラムは、学校全体で取り組むものであり全職員で共通理解をする必要がある。

②子どもの姿やつぶやきを拾いあげ、子どもが主体的に環境に関わり保育の展開ができるようにする。と同時に「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を基に保育の展開、指導案の作成をする。

幼児教育の質の向上を図ることが、小学校教育へ滑らかにつながると確信する。幼児教育が小学校へ合わせる。小学校が幼児教育へ合わせることではなく。それぞれの教育・保育を改善・質の向上を図ることで滑らかに接続できるものであることを共通理解をしていく。

③保育ドキュメンテーション作成の目的や必要性等の共通理解を図り、理解を得ながら実施する。令和４年度の実践事例集を参考にし、保育ドキュメンテーション作成が楽しいと感じられように支援していく。

保護者向けリーフレット

もうすぐ一年生になるお子さんのいる保護者の皆さまへ
幼児教育の遊びは学び!!小学校以降の深い学びへ≪令和6年度版≫

南城市教育委員会　教育指導課 小中学校外国語教育	連絡先　TEL：　098-917-5364 kyouikushidou@city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項

「積極的に他者と関わり，相手と自分の地域や国の特色を知り，
考えや気持ちを伝え合い友好な関係を作ろうとする生徒」の育成
～「言語活動をとおして学ぶ」授業改善を通して～

２　実践内容

（１）目的

「南城市小中学校外国語担当者研修会」「中学校研修の日」に自主研修を行うとともに文部科学省外国語調査官や本市外国語教育アドバイザーを招聘し，講話や演習を通して，学習指導要領で求められている言語活動や評価等について学び，小中連携で外国語の授業づくりの充実に資する。

（２）計画

①小中外国語担当者研修会
②校区内授業参観（小中連携）
③中学校研修の日
④調査官招聘授業研修会
⑤ ALT ミーティング
⑥オンライン英会話（スパトレ株式会社）
⑦ AI 英会話ドリル（Terra Talk ）
⑧ CAN-DO リスト形式での到達度目標作成
⑨他地区との交流授業，外国からのゲストとの授業

３　実践・説明資料

（１）小中外国語担当者研修会　大城賢氏に本市外国語教育アドバイザーを依頼しご指導を賜った。

第 1 回	5 月 25 日（木）	令和５年度の南城市外国語教育について
第 2 回	9 月 26 日（火）	大城賢氏（琉球大学名誉教授）による講話 言語活動を深掘りしよう ～理屈がわかれば網大丈夫～
第 3 回	2 月 2 日（金）	小中連携　中学区内小学校との協働授業計画
第 4 回	3 月 1 日（金）	校区内授業の振り返りと次年度に向けて 大城賢氏による助言とワークショップ

第 2 回　大城賢氏による講話振り返りより

①講話から学んだこと（感想等）

○初めて外国語担当になり不安なこともたくさんありますが，今日講話を受けて「チャレンジさせて達成感を与える」という言葉から児童と共に学んでいくことも大切だと感じました。小学校では慣れ親しんでもらうことが大切なので楽しく,笑顔でコミュニケーションとりながら授業をしていきたいです。言語活動において目的・場面・状況を設定し取り組んでいく事を意識したいと思いました。

○中間指導に関し，言語習得ではどんどん使い，間違いながら言葉を覚えていくように，何度も Try and Error を繰り返し，言語活動を通し適切な指導を行いながら，そこから習得に結びつけていくことで長期記憶に繋がっていくと考えます。しっかりと場面設定を行い今後の指導に活かしていきます。

②今回の研修を受けて，自校においてどのような実践をしてみたいですか？

○一昨年は 5 年生，去年は 3 年生，今年は持ち上がりの 4 年生で系統が見えながら授業を行えています。子供達の実態も受け止めながら，コミニュケーションを大事にした授業を行いたいです。相手意識というキーワードが今日の講話ですごく印象的です。

○今年度は，全学年目的・状況・場面を必ず設定し，それらがある上での言語活動の場を与える事を意識しております。思考・判断・表現の授業は，より深い目的・場面・状況を設定することで，生徒に文法や表現を使わせる意味を理解させることができると感じましたので，これからの program でも設定していきます。

○小学校から実践していることを繰り返し継続していことを心がけていきたい。また，常に目的，場面，状況を考えた指導をしていきたい。

（２）校区内小中連携授業参観

☆は調査官招聘授業を行った学校

	実施校（代表授業◎）		実施日（時間）	実施校（代表授業◎）		実施日（時間）
1	玉城中学校		９月２５日（月） 13：45 ～ 14：35	船越小学校 玉城小学校 百名小学校		１０月 １２日（木） 14：20 ～ 15：05 ※中学校研修の日を活用
2	知念中学校 ☆R4		９月 ４日（月） 13：35 ～ 14：25	知念小学校		１２ 月 ４日（月） １０月 １２日（木） 14：20 ～ 15：05 ※中学校研修の日を活用
3	久高中学校		１１月３０日（木）予定 9：35 ～ 10：25	久高小学校		１１月３０日（木） 8：40 ～ 9：25
4	佐敷中学校 ☆R5		６月 ９日（金）１年４組 2校時 9：50 ～ 10：40 １２月１２ 日（火）３年２組 13：50 ～ 14：40	佐敷小学校 馬天小学校		１２月 ８日（金） 13：25 ～ 14：10 １０月 ２日（月） 9：40 ～ 10：25
5	大里中学校		第１案１０月２６日（木） 11：50 ～ 12：40	大里北小学校 ☆R1 大里南小学校 ☆R2		９月２２（金）５校時 13：40 ～ 14：25 １０月１２日（木）６校時 14：50 ～ 15：35 ※中学校研修の日を活用

①玉城中学校区

②知念中校区

③久高小中学校

④佐敷中学校区

⑤大里中学校区

義務教育課の『「問い」が生まれる授業のポイント（外国語）』をもとに作成した「授業参観シート」を活用し，授業の視点を合わせて授業や参観を行った。外国語教育アドバイザーもほぼ毎回授業参観なさり振り返りで「言語活動を通して学ぶ」授業についてご助言を下さった。

（３）中学校研修の日

第１回	６月　８日（木）	授業でのGoogleアプリケーション活用方法
第２回	７月 13 日（木）	ＩＣＴ機器を活用した授業実践の紹介（各校より）
第３回	10 月 12 日（木）	中学校区小学校への授業参観

（４）調査官招聘授業研修会

＜研究授業＞

日　時：令和５年 12 月 12 日（火）13 時 50 分～

場　所：南城市立佐敷中学校

学　級：３年２組

授業者：T1 仲里　聖子　教諭　T2　Thao La Vang

1. 単元名 Program 6 The Great Pacific Garbage Patch SUNSHINE ENGLISH COURSE p.75~p.84

2. 単元の目標

南城市の魅力を伝え，その魅力を持続可能なものにするために，客観的な事実や根拠をもとに自分の考えや感じたこと，理由などを整理し，簡単な 語句や文を用いて分かりやすく述べる。（単元終末に豊見城市立伊良波中学校の３年生とオンラインで行う）

3. 本時の学習【 4/11 時間】

（1） 目標

南城市の魅力とその魅力を持続可能なものにするために，客観的な事実や根拠を基に自分の考えや感じたこと，理由などを整理し，簡単な語句や文を用いて分かりやすく話す。

（2） 本時の授業の工夫

①聞き手に伝わるような発表を行う。

②聞き手は相手が一番伝えたいことを聞き取り，質問を行う。

③友達からの質問について答えることによって自分の考えを深める。

伝わるように話す

話し手と聞き手のやり取り

練習の成果をプレゼン

佐敷中学校は全校体制で「言語活動を通して」学ぶ授業を実施。４月の全国学力テストの話すこと調査は全国平均を上回った。10 月の英検 IBA でも３年生は高得点。

＜授業研究会＞

講　師　文部科学省 初等中等教育局　外国語教育推進室　教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部
教育課程調査官　入之内　昌徳　氏　（英語）

演　題　学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校外国語科の指導の改善・充実
～コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指して～

＜振り返りより＞

①公開授業を参観して

○学級の雰囲気が大切だということ，苦手でも話したい子が育っていることが凄いと思いました。相手に応じて，確認しながらプレゼンしている子がいたので，素晴らしいなと感じました。

○全員が表現を話している姿を見て，意欲や学力が低い生徒がいないのでは！？と感じるほど，全員が自信を持ってペアと発表し合っている雰囲気に驚きました。魅力的な課題や仕掛けをすることで，自分の思いなどを伝えたいと思うんだなと感じました。ICT を有効に活用したり，電子黒板で共有していたりと参考になる手立てがたくさんありました。

②研修会を通して

○小学校でやってきたことが中学校でも活かされていることを改めて思いました。授業や単元のゴールの設定をしっかりすることの大切さを学ぶことができました。

○子供の伝えたいと思う事を題材設定することでもっと意欲的に学習ができるとわかった。目的，場面状況の設定をしっかり考えて今後の授業改善にいかしたいと思いました。

○小中連携の重要性を強く感じました。小学校で取り組んできたことや積みあげてきたことなどを中学校でしっかりと伸ばして活かしてあげられるように，学習指導要領を読み込み，小中連携に力を入れて取り組んでいきたいと思います。

（5）オンライン英会話（スパトレ株式会社による）

1 人 1 台端末を活用し，生徒と外国人講師が 1 対 1 で 25 分間オンライン英会話を行う。本年度は経済産業省の補助事業を受けて小学校 3 校がスパトレ株式会社のプログラムを 9 月後半から 1 2 月まで受講。市内中学校は，全校全学年 1 人 3 回実施の機会を設定した。授業で習ったことを発揮する機会に児童生徒は集中して取り組み，回を重ねるごとに聞き取れるようになり，発話が増えたと成長を感じている。

※今年度実施校

小学校：知念小学校，佐敷小学校，馬天小学校

佐敷小学校

馬天小学校

知念小学校

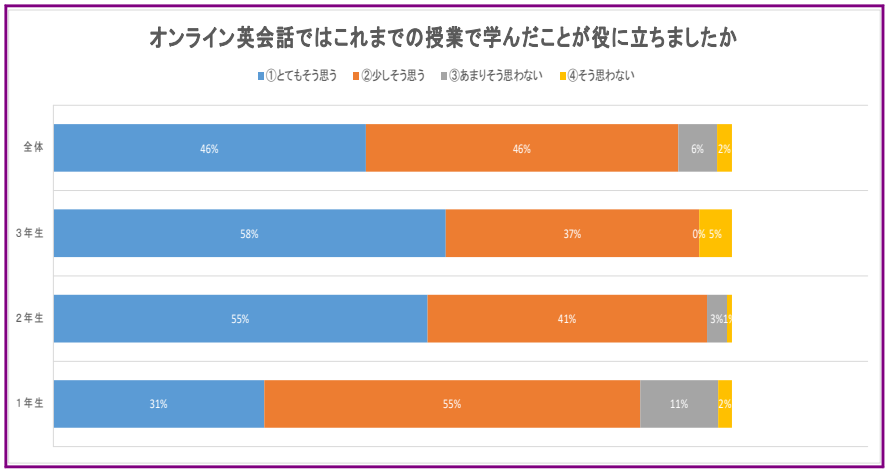
玉城中学校

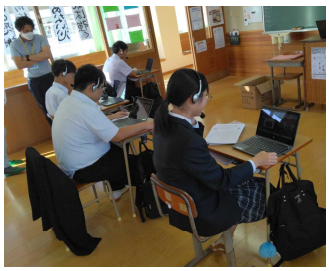
知念中学校

佐敷中学校

大里中学校

～生徒の声～





久高中学校

12 月現在　２回目のオンライン英会話実施生徒の回答

・外国人と話せる唯一の機会だから楽しい。
・英語の授業を真面目に受けて，家でも英語の勉強をする。
・毎日の授業で学んだ新しい表現をいつでも使えるように復習する。
・Thank you so much today. Moochie is delicious.　So,please try it.（文化紹介：講師へ伝えたいこと）
・先生がとても優しく分からなくて止まっても教えてくれて楽しく英語を喋ることができた。
・聞いたり話したりすることが前よりもできた

（５）AI 英会話ドリル（ジョイズ株式会社による）

経済産業省の「探求的な学び」プログラムを小学校３年生から中学校３年生まで，教科書準拠の教材を 9 月後半から 12 月 28 日まで活用した。アプリでいつでもどこでも何度でも使えるため，学校の休み時間や家庭で土日の活用もあった。

（６）ALT ミーティング　「言語活動を通して学ぶ」授業について授業参観と研修会（佐敷中にて）

ALT 達と Small Talk

自分の考えを伝える

小学校担当の ALT が中学３年生になるとこんなに話せると驚き感動した。小学校外国語活動と外国語でやることを再確認

（７）外国からの留学生やゲストを迎えての授業・他市町村の児童生徒とオンライン授業

スイスからのゲストと交流（佐敷小学校）

オランダのゲストと授業（大里南小学校）↑

佐敷小学校と南風原小学校（自己紹介）

佐敷中学校と伊良波中学校（故郷の魅力を伝える）

初めて会う相手であったが，話を聞き取り習った単語や表現を用いて積極的に話しかけていた。中学生は，画面共有で互いの地域の特色や魅力を伝え合い，質問していた。

４　成果

○外国語教育アドバイザーの大城氏を招聘し小中外国語担当者研修会，校区内小中連携授業参観と振り返りでご助言を頂き，学習指導要領の趣旨に沿った授業を意識した授業が増えてきた。『言語活動は「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」などの活動を基本とする。』（大城賢氏，小中外国語担当者研修会講話資料令和５年９月２６日）のとらえも少しづつ広がった。

○調査官招聘授業を受け，授業者の仲里教諭は佐敷中学校の「言語活動を通して学ぶ」授業を引き継ぎ，年度当初から生徒が相手意識をもって自分の思いや考えを発話する機会を設けた。十分な発話の機会を設けたので「聞く，読む，書く」の技能もついた。その授業での生徒の発話力見て，研修会で講話を聴き市内教師が授業改善の大切さを意識した。

○校区内小中連携授業，調査官招聘授業を通して，小学校は中学校での学びを意識し，中学校は小学校で学んだことを把握でき，系統立てたなめらかな接続を考えるようになった。

○オンライン英会話を通して，習ったことが通じる喜びや表現できなかったことを次は伝えられるよう日々の授業を頑張りたいと，児童生徒の外国語学習への意欲につながった。

○ AI 英会話ドリルを活用して，会話や文の組み立ての練習，英検対策を平日や休日の時間を利用し自主的に行う児童生徒が増えてきた。

○海外からのゲストの授業や市外の小中学生とタブレットでつながり相手意識をもってやり取りする場面を設けたことで，アドバイザーの大城氏の「使いながら学ぶ，学びながら使う」の実践につながった。

５　課題

○小中外国語担当者研修会や調査官招聘授業は担当者が参加するため，勤務校にて全員に浸透するのは時間がかかる。

○校区内連携授業参観は時間を見出して行っているので，昨年よりは授業後の振り返りの時間を持つことはできたが，まだ全ての学校が持つことはできない。振り返りシートで助言を伝えた。

○調査官招聘授業の取組は，毎年児童生徒の英語学習への意欲が上がり効果的であるので，今後は積極的に授業者を申し出る雰囲気作りが必要がある。

○授業内の言語活動やオンライン英会話において，伝えたかったが伝えることができなかった児童生徒が次に向けて意欲的に取り組めるよう支援方法を考える。

○オンライン英会話や AI 英会話ドリルはその時間が効果的に実施できるよう，授業で導入として使う，単元終末の発展として使う等目的をもって普段の授業に位置付ける。
（上述のように活用している学校も多い）

日野市視察　報告

１．日時　　10月17日（水）～10月18日（木）

２．視察場所

①　日野市発達・教育支援センター「エール」

②　日野市立三沢中学校

③　日野市立旭が丘小学校

３．視察内容

１日目　　１４時～

(1)日野市発達・教育支援センター「エール」

①　設置目的

【基本構想】

「すべての“いのち“がよろこびあふれる未来をつくってく力」の実現に向けて」福祉分野と教育分野が一体となって切れ目のない支援、総合的な相談や支援を実施するため。

【経緯】

幼児センターとして設立されたが、子どもの発達に関する課題等を含めて特別支援関係を一緒に見る必要があるということで、別の組織から一体化した。

【特徴】

○ 発達や教育に係る相談・支援の窓口が一本化しわかりやすい相談・支援体制へ。

○ 福祉と教育の連携による切れ目のない支援を実施。

○ 多様な専門性（専門職、心理士、言語聴覚士、作業療法士、保健師、就学相談員、特別支援教育総合コーディネーター、スクールカウンセラーなど）による総合支援を実施

②　研修について

ひのスタンダードを基本に、すべての児童・生徒がわかるユニバーサルデザイン化の取り組みを推進するため特別支援教育に関する研修の実施

※ 参考資料　「通常学級での特別支援教育のスタンダード」

東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会ｗｉｔｈ小貫　悟

【ひのスタンダード】

市内の各小中学校の通常学級で実際に行う特別支援教育の内容と基準を具体的に示そうという試み。基本になったのが、「包み込むモデル」である。

・　特別教育システムのスタンダード

・　個別配慮のスタンダード

・　指導方法のスタンダード
・　学校環境のスタンダード
・　地域環境のスタンダード

○日野市へ勤務になった先生へ毎年研修を行っている。
・　授業を参観し、意見交換等を行う研修の実施。
・　研修ビデオを新任教員は視聴

③ 学校への事業

○特別支援学級　小学校：知的６校　自閉情緒１校　言語通級２校　難聴通級１校
中学校：知的３校　自閉情緒２校

○病弱学級　　１校

○特別支援教室（ステップ教室）通級指導教室

○リソースルーム

教科学習に困難を示している児童生徒に対する学習支援

「リソースルーム」とは、余裕教室などを利用して別な部屋で授業を受ける時間を作ること。時間は週に１～２時間、学習内容は主に国語と算数、対象児童は校内委員会で検討とし、運営・指導マニュアルがあり、小学校の教員免許を持っている者を配置している。目的は、ＬＤやＡＤＨＤなどの発達障害等があるために学習に困っている児童に対し、つまずいているところに戻って学習し、児童が困っている状況を少しでも解消し、自信を取り戻し、将来への自立につなげることを目的としている。

○ひのスタンダード

市内の小中学校で通常学級で実際に行う特別支援教育の内容と基準を具体的に示す試み

・　日野市の基準となる取り組み　包み込みモデル
・　授業のユニバーサルデザイン化の研究

○かしのきシートの活用（個別の教育支援計画）０歳から１８歳まで作成

（２）三沢中学校学校視察

①授業参観

○特別支援教育の３本柱

・各学級での取り組み

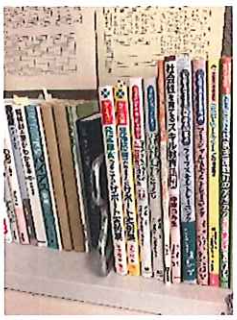
授業の組み立て　　対応の技術

どの子にもよりよい学習環境づくり

空間環境　　時間環境　　学習環境　　人間環境

・校内のステップ教室（通級指導教室）の活用

・リソースルームの活用



○「学習の保健室」としての機能

○リソースルームティーチャによる週１時間の学習個別指導

○個別指導計画のもと保護者の了承のもとに利用

・特別支援委員会

生徒理解の取り組み　　生徒への対応の検討　　専門家との連携

②　がんばルーム（不登校への支援）

がんばルーム靴箱
おしゃれなカバー。
個人が特定できないようにしている。

生徒と手作りの掲示板

（３）旭が丘小学校　視察

①　授業見学

②　ユニバーサルデザインの取り組みについて学校全体で研究取り組みを行っている。

【研究主題】「対話で学びを深め合う児童の育成～国語の文学的教材を通して～」

授業づくりに向けて

授業のＵＤ

発問
教師のファシリテーション

教材研究

化 ― しかけ教材・発問の工夫

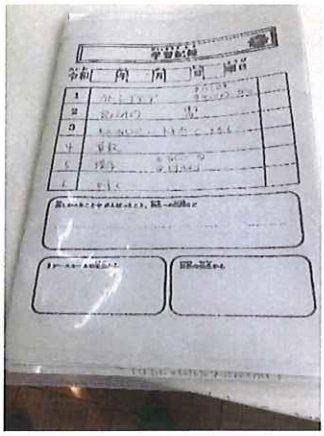
化 ― 動作化・心情曲線

化 ― ペアトーク・全体共有
ネームプレート

対話で意見を引き出し、全体で共有
安心して発言できる雰囲気

掲示板
児童会が中心に作成
見てわかりやすいように
工夫されている

③リソースルーム



○どの子にも合う教材を常に研究開発
○学級担任も教材の相談に来て活用

4．まとめ

（1）エールについて

○　創業当初は否定的な雰囲気もあったが、現在では『何かあったり、困ったりした時は、「エール」に行けば大丈夫』という認識に変わったとの説明があった。エール内の施設や人材も充実している様子であった。

○　研修についても「ひのスタンダード」を基本に新任教員に向けても取り組まれており、「通常学級における特別支援教育」が進められていることを実感した。また明星大学と連携しており、当大学の小貫教授の巡回も含め一人一人を大事にする教育を推進している。

（2）小中学校について

○　「どの子にもわかる授業」「どの子にも居場所を作る」という取り組みが学校全体で感じられた。子供たちは自らリソースルームに「行ってきます」と学びに行き、戻ってくる時はクラスも「お帰りなさい」という雰囲気ができ、リソースルームの活用が営まれている。

○　授業を参観する中で寝ている子供がいない、子供たちの表情が穏やかであることに驚かされた。

○　UDの授業づくりに取り組んでいるといったものは感じられず、普通の授業風景を感じるが、板書やグループ学習、授業構成、声掛け等にその視点が活かされている授業風景であった。

○　「一番の業務改善は授業改善です。」と日野市の指導主事、小中学校の教師が話をしていた。実際、授業改善をすることで、授業への満足度が高まり、問題行動・不登校が減っている状況にあると説明を受け重要なポイントであると再認識した。

○　「UDの理念の環境が整った日野市で勤務を希望していたので、日野市にこれてうれしいです。」と小中学校を通して力説する職員がおり、子どものためにより良い授業を目指し邁進する教師の姿を見ることができた。

○　支援学級がない中で、小・中双方ともに通常学級での特別支援教育の取り組みを学校全体で推進している感じであった。

○　配慮の必要な児童の珍しい意見にどうしてそう思ったのかと対話し思考を促し、全体でも取り上げ「これは新しい意見ですね。」とその児童の意見が受けいられる成功体験に繋がっていた。このように日常の先生方の声かけや対応に配慮があった。

（３）南城市の取り組みについて

今後、通常学級での特別支援教育の推進は南城市でも必要な状況と思われる。そのために、次の３点の取り組みを考える。

① 授業改善としてＵＤの視点を活かした授業づくり。

これは、通常級の中で特別支援教育を進めるための一つの手段である。現在の先生たちへの具体的な手法として提案していく必要を感じる。

② ＬＤや境界知能等を含む学習困難児への対応

日野市ではリソースルームで対応しているが、どのように対応していくか課題である。

また認知強化のトレーニングは通常学級で取り組んでいくように進める必要を感じる。

③ 配慮の必要な子供を受け入れる土壌づくり

配慮の必要な児童生徒への働きかけだけではなく、他の子どもたちの受け入れる土壌作りも必要であり、今後学級経営等も視野に入れ、エクササイズやエンカウンター等への取り組みも必要と考える。

【報告書様式】　　令和５年度

団体名	連絡先 TEL：０９８－９４５－２８２７ E メール：oozatokodomoen@city.nanjo.okinawa.jp
南城市立大里こども園	

１　実践事項（特色ある取組）

「地域人材等を活用し伝統・文化・芸能を取り入れた保育活動」

２　実践内容

（１）　地域探検(散歩)や地域行事の体験を通して

・保育活動の一環で地域の牛小屋や近隣を散歩しながら季節の変化に気付く機会を設けたり、地域の図書館やショッピング店に出かけたりして、地域を知る機会を設ける。

・地域の伝統行事や豊年祭などの情報を発信したり、お盆などの由来を探究したりする機会を設けることで地域の伝統・文化・芸能に興味関心が持てるようにする。

・獅子舞や綱引き、エイサーや旗頭、組踊の体験から子ども達とイメージを共有し表現遊びに必要なもの(太鼓・獅子舞・旗頭等)の製作ができるよう環境を整える。

・作ったものを用いてリズムに合わせて踊ったりすることで、地域の良さを知る機会に繋げる。

（２）　地域(南城市内)人材を活用した保育活動

・地域人材を活用し、地域の伝統行事(ムーチー)の由来を伝える機会を設ける。

・糸数(ｱﾌﾞﾁﾗｶﾞﾏ)ゆうなの会による、平和についての紙芝居の実施。

・新年の集いに地域人材をいかし、獅子舞や琉球舞踊、空手を披露する機会を設ける。

・地域の保育ボランティアで園外の環境整備をしながら園児との触れ合いを楽しむ機会を設ける。

（３）　保育ドキュメンテーションを作成し、保育活動の情報発信の工夫を図る。

・園内研修の一環で、保育ドキュメンテーシを活用し保育カンファレンスを行うことで、保育教諭間の保育観の共有や幼児理解を深める機会を設ける。

・園児向けの保育ドキュメンテーションを通して、遊びの振り返りや遊びの広がりにつながるようにする。

・各担任が伝統・文化・芸能を取り入れた保育の様子を保護者向けに写真やエピソードを添えて発信。保護者も地域の伝統・文化に関心を持つ機会を得る。

３　説明資料（写真、図など）

（１）　地域探検(散歩)や地域行事の体験を通して

【地域の牛小屋に散歩】

【地域の図書館へお散歩】

【近くのスーパーへ秋探しの散歩】

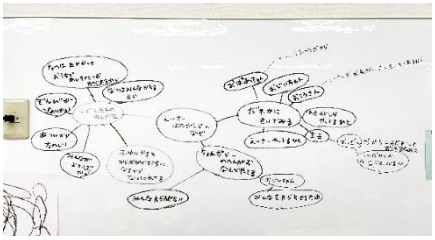
【イメージを共有する】【イメージを絵で表現する】　【作ってみる】

【イメージを形にする】　【作ったものを使って表現を楽しむ】

夏にエイサーをやる理由について「誰か知ってる人いるかな？」と保育教諭が投げかけると園児が「俺の父さんだったらわかるはず」と手を挙げ、周りの園児も「お父さんに聞いてみる」「〇〇のおじいちゃんだったらわかりそう」「俺もエイサーやってる人たちに聞いてみようかな？」と家庭や地域の方に聞いてみることになった。

保育教諭の意図的な言葉かけや援助の工夫で探究心が高まった

ウェビングマップを通して、友達と気軽に言葉を交わすことができる雰囲気の中で、エイサーについて自分が聞いてきたことや調べたことを言葉で伝えることができるようにした。



（２）　地域（南城市内）人材を活用した保育活動

【６月】
「へいわってなぁに？」と題して平和についてゆうなの会の方に紙芝居を読み聞かせしてもった。子ども達の平和についての感想も掲示して思いを共有。

【１２月】
地域や園児の祖母にムーチーの由来の紙芝居を読み聞かせしてもらい、更にムーチー作りも体験することで関心を深めることができた。

【１月】新年の集いに地域人材をいかし、獅子舞や琉球舞踊、空手を披露する機会を設ける予定

【日常】地域のボランティアの方が自分の都合のいい時間に園へ来園し、園庭の環境整備をしながら園児との触れ合いや会話を楽しんでいる。その中でコマ回しやけん玉など伝承遊びを一緒に楽しむ機会がある。

（3）クラスだよりや保育ドキュメンテーションを作成し、保育活動の情報発信の工夫を図る

友だちと一緒にドキュメンテーションを見合いながら会話を楽しんだり、遊びの振り返りをしたりしながら他の遊びの情報を知るきっかけとなり、遊びが発展していく。

また、玄関前に掲示することで保護者が閲覧できるように環境を工夫し、保育活動の様子を知ったり、ドキュメンテーションの記事を通して地域の行事にも関心を持つことに繋がる。

【秋の散歩に行った時の写真にコメントを書き加えていく】

【保護者向けの保育ドキュメンテーシ】

【クラスだよりで保育の様子を発信】

4　成果

（1）　地域探検(散歩)や地域行事の体験を通して

保育活動の一環で地域へお散歩に出かけることで、地域を知る機会となり「もっと探検してみたい」と関心を高める機会につながった。また、意図的に地域の伝統行事や文化に関心が持てるよう保育教諭の言葉かけや援助の工夫で興味関心を引き出すことにつながった。

豊年祭などの地域行事を体験することで、子ども達とイメージを共有し、表現に必要なものを形にしたり踊りなどで表現したりして、伝統・文化・芸能の良さや表現する楽しさを味わうことができた。

（2）　地域(南城市内)人材を活用した保育活動を通して

地域の人材を活用することで地域の伝統や文化､歴史を園児向けに分かりやすく伝えてもらった。その結果､園児なりに地域の良さを知るきっかけとなり､地域の良さを感じ取りながら伝統、文化、芸能に関心を深める機会となった。

（3）　保育ドキュメンテーションを作成し、保育活動の情報発信の工夫を図った結果

保育教諭自身は、幼児の育ちを確認し、見通しを持った保育の展開ができた。

園児にとっては、遊びの振り返りになったり､「こんな遊びがあるんだね｡」と友達の遊びに刺激をもらったりして遊びの発展につながった。

保護者にとっては、玄関先の掲示板やモニターのスライドショーまたはICT(コドモン)を活用して保育ドキュメンテーションや保育活動の様子を発信することにより､保護者がいつでも閲覧でき幼児教育の理解に繋がっている。

5　課題

今年度の保育実践内容を振り返り、職員自身がもっと地域に関心をもって関わり、地域の伝統・文化・芸能の良さを学ぶことで子ども達との共感も広がっていくと考えている。そこで互いに大里校区だけでなく南城市全体の地域の良さについて情報共有を図り、人材活用を活かした保育の改善、工夫を図っていきたい。

学校名 **玉城こども園**	連絡先　TEL：　098 - 948-7511 E メール：　tamagusuku-cc@iwakikai.net

１　実践事項

「遊びこむ幼児を育む」

タイトル：「“遊び込む体験”から友だちとの“協同的な活動”の経験」

２　実践内容

〇オオゴマダラの幼虫を観察し、蝶へと成長した喜びを共感する。

〇子どもの興味や関心に基づいた生活運動発表会『虫取り』の内容になるように、観察しながら蛹や蝶の羽、絵などの製作をするための環境構成や援助の仕方を工夫する。

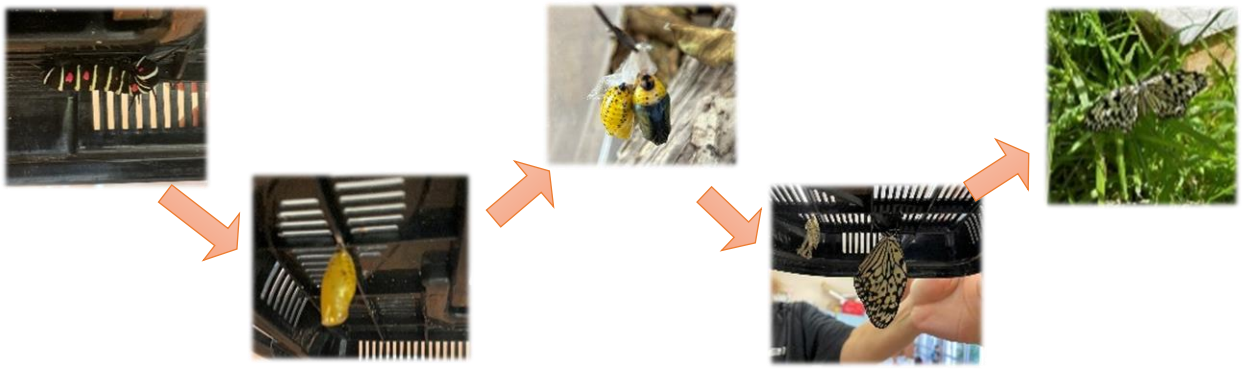
３　説明資料

① オオゴマダラの幼虫観察

〇オオゴマダラの幼虫の食草（ホウライカガミ）を図鑑で調べ、園庭から探しかごに入れる。
【自然との関わり・生命尊重】【思考力の芽生え】

〇虫眼鏡で観察、糞の掃除をする。【道徳性・規範意識の芽生え】

② オオゴマダラの成長過程



〇幼虫から蛹が増えていく様子を楽しむ。【数量への関心】
〇幼虫から蛹、蛹から蝶へと成長する様子を毎日観察しながら見守る。【思考力の芽生え】
〇蝶に代わる日を今か今かと心待ちにする子どもたち
〇蝶に成長したオオゴマダラを観察したした後は自然に帰す。【自然との関わり・生命尊重】
【自然との関わり・生命尊重】【思考力の芽生え】

③ 生活運動発表会で『虫取り』を劇風に表現するための製作

〇オオゴマダラの羽を制作
子ども達同士で意見を出し合い、模様、形などを試行錯誤して作る。

【言葉による伝え合い】
【豊かな感性と表現】
【協同性】

〇一人ひとりが大きな紙にのびのびと描きたい昆虫の絵を描く。描きながら「カマキリ描いた」「クワガタ描こう」と会話も弾む。
【言葉による伝え合い】【豊かな感性と表現】

④ 生活運動発表会で『虫取り』でオオゴマダラの成長を劇風に表現

〇蛹を金色のビニール袋で表現。
〇蛹を観察しながら模様を描いて、蛹になりきる。
【言葉による伝え合い】【協同性】
【豊かな感性と表現】

〇運動生活発表会で、虫取りを表現。
〇カマキリやカエル、蝶になりきる。
【言葉による伝え合い】【協同性】
【豊かな感性と表現】

4　成果

・身近な自然環境での一人ひとりの気づきや発見を友だちや教諭と伝え合うことで、相手のよさに気づいたり、飼育活動に対しての学び、理解が深まった。また、遊びや活動をする楽しさを味わうことができた。
・生活運動発表会で、オオゴマダラの成長を製作表現する過程を通し、協同的な活動を援助することができた。
・オオゴマダラの幼虫観察だけではなく、製作表現と繋げ遊びの継続、発展が見られた。

5　課題

・園児理解を深めると共に遊びや活動の中でてた子ども達の興味、関心に寄り添えるような援助や環境構成を工夫していく。
・子ども達の遊びこんでいることを生活運動発表会に展開していくための過程の工夫をしていく。

社会福祉法人　高原会 佐敷こども園	連絡先 TEL:098－947-1875

1　実践事項(②)

タイトル：「自然豊かでわくわく楽しいこども園」

2　実践内容

自発的な遊びを通して身近な自然に親しみ、心動かされる豊かな経験を得る

3　資料説明

『身近な自然を遊びに活用』

・チョウマメやオシロイバナをつんできて、すり鉢、茶こし、ボールなど色々な用具を用いて試行錯誤しながら色を抽出。
・抽出した色水を使って「カンパーイ」「いらっしゃいませ」とごっこ遊びに展開。
・レモンを入れて色が変わったお友だちの話をもとに実験を再現して、色の変化を楽しむ。

『園庭のほうらいかがみにオオゴマダラの幼虫を発見』

・「育ててみよう」興味・関心をもって飼育がスタート。
・「どうして？なぜ？」元気がない幼虫の姿を見て、様々な予想からいろんな意見が出る。
・「お世話当番スタート」元気に育てるためにどうしたらいいか話合い、お世話当番が始まる。
・「大きくなっている」観察から葉っぱを食べる姿や脱皮していることに気づく。
・「バイバーイ元気でね」さなぎの羽化を観察し放つことに成功。放った翌週、舞い戻ってきてくれる素敵な出来事を体験。

4　成果

・自発的な活動が十分に確保されたことで、身近な自然環境に親しむことから始まり、興味・関心をもって色水遊びや飼育観察がスタート。飼育するにあたり、みんなで意見を出し合い協同性や思考力の芽生え、好奇心から探求心へと心情の変化が見られ、また、生命の尊さを感じる豊かな経験が得られた。心動かされた豊かな体験を生活発表会の中で園児の素直な言葉で表現し披露することができた。

5　課題

・この経験から、身近な自然事象などに、より一層、好奇心や探求心をもって自然に触れて遊ぶようになることを想定し、園児の自発的活動が十分に発揮されるよう、貴重な経験をクラス内だけでなく活動過程から全体で共有できるような環境構成と幼児理解の読み取りを深めるため、RPDCA サイクルに基づいた保育の展開。

『ちょうちょになって』

令和５年度

知念こども園　３歳児～５歳児

実践者：中本絹枝、新垣紗希、仲村隼、當眞真依子、上地奈菜香、宮平希、
高橋美希、知念洋子、仲田朋弘、與儀和歌子、熊田紫香

【テーマ】地域文化継承における幼児教育

【目的】知念地域の自然を感じ地域の文化に興味・関心を持ち
自分なりの表現をする

知念こども園の子ども達は、園庭に集まるオオゴマダラ等を捕まえて、卵から幼虫、蛹と成長していく様子の段階を発見をしながら、不思議さや育てる楽しさを感じるている。この経験をこれから教諭がねらいをもって意図的な遊びの展開を広げることが重要であると考え、今年度は表現を意識し、どのような表現遊びを展開するか子ども達と共に保育を創り出していきたい。

【昨年の取り組みの振り返りから】

最初に導入の仕方やきっかけづくりを職員で話し合い、子どもが興味や関心を持ってくれるようにということを前提に取り組みを始める。子ども達が蝶々に興味・関心を持ったところで『胡蝶の舞』のDVDをみんなで観る。そこから子ども達がどのような遊びに発展させていくのかを、予想したり環境の準備をしたりすることを意図して保育をするようにした。『胡蝶の舞』を観た後は、子ども達が蝶々の羽づくりをしたり、動きを真似る子が出たり、ゲームに蝶々のイメージをくっつけたりして遊ぶ姿が見られた。

１年目の取り組みとしては、子ども達の遊びの発展を見ることができた事と、導入の仕方やタイミングなどで子どもの注目や興味が変わるという事、そして子どもの遊びの発展などを予想していろいろな準備をすることの必要性などをとても感じた。

【昨年の取り組みから今年の取り組みの構想】

昨年の取り組みの中で、遊びの発展も見られ、『胡蝶の舞』のDVDを観て動きを真似る子はいたが、踊りを真似て楽しむ子が少なかったという話が出る。今年は踊りを真似たり、自分達で蝶々をイメージして、踊りを創作する子が出てこないかなと考えた。また、卵から幼虫、蛹、蝶々などのを子ども達が踊りなど表現を楽しんだことができるといいなと考えた。その為には、その成長の過程を実際に見ることができたら子ども達にとっていい経験にもなり、イメージして表現しやすくなるのではと思い、そうなってくれるといいなと考えていたが導入のタイミングや方法がなかなか定まらなかった。

〈エピソード　1〉　たまごを産んだよ！

５歳児クラスのKくんが園庭でオオゴマダラの蝶々を捕まえた。一度は家に持って帰るが次の日、園で蝶々を育てたいと持ってくる。虫かごでは小さくてかわいそうということで、園にあるかごを出すが、それでは逃げてしまう。「じゃあ、網をかけよう」などいろいろ考えて蝶々の家が完成！(昨年はかごにビニールをかけ、穴をあけていた。)そこに蝶々を入れると一緒に入れていたホウライカガミの葉っぱに卵が３０個産まれていて皆で喜ぶ。

これなら逃げないよね！

捕まえたちょうちょがたまごを産んだよ。さあ、みんなで育てよう！

卵から蝶々を育ててみたいという子どもの声を聞き、園で育てていく為の『やくそくごと』を５歳児クラスが話し合うことに。みんなが成長を見れるように設置場所は玄関ホールの畳スペースに決定。また、いろいろとお家で調べてきた子が蝶々の名前、好きな花や葉っぱは何かなどをみんなに教えてくれた。玄関ホールに設置することで、子ども達だけでなく保護者も観察したり子どもとの話のきっかけになった。

〈エピソード　2〉

見てみて～。はっぱに
いくつたまごがついて
いると思う？

白いのときいろいのとか
いろんなのあるね～。

卵が孵化して幼虫になる。孵化したての幼虫はとても
小さくて白いことに子ども達も職員もびっくり。

「幼虫に黒と白の模様が出てき
たよ！」「なんか赤い点々も
出てきた～！」毎日、子ども
達が発見していく。

「お母さん見て！僕が捕まえたオオゴマダラのちょうちょだよ！」

4歳児のGくんがオオゴマダラを捕まえ、この蝶々も卵を産む。この卵は4歳児クラスで育てる
ことに。4歳児クラスにはオオゴマダラだけでなく他の蝶々も卵から蝶々まで育てることに。

〈エピソード　3〉　幼虫が大きくなるにつれ・・

葉っぱをよく食べうんちをたくさんするので、虫かごの中はすぐに幼虫のうんちで
いっぱいになる。子ども達から「虫かごを掃除してあげる」という声が出てくる。

やさしくつかんで
あげてね！！

まずは、1匹ずつ
幼虫を外に出すんだ。

全部移したから、虫かごの中のうんちを捨てて、きれいに拭いてあげよう。

うんちたくさんしたら、お腹すくよね。
ホウライカガミの葉っぱをあげよう！！

幼虫がだんだん大きくなって、いつでもさなぎ
になれるようにと幼虫を虫かごから大きめの
ゲージに移動させることに。

幼虫大きくなったね～。そろそろさなぎになるかなあ～。
いつでもさなぎになれるようにしてあげよう！

〈エピソード　4〉　幼虫がさなぎになったよ！

ある朝、早めの登園をしていた子ども達と職員が幼虫が蛹になるところを目撃！

この黒いのを落とそうとしてる～。ぷりぷり動いてる。
あと少し～がんばれ～！！(動画あり)

登園してきた子ども達は、きれいな金色の蛹に大興奮。保護者の方も、初めて見る方もいて子どもだけでなく保護者の方も興味津々。幼虫の時は「こんなにあると気持ち悪い～」と言っていた保護者の方も「あの幼虫がこんなにきれいな蛹になるんだね」と驚いていた。

〈エピソード　5〉　落ちてるさなぎを助けたい。

たくさんの蛹の中で、ひとつの蛹が下に落ちていることに気づいたKちゃん。「かわいそう。つけてあげたい」といろいろ方法を考える。「糸でつける」「難しい」いろいろ考えた結果、洗濯ばさみでつけることに。ただ、まだやわらかい蛹を洗濯ばさみではさんでつけるのは大人でも難しく、結局少し潰れてしまい育たなかったが、Kちゃんの気持ちは嬉し汲み取ってあげたい。

〈エピソード　6〉　ちょうちょを逃がそう！

蛹から出たばかりの蝶々は羽が濡れていて、羽もぴんとしていないのですぐには飛ぶことができないなど、いろんなことに気づいた子ども達。
飛ぶ準備ができた蝶々達を逃がすことに。オオゴマダラのひらひらと舞う優雅な飛び方を見てほしいという思いから、遊戯室に１３羽逃がしてひらひら舞うのを見た後、窓を開けて外へ逃がした。

園として、オオゴマダラを卵から蝶々になるまでの過程をみてきたのと同時進行で、４歳児クラスでは虫が大好きな子が多く、いろんな蝶々の卵を見つけては孵化させて蝶々にすることに成功。知念こども園の園庭には、いろんな種類の蝶々がいて、それぞれ卵から幼虫、蛹から蝶々になるまでの過程を見て、最後はクラスのテラスから蝶々を逃がすということを何度も経験することができた。クラスにはいくつかの虫かごと図鑑が用意されている。子ども達が図鑑をひろげて、いろいろ調べようとする姿もあった。

〈蝶々を育て、逃がすという経験をした子ども達の製作表現〉

5歳児の蝶々の絵の表現
4歳児の蝶々の粘土の表現
それぞれが好きに表現している。蜜を吸っている蝶々、飛んでいる蝶々、卵や蛹と蝶々、みんなで逃がした蝶々など、それぞれが印象に残っている蝶々を自由に表現している。その他、塗り絵をしたりいろいろな製作を通しての表現を楽しむ。

【園内研修での職員の話し合い】

・オオゴマダラの蝶々を卵から育て逃がすという体験をしたタイミングで、すぐに職員での話し合いが持てずにうまく子ども達に導入することができなかった。そこで、今からどういう風にまた子ども達と蝶々の表現に取り組んでいけるかを考える。
・蝶々を育て逃がしたタイミングで各クラスで絵を描いたり、粘土で蝶々を作ったりすると子ども達それぞれのイメージで思い思いのものができた。
・表現と言ってもいろんな表現があるので、幅が広すぎて難しいということだったので、身体で表現するというのはどうかということになった。
・「胡蝶の舞」を真似するのではなく、知念こども園の「蝶の舞」を子ども達が創作してくれたら一番すごいねということになった。これを最終のねらいとする。すぐに踊りというのは難しいので、まずは子ども達がイメージをどんな形でもいいので身体で表現してくれたらいいなということになった。

〈地域文化継承について〉
目的・・知念地域の自然を感じ地域の文化に興味・関心をもち自分なりの表現する
・今までの話し合い
オオゴマダラを捕まえて、卵から幼虫、蛹と成長の段階を発見をしながら、不思議さや育てる楽しさをかんじることができた。
・この経験をこれから教諭がねらいをもって意図的なあそびの展開を広げることが重要である。(今年は表現を意識していく)
↓
・どのような表現遊びに展開してけるか？

・現在、リズム運動で『ちょうちょ』があるが曲調もゆっくりで優雅な動きなのでオオゴマダラの飛び方に似ているという話になったが、ある子が蝶々の羽をパタパタさせているので本人に聞いてみると「アゲハとかは、羽を動かすの早いんだよ」と言っていた。

オオゴマダラを卵から蝶々にしたことで、職員のなかでも蝶々＝オオゴマダラという意識になってしまっていたが、４歳児クラスではいろんな蝶々を育て観察する中で蝶々にもいろいろあって、飛び方もそれぞれ違うということに気づいて、自分なりに蝶々の動きをイメージしているはずという話が出る。その違いに子ども達が気づいたということもすごいし、それならそれぞれのイメージを自由に表現させてあげたいねということになった。

リズム運動としては、曲に合わせてしなやかな動きを身につけて欲しいというねらいがあるので、そこは自由に表現というわけにはいかない。では自由な発想とイメージで表現をどうさせていけばいいのかという課題が出てきた。まずは音楽もなしで子ども一人一人が持っている蝶々のイメージを聞き出し蝶々になりきることで表現できないかと考える。

〈４歳児クラス　蝶々の表現あそび〉

クラスの蝶々が羽化したタイミングで、５歳児の男の子が４歳児の女の子に「ちょうちょってこんなして飛ぶんだよ」と飛び方をみせていた。そこで担任が「ちょうちょってどんなしてとぶの？」と問いかけると、それぞれが自由にイメージしてやってみせた。蜜を吸ってる蝶々、休憩している蝶々、卵を産んでる蝶々、などいろんな蝶々になりきっていた。

その日の午後、ある女の子がハンカチを２枚持ってきて「結んでほしい」と言うので「何をするの？」と聞くと「ちょうちょの羽を作る」と言う。その結んだハンカチを羽に見立てて遊んでるうちに、丸まって卵、幼虫、蛹、蝶々とハンカチを使って成長の過程を表現していた。その後、羽をチラシで作る子タオルを使って表現する子などそれぞれが自分の思い思いになりきり、イメージを表現して遊んでいた。

〈卵〉

〈幼虫〉

〈蛹〉

〈蝶々〉

ハンカチを蝶々の羽に見立てるだけだと思っていたら、そのハンカチを使って卵から幼虫、蛹から蝶々と成長の過程をすべて表現したことにとても驚いた。

大人が考えつかないことを、子ども達は考えたりひらめいたりすることを体験している。こういう感性を大事にしたいと思った。

〈５歳児クラス　蝶々の表現あそび〉

どんな風に子ども達と表現遊びをするか５歳児のクラス担任で話し合い、今までのクラスで蝶々を捕まえてその蝶々が卵を産んで・・蝶々を羽化させて逃がすという体験したことを子ども達と一緒に振り返り、その後『はらぺこあおむし』の歌なしの音源を使ってやってみようということになった。

子ども達と蝶々を捕まえた時の話からしていくと、「あれはKが捕まえたんだよ」「そしたらひとつの葉っぱにいっぱい卵産んだよね」など子ども達も思い出しながらどんどん言葉が出てきた。その中でもなぜオオゴマダラがあんなに優雅にゆっくり飛ぶのかを知っている子が、みんなの前に立ち「ホウライカガミの葉っぱには毒があって、それを食べるオオゴマダラも毒を持っているから、敵に狙われないんだよ。だからゆっくり飛んでも大丈夫なんだよ。」と伝えていた。

ひと通り、振り返りが終わった後『はらぺこあおむし』の音源をかけてみるとどんな風にしてと言わなくてもそれぞれが思い思いに卵になり、幼虫になる。お腹がすいたと一人の幼虫(子)が部屋の中の黄緑のカラービニールを食べる真似をすると他の子たちも黄緑や緑を探しお腹いっぱい食べる。そして蛹の場面では一人で蛹になる子や、何名か連なって大きな蛹になる子ども達もいる。蝶々になった子ども達が部屋を飛び出し遊戯室で蝶々になりきり飛んでいた。自分たちの実体験と『はらぺこあおむし』の音源とストーリーが重なってクラスみんなで表現あそびを楽しむことができた。

〈蝶々を育てたことを
みんなで振り返り〉

卵って丸かったよね

お腹すいた！食べるもの探そう！

大きな蛹

蛹になって眠るのよ

蝶々になってとぶぞお～

〈蝶々の表現あそびを楽しんだので『胡蝶の舞』の導入〉

蝶々を育てたり、蝶々の表現あそびを各クラスで楽しんだのでそろそろ子ども達に『胡蝶の舞』を見せたいということになった。今年入った職員(５歳児担任)が知名部落の青年会に入り、『胡蝶の舞』を踊ることになったので、ヌーバレー当日の朝にその職員ともう一人青年会の人がこども園に来て、衣装を着て子ども達の目の前で踊ってくれることになった。

その前に一度DVDを観てみようということで、全員で観る。４・５歳児は昨年も観ているが３歳児は初めて。DVDを観た後「J先生が今度、この『胡蝶の舞』を踊るんだよ」という紹介をすると、子ども達から「すご～い」の声が。J先生が少し踊りを見せると子ども達は目をキラキラさせて見る。

その後も、５歳児クラスの子ども達は遊戯室で『胡蝶の舞』をJ先生と一緒に真似て踊ったり、少しアレンジしたりして何度も踊って楽しんでいた。

蝶々、こんなだよね～

〈知名部落のヌーバレーを保護者に情報提供〉

昨年、ヌーバレーが終わってからの取り組みだったので生で見ることも、『胡蝶の舞』という踊りがあるということもあまり保護者に知らせたりすることができなかったのが昨年の課題でもあった。
今年は５歳児担任の先生がヌーバレーで『胡蝶の舞』を踊るので、玄関に貼りだした。

案内を張り出すと、送迎の時に子どもたちが保護者に「見に行きたい～」「J先生が踊るんだって」と伝えたり、知名部落の保護者の方から「小学生がエイサーするので見に来てください」など情報交換もできた。

職員がヌーバレーで『胡蝶の舞』を踊るということで、子ども達の関心や興味もとてもあり大好きな先生と一緒に楽しみたいという気持ちがあるので子ども達ものりやすい。

〈知名青年会による生の『胡蝶の舞』〉

ヌーバレー当日、青年会の方たちに『胡蝶の舞』を園で見せてもらう。J先生も踊るということで子ども達も朝からとても楽しみにしていた。知念あさひ保育園や保護者にも声をかけたので、知念こども園だけでなく同じ地域の保育園の子どもたちや保護者も一緒に見ることができた。
青年会の人が衣装を着て登場した時は、子ども達から拍手と歓声が上がる。
踊りがはじまると、みんな食い入るようにして観ていた。踊りの後は質問コーナー。
子ども達から質問や感想がたくさんでてきた。

とってもきれいで、かっこよかった！楽しかった！！

何でそんなに上手に踊れるんですか？

最後に衣装を近くで見たいということで、子ども達がそばに行く。触らせてもらったり話をしたりする時間もあり喜んでいた。青年会の人たちも自分たちの舞を地域の子ども達が知って憧れられているというのは嬉しかったのではないかと思う。

〈ヌーバレーを終えて〉

知念地区では、知名部落だけでなく安座真部落、久手堅部落の３つの部落でヌーバレーが行われている。当日、子ども達や職員も各部落のヌーバレーを見に行った。胡蝶の舞だけでなく他にもいろんな伝統の文化がたくさんあると感じた。

ある園児のお迎えに来た祖母が、「知名だけじゃなく、うちの部落にもこんな踊りがあるんだよ」と教えてくれたので「今度、是非子ども達に見せてください」というと「いつでも」という話になった。

今回は胡蝶の舞での取り組みではあるが、もちろん地域文化はそれだけではないので、このように保護者の方や地域の方から声をかけてもらえることも嬉しく思う。

こんなふうに、もっと地域とつながっていけたらいいなと感じた。

〈お招き会にて〉９月１３日　　・・動画あり

祖父母を招いてのお招き会の中で、「地域文化継承における幼児教育のテーマで昨年から取り組んでいる」ということと、「５歳児担任の先生が先日のヌーバレーで踊って、その影響で子ども達も少し胡蝶の舞を真似して踊る子も出てきています」ということで急遽、音楽をならしJ先生と一緒に踊ることに。練習は一度もしたことがなかったが、子ども達はJ先生と一緒にとても楽しそうにとても上手に踊っていた。何度も何度も見たわけではないのに、子ども達の中にこんなに踊りが入っていることにとても驚いた。

〈５歳児らいおんぐみの話し合い〉９月２１日　　・・動画あり

運動会で何をやりたいかの話し合いの時に「胡蝶の舞もやりたい」という声がでてきた。

ヌーバレーから少したっていたので、もう一度踊りを見てみようということになり、先日青年会の方が来て踊ってくれた時のビデオをスクリーンに映してみんなで見た。見ながら踊ったり、お友達と楽しそうに見ていた。みんなで見た後、子ども達に感想を聞く。

・とってもかっこよかった
・足がすごかった
・楽しかった
・きれいだった
・蝶々かっこよかった

・どうしてかっこよく踊れたんだろう？
・いっぱい練習したからだと思う
・できると思ってやったから
・心がきれいだから

・なんできれいだったんだろう？
・勇気があるから
・やさしいから

〈踊ってみよう〉

みんなで踊ってみよう！ということになったが、遊戯室が空いていない。さあどうしよう！と子ども達に投げかけると「グループになって、見せ合いっこしよう」ということになった。
それでもスペースが狭いので「だったら、テーブルをどかせばいいんじゃん」と子ども達で考え、それぞれ力を合わせてテーブルを廊下まで運んであっという間に踊るスペースを確保した。

４つのグループに分かれて見せ合う。見せ合う順番も子ども達が決める。
J先生も観客になって、子ども達だけで踊る。子ども達がそれぞれどんなだったっかなあと考えながら、思い出しながら踊っていた。

〈J先生と踊ってみよう〉９月２９日

前回子ども達同士で見せ合いをした時、あんな動きだったかなぁと思い出しながらの踊りだったのでそろそろ子ども達に「胡蝶の舞」を教えてみたらどうかということになった。
一度、ちゃんとした踊りを教えることで自信を持って踊れるようになったり、子ども達同士で教え合ったりするのではないかと考えた。
J先生が、胡蝶の舞の踊りを分かりやすく説明しながら伝えると子ども達もどう踊ればいいのかが分かってきたようだった。ただ動きを何となく真似して踊るという踊り方から、足や手をどうすればいいかなどと少し動きを意識するという動きに変わっていった。

〈踊ってみてどうだった？〉

「J先生と踊ってどうだった？」の問いかけに「楽しかった」「足が疲れた」など意見が出た中、「もっときれいに踊りたい」という子も。「もっときれいに踊るにはどうしたらいいかな？」と聞くと「いっぱい練習する」や「ちょうちょの羽を作る」という声があがる。
それぞれが自分の蝶々の羽を作ることに。「じゃあ、みんなで羽をつけて胡蝶の舞を踊ろう会をしてみない？」と提案すると「さんせい～！」「やりたぁい！」「楽しみ～！」と子ども達。
『胡蝶の舞を踊ろう会』の日を決めて、それまで数日あったので作るタイミングは自分で決めて衣装づくりがスタート。

ねぇ、大きさこれでいいかな？

ここからどんなする～？

切りたいからそっち持っててね～！！

〈胡蝶の舞を踊ろう会〉

子ども達が楽しみにしていた『胡蝶の舞を踊ろう会』当日。「今日、ちょうちょの羽つけて胡蝶の舞踊るんだよね」「楽しみ～」と登園時から子どもたちのわくわくしている様子があった。
自分で作ったそれぞれの蝶々の羽をつけて、みんなで『胡蝶の舞』を踊る準備から。
羽をつける段階で破れたり、壊れたりすることもあるはずと、修正がすぐできるようにテープやガムテープなどを準備しておく。案の定、何名か破れたりせまいなどで手直しする子がいたが、準備をしていたのですぐに直すことができ、みんな羽をつけることができた。
そして、初めて蝶々の羽をつけてみんなで『胡蝶の舞』を踊ることができた。

〈蝶々になりきって遊んでみよう〉

胡蝶の舞を踊った後、蝶々の羽をつけたまま遊んでみようということになり、子ども達に聞いてみると４つほど候補が出て、最近子ども達がはまっている「だるまさんがころんだ」になった。
でも、「だるまさんじゃないよね」という話になり、掛け声をみんなで考え『ちょうちょがわらった』に決定。蝶々の羽をつけたまま何度も「だるまさんがころんだ」の『ちょうちょがわらった』バージョンを楽しんだ。

〈運動会で胡蝶の舞〉

今まで胡蝶の舞を踊ることを自分達で楽しんでいたが、保護者の方に披露するのは初めて。自分達で楽しむだけでなくいろんな人に見てもらって褒めてもらったり感想を聞くことも必要だなと感じた。運動会当日は、それぞれが作ったを蝶々をつけて楽そうに踊っていた。
運動会でも胡蝶の舞を踊ってその後、『ちょうちょがわらった』を楽しんだ。

〈考察〉

昨年と同様、『胡蝶の舞』を題材にし、昨年はどう遊びに発展するかをみたが、今年は子ども達がいろいろな表現を楽しむということをテーマに取り組むことにした。
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(１０の姿)」の「豊かな感性と表現」では、「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる」としている。
今回、「感じたことや考えたことを自分なりに表現する」ということ、そして子ども達が「主体的に表現を楽しむこと」を大事にして取り組むようにした。
子どもが捕まえた蝶々が卵を産み、そこから幼虫になり蛹になり、蝶になっていくという過程を園児も保護者も一緒に見ることができた体験から、お絵かきや粘土や工作の製作表現を楽しんだ。また卵から蝶になっていく過程を形態模写をしたり、音楽に合わせてそれぞれが表現遊びをしたりした。いろんな表現遊びをした後、部落の青年会に入っている５歳児の担任に、『胡蝶の舞』の踊りを少し見せてもらうことで、今年は先生と一緒に踊りたいという子がたくさんでてきた。最初はそれぞれが思い出しながら自由に踊っていたが、自信をもって踊るためにはちゃんとした振りを教えることも必要ということで、踊りを教えることにした。すると振りを知ったことで、自信をもって踊ることもでき踊りを楽しむようになった。そこから運動会でも踊りたいということで、それぞれ思い思いの衣装も作り初めてたくさんの保護者の前で『胡蝶の舞』を披露することができた。表現を楽しむだけでなく、人に見せるということで、もっときれいに、もっとかっこよくという気持ちが出てきて何度も踊る姿も見られた。披露して、それをいろんな人に見てもらい褒めてもらうことも子どもたちの喜びとなっていた。
今回の取り組みで、日常生活の中での様々な体験、文化から感じ取るものやその時の気持ちを友達や保育教諭等と共有し、表現しあうことを通して、豊かな感性を養うようにすることが大事だということ。子どもが主体的に表現活動に参加できる「環境」や「教材(題材)」を設定することが、「自分なりに表現して楽しむ」ことを引き出したりすることにつながるのだと感じた。

令和５年度

学校名 南城市立久高幼稚園	TEL：098―948-3950 E メール：mamiko00619@city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項

「幼児が遊びこむための環境構成と援助の工夫」
～心を動かされる体験を通して～

２　実践内容

① 身近な人や自然、ものとの関わりの中で心を動かされる体験を通して、幼児が遊びこむための環境構成や援助の仕方を工夫する。
② 地域の方や小中学生、保育園生などとの関わりを通して地域（久高島）の文化や伝統に触れる。
③ 保育ドキュメンテーションを活用し、課題解決や保育の質の向上を図る。

３　説明資料

〈本園の良さ〉〇幼小中併設校　〇地域一帯となった行事の取り組み　〇単学級での３年保育

園庭でイラブ―の赤ちゃんを見つけた経験から、興味を示している。図鑑でイラブ―について調べている。

イラブ―について詳しく知るために、イラブ―漁をしている地域の方のところに行った。

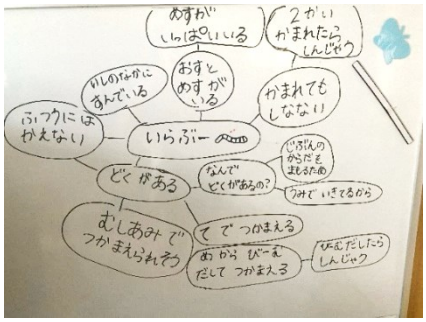
実際にイラブ―を見たり触れたりにおいを嗅いだりした子どもたちは、驚きや感想などを言葉で表現している。また、不思議に感じたことを地域の方に質問する姿も見られた。

生きているイラブ―を見て、「沢山いる！」「うにょうにょうごいてる！」などと感じたことを言葉で表現している。
生きているイラブ―だけでなく燻製をしている様子や卵、皮など普段あまり見ることができないところも見たり触れたりすることができ、子どもたちの心動かされる体験になっている。

散歩から帰ってきた子どもたちは、イラブ―の絵を描きたいから、「紙ちょうだい」と言い、絵を描き始めた。
最初は、絵を描くだけだったが、描きながら島の人に教えてもらったことを振り返り、気付きや発見も紙に書くようになった。

子どもたちが作った絵本や図鑑は、保育室の入り口に掲示し、保護者にも見えるようにすることで、家庭でも園のことを話すきっかけになっていた。

絵を描くだけでなく、イラブ―を見に行って気付きや発見、不思議なことなどを書いて、絵本や図鑑を作ってみる等遊びを深めてほしいと思い、写真を画用紙に貼り、子どもたちがドキュメンテーションのようなものをつくることができるようにした。
子どもたちは、島の人に教えてもらったことだけでなく、実際に見たり触ったりして感じたことなども書いて、絵本や図鑑を作っていた。
・これまでの園生活の中で絵本を作ったり、小中学校の図書館に行って絵本を読んだり絵を描いたりする経験があったので、すぐに「絵本を作ってみたい。」「イラブ―図鑑作る！」と言い、遊びが広がっていった。



子どもたちと一緒にイラブ―について話す場を設けた。感じたことや不思議に思ったことなどを友達や教師に伝えたりする中で、「どうして毒があるのかな？」「どうやってつかまえるのかな？」など、さらに疑問に思うことが出てきた。

・子どもたちは、「もっとイラブ―のこと知りたい！」「いらぶーはかせみたいになりたい。」と話していた。また、「いらぶーはかせに教えてもらったことをみんなに教える！」という話になり、「発表会で見せよう！」ということになった。
・発表会では、地域の方も見に来ていたので、子どもたちが作ったイラブ―についての生活劇やイラブ―についての絵本を披露することができた。

4　成果

・地域の方や保護者にも子どもたちが興味を示していることを伝えることで、実際にイラブ―を見に行く体験ができ、さらに遊びが広がっていった。
・久高島の身近な自然や地域の方、小中学生と十分に関わり心動かされる体験をすることで、幼児の好奇心や探究心が膨らみ遊びが展開継続していった。

5　課題

・各年齢の発達段階を踏まえながら、幼児一人一人に合った言葉かけや援助の更なる工夫。
・今後も地域や家庭、小中学校との交流を深め、心動かされる体験を通してさらに遊びこむことができるような環境構成や援助の工夫を考えていきたい。

学校名 **南城市立玉城小学校**	連絡先　TEL：**098-948-7251** Eメール：**tamasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp**

１　実践事項（②特色ある取組）

「伝統と創造、不易と流行」

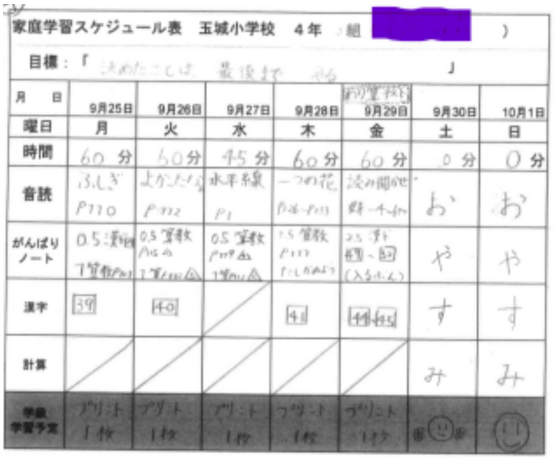
２　実践内容（具体的な取組）

（１）　学習規律「玉小ルール」の徹底

① 全学級に掲示して年度初めの学級指導や教科指導の中で確認する。
② 学校生活で繰り返し指導し学習規律を徹底させ、学習を支える基盤作りをする。
③ ノーチャイムを取り入れ、時間を意識した行動と時間管理ができるようにする。
④「玉小ルールアンケート」を年２回児童に実施し自己評価をさせ、指導に生かす。
⑤ 家庭学習スケージュール表の取り組み、各自家庭学習ｽｹｰｼﾞｭｰﾙ表を作成して１週間意識して取り組む。

３　説明資料

玉小ルールで学習規律の徹底



家庭学習スケジュールの取り組み（９月）

４　成果

① ノーチャイムにより、時計を確認しながら、始まりと終わりを意識して行動できるようになった。
② 次時学習の準備をしてから休んだり、授業開始前にきちんと席について待てるようになった。
③ 筆箱の中や机上の整頓ができるようになり、学習に集中できるようになった。
④ 毎学期始めに玉小ルールを確認することで、自分の行動をよくしたいという意識が高まった。
⑤ 家庭学習ｽｹｰｼﾞｭｰﾙは定期的に実施して自分で積極的に考えて勉強する力をつけていくことができた。

５　課題

① 学習姿勢をはじめ、どの項目でも継続指導が必要な児童がいるため、模範となる児童をほめて意識を高め、できるようになるまで指導を徹底していく。
② 自己存在感を高めるため、担任はもとより全職員で「誉め言葉のシャワー」を浴びせる実践を広げていく。

【作成要領】

学校名 **南城市立百名小学校**	連絡先　TEL：　098-948-1012 E　メ　ー　ル　： hyakusho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項

②「特色ある取組」（カリキュラムマネジメント・ICT を活用した事例等）

タイトル：「『学ぶこと』の目的意識を育む教育活動の推進」

２　実践内容

現在、学校教育に求められているのは、「知識や技能習得だけでなく自ら課題を発見し、自ら判断して行動する力を育み、よりよい社会や人生を切り拓いていく力の育成」だと言われている。

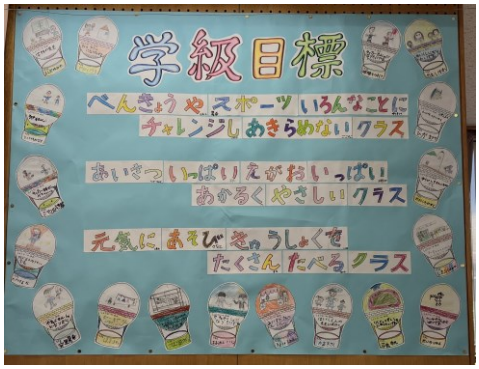
先行きが不透明で将来の予測が困難な時代と言われる中、本校は児童一人一人が、自らの良さや可能性を行かした将来の目標に向けて、「学ぶこと」の目的意識を育む教育活動を、試行錯誤しながら学校全体で取り組んでいる。

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

（１）各学年・学級目標の設定

「学ぶこと」・「将来の夢」・「希望」を育む土台となる学級に、支持的風土を醸成させるための取組として学級目標の設定を行っている。また、その取組の評価を毎月行うことで学級目標の達成状況を「見える化」し目標の進捗状況を児童に意識させている。

2 年学級目標①

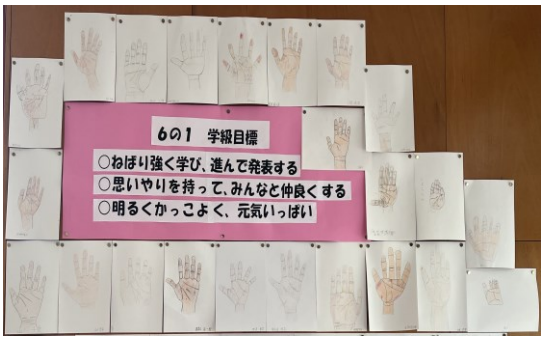


2 年学級目標②

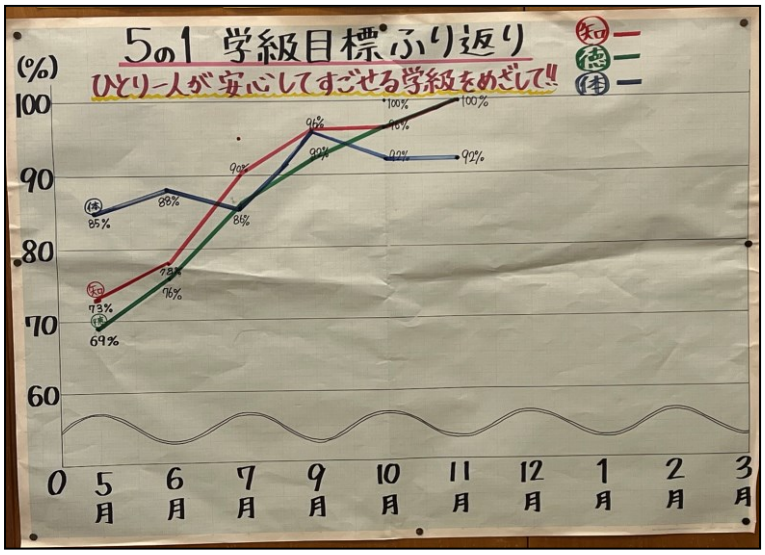
3 年学級目標

4 年学級目標

5 年学級目標



6 年学級目標



毎月の学級目標の達成状況を確認。

（2）キャリア教育との連動

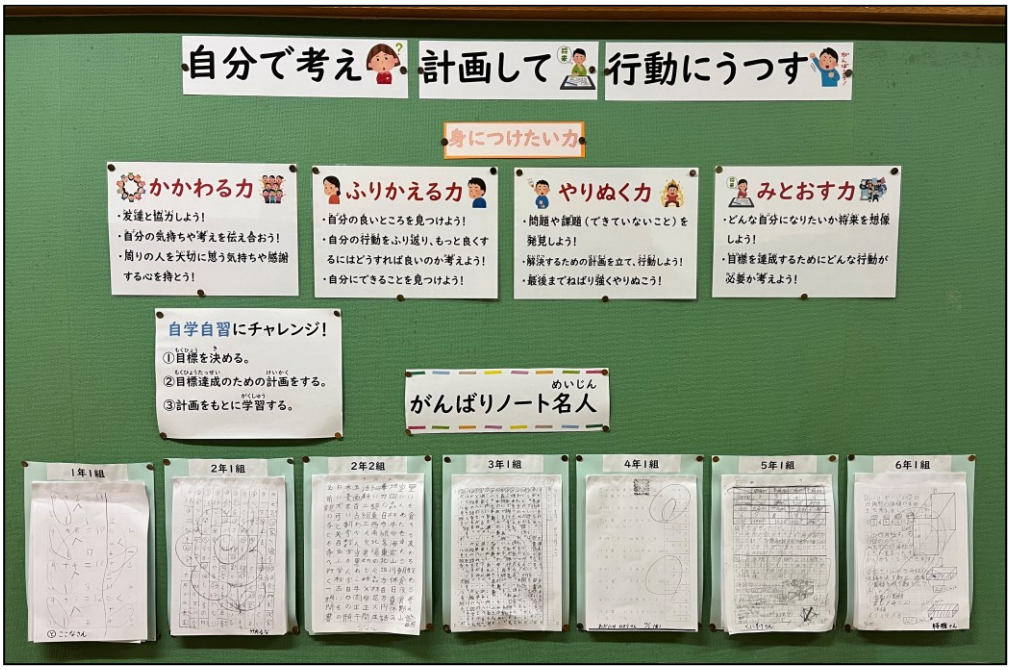
キャリア教育の中で、自分の良さや可能性を活かした目標設定を行い、将来の職業観・勤労観につながる「学ぶこと」の目的意識を育む活動を充実させていく。

まず、キャリア教育に関する掲示板を常設。掲示物で各学年・学校全体の取組を見える化し、「自分で考え、計画し行動できる児童の育成」を図る。

①「百名っ子の夢」の掲示

各学級でキャリアパスポートに関連した取組の一つ。児童一人一人の将来の夢を掲示し、学校で学ぶ目的を確認した。

②「キャリア教育で身に付けさせたい力」の掲示



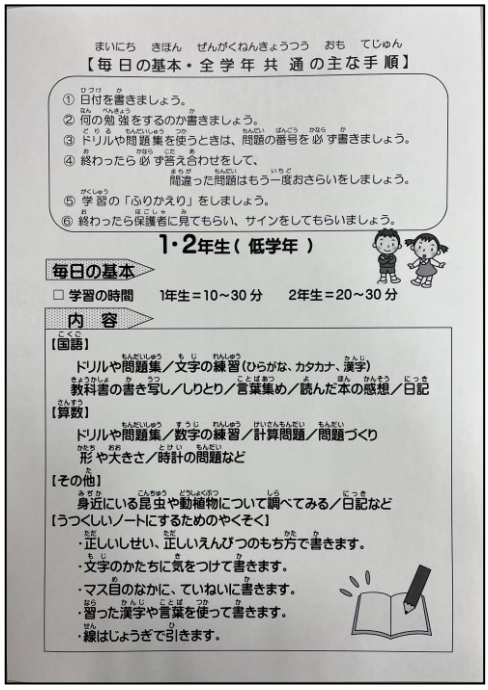
「百名っ子の夢」の掲示で確認した「夢やなりたい自分」の実現に向け、沖縄県のキャリア教育で身に付けさせたい力「か・ふ・や・み」の視点を掲示。目標を達成するために継続して努力する態度、自立して学習することのできる力の育成を図る。

また、各学年でお手本となる「がんばりノート名人」を随時掲示し学習意欲の喚起を行っている。

③家庭学習における全学年共通の主な手順を作成。

沖縄県教育委員会から提示のあった「家庭学習の手引き」を参考にした、全学年共通の手順を作成、学級保護者会で周知し家庭での支援・見取りの協力依頼を行った。

また、児童の「がんばりノート」に貼り付け基本的な学習の進め方の確認を行った。



まいにち　きほん　ぜんがくねんきょうつう　おも　てじゅん
【毎日の基本・全学年共通の主な手順】

① 日付を書きましょう。
② 何の勉強をするのか書きましょう。
③ ドリルや問題集を使うときは、問題の番号を必ず書きましょう。
④ 終わったら必ず答え合わせをして、
間違った問題はもう一度おさらいをしましょう。
⑤ 学習の「ふりかえり」をしましょう。
⑥ 終わったら保護者に見てもらい、サインをしてもらいましょう。

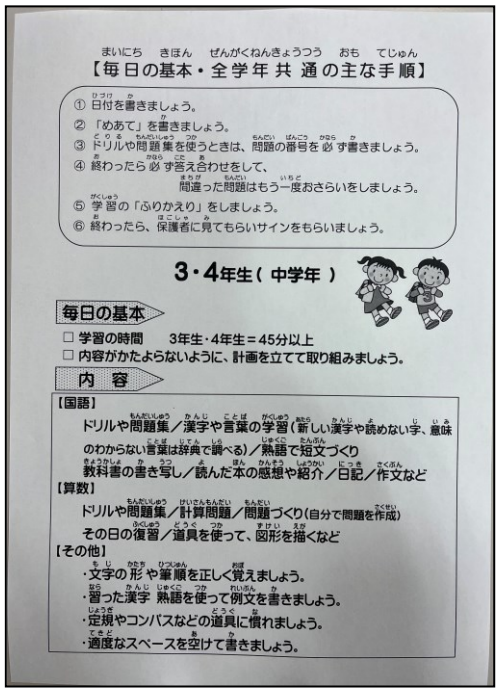
1・2年生（低学年）

毎日の基本

□ 学習の時間　1年生＝10～30分　2年生＝20～30分

内容

【国語】
ドリルや問題集／文字の練習(ひらがな、カタカナ、漢字)
教科書の書き写し／しりとり／言葉集め／読んだ本の感想／日記
【算数】
ドリルや問題集／数字の練習／計算問題／問題づくり
形や大きさ／時計の問題など
【その他】
身近にいる昆虫や動植物について調べてみる／日記など
【うつくしいノートにするためのやくそく】
・正しいしせい、正しいえんぴつのもち方で書きます。
・文字のかたちに気をつけて書きます。
・マス目のなかに、ていねいに書きます。
・習った漢字や言葉を使って書きます。
・線はじょうぎで引きます。



まいにち　きほん　ぜんがくねんきょうつう　おも　てじゅん
【毎日の基本・全学年共通の主な手順】

① 日付を書きましょう。
② 「めあて」を書きましょう。
③ ドリルや問題集を使うときは、問題の番号を必ず書きましょう。
④ 終わったら必ず答え合わせをして、
間違った問題はもう一度おさらいをしましょう。
⑤ 学習の「ふりかえり」をしましょう。
⑥ 終わったら、保護者に見てもらいサインをもらいましょう。

3・4年生（中学年）

毎日の基本

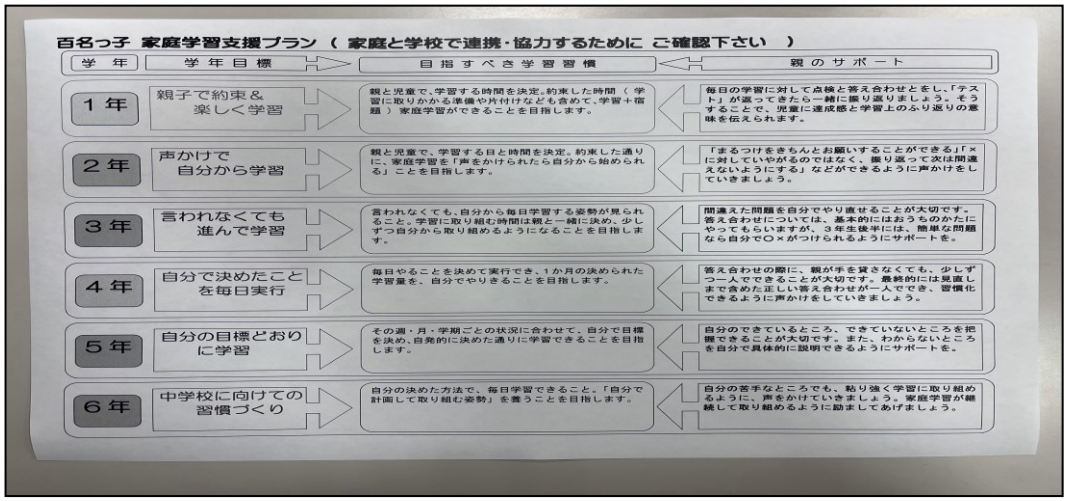
□ 学習の時間　3年生・4年生＝45分以上
□ 内容がかたよらないように、計画を立てて取り組みましょう。

内容

【国語】
ドリルや問題集／漢字や言葉の学習（新しい漢字や読めない字、意味のわからない言葉は辞典で調べる）／熟語で短文づくり
教科書の書き写し／読んだ本の感想や紹介／日記／作文など
【算数】
ドリルや問題集／計算問題／問題づくり(自分で問題を作成)
その日の復習／道具を使って、図形を描くなど
【その他】
・文字の形や筆順を正しく覚えましょう。
・習った漢字 熟語を使って例文を書きましょう。
・定規やコンパスなどの道具に慣れましょう。
・適度なスペースを空けて書きましょう。

④百名っ子　「家庭学習支援プラン」の作成

家庭と学校で連携・協力するための資料として作成。家庭学習での学年目標、各学年における親の目指すべきサポート、各学年における目指すべき学習習慣を記載。学級保護者会で周知、協力依頼を行った。



百名っ子 家庭学習支援プラン（家庭と学校で連携・協力するために ご確認下さい）

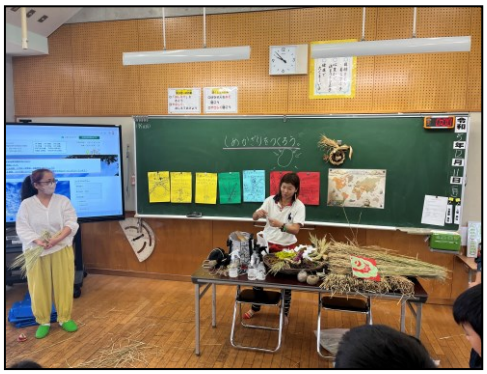
学年	学年目標	目指すべき学習習慣	親のサポート
1年	親子で約束＆楽しく学習	親と児童で、学習する時間を決定。約束した時間（学習に取りかかる準備や片付けなども含めて、学習＋宿題）家庭学習ができることを目指します。	毎日の学習に対して点検と答え合わせをし、「テスト」が返ってきたら一緒に振り返りましょう。そうすることで、児童に達成感と学習上のふり返りの意味を伝えられます。
2年	声かけで自分から学習	親と児童で、学習する目と時間を決定。約束した通りに、家庭学習を「声をかけられたら自分から始められる」ことを目指します。	「まるつけをきちんとお願いすることができる」「×に対していやがるのではなく、振り返って次は間違えないようにする」などができるように声かけをしていきましょう。
3年	言われなくても進んで学習	言われなくても、自分から毎日学習する姿勢が見られること。学習に取り組む時間は親と一緒に決め、少しずつ自分から取り組めるようになることを目指します。	間違えた問題を自分でやり直せることが大切です。答え合わせについては、基本的にはおうちのかたにやってもらいますが、3年生後半には、簡単な問題なら自分で○×がつけられるようにサポートを。
4年	自分で決めたことを毎日実行	毎日やることを決めて実行でき、1か月の決められた学習量を、自分でやりきることを目指します。	答え合わせの際に、親が手を貸さなくても、少しずつ一人でできることが大切です。最終的には見直しまで含めた正しい答え合わせが一人でき、習慣化できるように声かけをしていきましょう。
5年	自分の目標どおりに学習	その週・月・学期ごとの状況に合わせて、自分で目標を決め、自発的に決めた通りに学習できることを目指します。	自分のできているところ、できていないところを把握できることが大切です。また、わからないところを自分で具体的に説明できるようにサポートを。
6年	中学校に向けての習慣づくり	自分の決めた方法で、毎日学習できること。「自分で計画して取り組む姿勢」を養うことを目指します。	自分の苦手なところでも、粘り強く学習に取り組めるように、声をかけていきましょう。家庭学習が継続して取り組めるように励ましてあげましょう。

（3）各種専門機関との連携を通して、学ぶ目的意識や職業観・勤労観を育む

外部講師による出前授業の実施をとおして児童が現実の社会について学ぶとともに、「学ぶこ

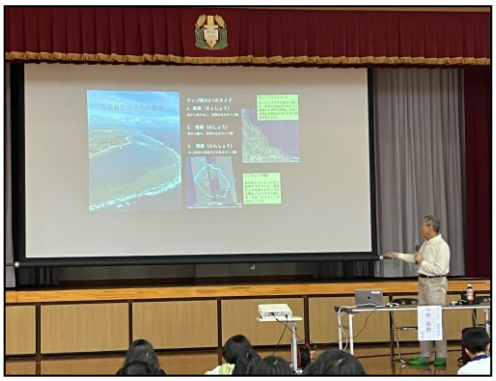
と」について新しい視点を得ることを目的としている。外部講師の職業や経験を通して児童は将来の進路について考えるきっかけと、学ぶ目的意識を高めることができた。

写真プログラム



しめ飾り作

子どもの国サイエンスショー



OIST 地域連携の出前授業

４　成果

・支持的風土のある学級を基礎に「学ぶことの目的意識」を学校教育活動全体でマネジメントすることができた。

・家庭学習に対する学校の取り組みを保護者に周知し、家庭と学校の連携を確認することができた。

５　課題

・家庭学習の「質」を高める更なる取組。

・「個別最適な学び」につながる ICT の活用。

【様式１】

団体名	連絡先　TEL：　098-948-1302
南城市立知念小学校	E メール：chinensho@edu.city.nanjo.okinawa.jp

1　実践事項（①地域・関係団体との連携）

タイトル:「保・幼・こ・小・中・地域・関係団体との連携を生かし、異学年交流で社会性を育てる児童の育成を目指して」

2　実践内容

異学年交流学習として、1，3，5 年生は保・幼・こと異学年交流学習を行い、各学年では地域人材や関係団体と連携した授業を行った。

1,3,5 年生

「保・幼・こ」の先生方と連携し、月に一度 1，3，5 学年の各学年に園児を教室に招いて交流学習を行った。交流学習後に、担当した先生同士で意見交換を行い、児童や園児の様子や交流学習の成果や課題について話し合った。

２年生

生活科の「野菜名人」として、地域人材を活用して野菜作りのアドバイスを教えてもらい、自分たちの野菜作りを実践した。

地域探検で出た疑問を、地域の詳しい方に教えてもらう学習を行う予定である。

４年生

地域人材を生かして、「稲作体験」に取り組み、田植えから稲刈りまで体験した。また、知念の稲作の歴史について調べ、学んだことを新聞でまとめ発表した。

６年生

総合学習「南城市の未来を考えよう」の学習で、南城市を良くするために「海洋ゴミ」と「地域行事」の２つの視点から学習を行った。

・RBC の「美らビーチクリーンプロジェクト」の出前授業で県内における海ごみの実態と、その問題点について学んだ。実際に知念の海（海野ビーチ）でビーチクリーンを行った。
・知念小・中で、地域の伝統行事「海野ハーリー」に参加し、6 年生は事前のビーチ清掃やハーリーに参加して地域の行事について学んだ。
・地域の人材を活用して「紅型色付け体験」を行う予定。

全学年

・春の遠足では異学年でペアを作り、レクリエーションやお弁当を通して異学年交流を深めた。
・「校内長縄跳び大会」を開催し、2 学年で合同チームを作り、高学年が低学年を補佐するなど、発達段階に応じた対応を学ぶことができた。
・地域の伝統行事「ヌ―バレー」や「知念綱引き」に参加し、地域の行事に親しみながら体験したことを作文にまとめ振り返った。

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

２年【野菜名人】

４年【稲刈り体験】

６年【ビーチクリーンプロジェクト】

４　成果

・保・幼・こ交流学習を通して、発達段階に応じた就学児童や各学年の成長を学び、どのような学習方法が効果的なのか等を意見交流することができた。

・見学や体験活動を通して、実際に目で見たり聞いたりしたことで、地域のすばらしさを実感することができた。

・子どもたち自身が、地域の事について知らないことにたくさん気付き、総合の時間に調べたり、お家の人にインタビューしたりするなどして、自分たちの住んでいる地域の行事について関心を持ち調べようとする児童が増えた。

５　課題

・地域の伝統行事について知っている人材が教師側で少ないので、校内研などで地域について触れた研修や、地域人材を招いて講話を行ってもらうなど、地域の事について知識を深める必要がある。

・新しい年度になってからでの計画では、日程調整や交渉は担任のみでは困難なので、前年度で計画を練り、次年度に引き継げる体制づくりを整える。

【報告書様式】　　令和５年度

団体名	連絡先　TEL：098-948-3515
南城市立久高小学校	E メール：kudaka-kyoto@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項（今年度の実践）

タイトル：「　学ぶ楽しさを味わおう！　」

２　実践内容

(1) 学習規律の徹底

① 学習用具の準備

授業が終了した時点で、学習用具を片付け、次の授業の準備をする。

② 授業開始・終了時刻の徹底

２分前着席・１分間黙想

③ 学習態度の指導

・正しい姿勢で座る。
・学習の始め・終わりの挨拶をきちんとする。
・みんなに聞こえる声で話す。
・話す人を見ながら最後まで聞く。

(2) 読み・書き・計算の力の育成

朝学習の時間を使って、基礎基本の定着を図った。

算数・・前学年の復習プリント

国語・・学年末の漢字 50 問テストを１から６年生まで順に取り組む

(3) 掲示物による環境づくり

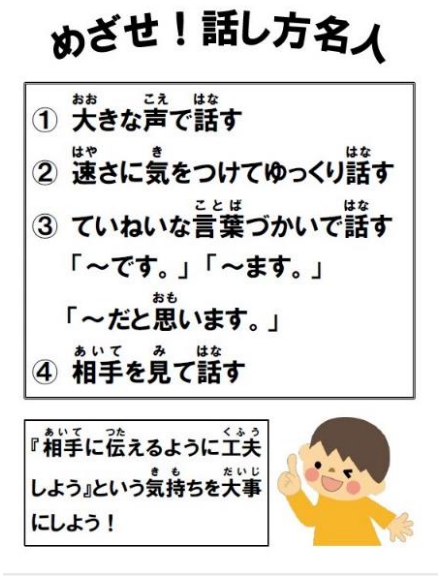
(4) 伝え合う力の形成

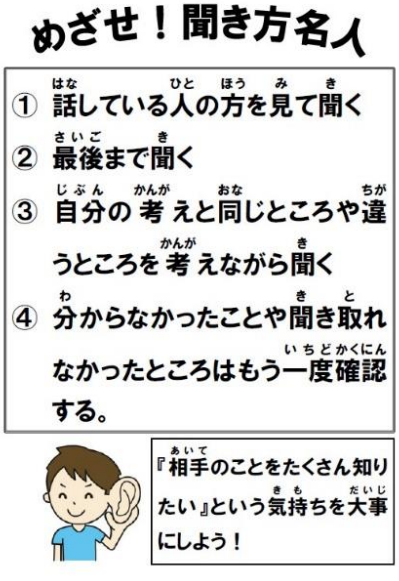
「話し方名人」、「聞き方名人」

(5) 認知機能強化トレーニング「コグトレ」

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

伝え合う力の形成





４　成果

(1) 学習規律を徹底させることで、学びに向かう姿勢が高まってきた。
(2) 伝え合う場面を授業の中で意図的に作ることで、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりすることの良さを感じてきた。
(3) 読み・書き・計算の力の育成を図ることで、主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。

５　課題

(1) 転出入が多く、継続した指導が難しい。
(2) 少人数の為、伝え合う場面で多様な意見が出にくい。
(3) 基礎学力の定着は、学校だけの取り組みでは限界がある。家庭や留学センターとも協力が必要。

【様式１】

団体名：南城市立佐敷小学校	連絡先　ＴＥＬ：098－947－6212 Ｅメール：sasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項（①）「南城市立佐敷小学校の取り組み」

２　実践内容

(1)【保・幼・こ・小連携】

◎スタートカリキュラム

本校では、幼稚園・保育園等から入学してくる児童がギャップを感じずスムーズに小学校生活に適応できるよう、昨年度から、就学直後の特別カリキュラムとして『佐敷小学校スタートカリキュラム』を計画・実施し、連携する保育園・幼稚園等から参観者をつのり、授業や学校生活の様子を公開した。目的（何のために）及び実践内容（何を）と手立て（どのように）について１学年を中心に各クラスそろえる実践を意識して取り組んだ。

○保幼こ小連携合同研究会　＠玉城小参観（5 月 18 日）

(2)【小・中連携】

本校では、指導力向上に向け、地区学力向上推進室開催の各研修・公開授業に職員を派遣し、小中連携における公開授業を実施した。

◎小中連携合同研究会（算数・数学）

＠与那原小参観（6 月 22 日）　＠大里中参観＠（9 月 19 日）

＠西崎中参観（11 月 7 日）　＠大里中参観（12 月 1 日）

◎小中連携合同研究会（外国語）　＠馬天小参観(10 月 2 日)＠佐敷中参観（12 月 12 日）

◎中学校校区合同研究会　公開授業（10 月 12 日）

3 年：外国語活動　4 年：国語　5 年：算数　6 年：道徳　特支：自立活動・各教科

◎小中連携合同研究会（外国語）＠佐敷小　代表授業　久高優奈教諭（4 年 2 組）（12 月 8 日）

◎校区校長相互授業参観・連携協議（佐敷中・佐敷小・馬天小校長　1 学期 3 学期）

◎校区生徒指導・教育相談担当情報交換会（新入生の情報共有・校則の指針について等）

(3)【地域・関係団体との連携】

◎全体での地域・関係団体との連携

・CS 構成員との顔合わせ・授業公開・情報交換会(2 学期)
・朝の立哨活動（支部こども会）
・広報誌発行(PTA 広報部：各学期)
・童話お話大会(PTA 総務部：2 学期)
・地区陸上競技大会・体育学習発表会(PTA 保体部：2 学期)
・PTA さしきっ子祭り（PTA　11 月 18 日）

◯低学年

・水遊び・水泳学習における見守りボランティア（保護者　1 学期）
・交通安全教室（与那原警察署　1 学期）
・町探検（地域事業所　1 学期）
・図書館見学（公立図書館　2 学期）

○３年
・ボッチャ体験（南城市社会福祉協議会　２学期）
○４年
・車いすツインバスケットボール体験（沖縄フェニックス　１学期）
・尚巴志アウトリーチ事業(南城市文化課　４月）
・環境教育「SDGｓワークショップ」（ミライラボより講師来校　２学期）

○５年
・田植え体験（1 学期）
・環境教育「SDGｓワークショップ」（ミライラボより講師来校　２学期）
・環境教育「プラスチックごみいついて」（沖縄県地域環境センターより講師来校　２学期）
・知念漁港見学(知念漁業組合　２学期）
・佐敷干潟フィールドワーク（地域ボランティア　２学期）
・環境教育「交通交通機関の活用」（寺本潔東京成徳大学特任教授　２学期）
○６年
・着衣水泳出前授業（島尻照合　１学期）
・環境教育「自然科学エネルギー」（琉球大学工学部より講師　２学期）
・環境教育「モビリティマネジメント」
（寺本潔東京成徳大学特任教授　南城市交通課　交通モビリティ財団　２学期）
・体育学習発表会エイサー演舞の地謡
（琉球古典音楽野村流松村統絃会、沖縄民謡協会より演者来校）

４　成果
・保護者地域・関係団体の教育参加意識が高まり、学校・過程・地域社会の相互の協力のもとに、課題や学習に主体的に取り組もうとする児童を地域をあげて育成しようとする雰囲気が醸成することができた。
・教職員自身が生涯学習者として生活学習の理念の実現に寄与する観点から、より地域の教育資源に対する理解を深め、自己啓発を図ることができた。

５　課題
・子どもたちの学びや保護者・地域の学校教育参画をとめない方法を考案していく必要がある。
・地域の人材を学校支援ボランティアとして効果的に活用する上で必要となる事前の打ち合わせ等に係る時間の捻出が難しい。

【作成要領】

学校名	連絡先　TEL：　098-947-6535
南城市立馬天小学校	Ｅメール：basho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項

タイトル：「　〈チーム馬天〉で取り組む学力向上　」

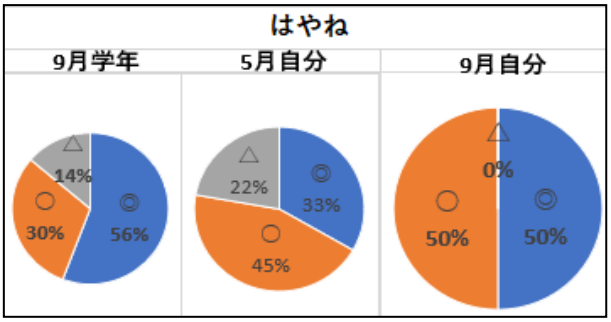
２　実践内容

（１）生活リズムの確立に向けた取り組み「生活リズムチェック」
（２）カリキュラムマネジメントを意識した年間ポートフォリオの作成
（３）校内研と連動した授業の質的改善の取り組み
（４）自主的な家庭学習(自主学習)の推進(今後はタブレッドドリルを活用した取り組みを実践予定)

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

（１）生活リズムの確立に向けた取り組み

「早寝・早起き・朝ごはん・家庭学習」の基本的な生活リズムの確立に向けて、個人で目標を立て、それが達成できるように取り組んだ。今年度は個人のタブレッドを活用し、結果を視覚化できるようにした。そうすることで１学期と２学期の自身の変容を比較することができ、振り返りの材料にもなった。それを個人面談や学級保護者会などで保護者と情報を共有することで、家庭での生活リズムの確立に向けて意識付けをすることができた。



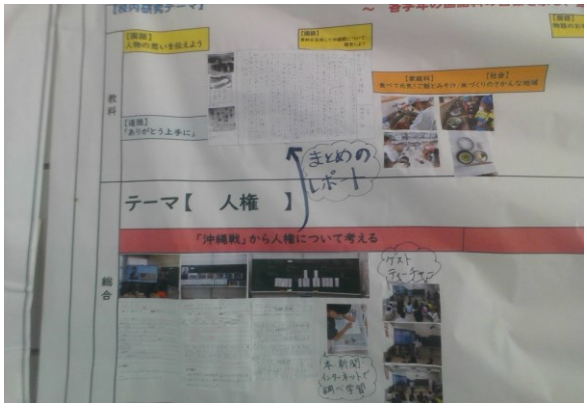
生活リズムチェックの取り組みの一例

（２）カリキュラムマネジメントを意識した年間ポートフォリオの作成

学期毎の行事や学習活動を１枚の紙に視覚的にまとめることで、年間の学習内容を横断的に分かりやすく把握することができた。又、教科横断的な視点で学習内容を組み立てて実践することで、質的な学びの向上を図り、学期毎に取り組む内容について情報交換を行うとともに、成果と課題を見い出しながら進めた。学習内容や行事においては、地域の方や関係団体を講師に招いて学習を行った。

※講師一例…地域人材→「シーサーづくり(図工)」「空手指導(運動会)」など
関係団体→「ハンセン病啓発講話」「人権教育‥数名の講師」「移民学習」など

カリキュラム一覧(全学年で作成)



総合での学びを他教科にも活用(教科横断的な視点)

（３）校内研と連動した授業の質的改善の取り組み

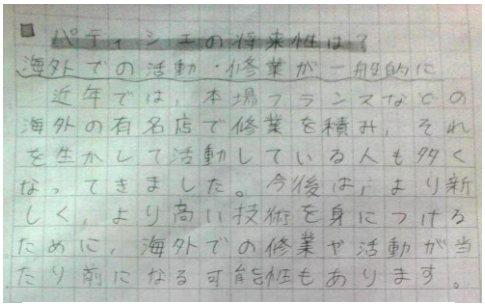
学力向上の取り組みと、校内研の取り組みを連動させ、国語科を中心に「児童の表現する力を高める授業づくり」を念頭に、主体的で対話的、深い学びが展開できるよう各学年で研究を行っている。また、「一人一授業」「低中高の代表授業」など、他学年の授業を参観し意見交換することを通して、授業の質的改善の取り組みを行っている。

児童の表現する力を高める授業づくりの研究(代表授業の様子)

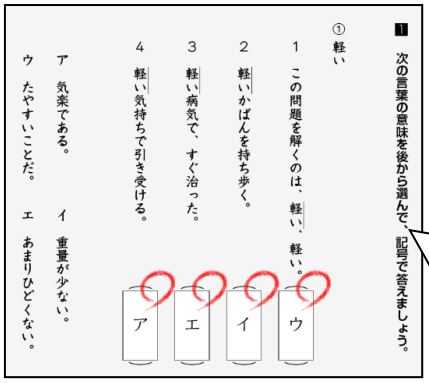
授業参観後の意見交換会

（４）自主的な家庭学習の推進

宿題と家庭学習を区別し、教師から与えられた課題のみに取り組むのではなく、児童が自分に必要な学習や、興味ある分野について自ら考え取り組む家庭学習を推進（高学年では「未来ノート」と名付けている）。取り組む量などは、学年の実態に応じて臨機応変に対応している。また、今後はタブレットドリルも活用し、既習学年の振り返りや苦手な内容の復習など、個人に適した効果的な学習方法の構築を目指し取り組んでいく。



興味のある分野についての学習
「パティシエの将来性」



タブレットドリルの一場面(国語)

タブレットドリルの
メリット
① ペーパレス
② 自動採点
③ 学習履歴が残る
④ 落ち込み箇所の把握
⑤ 既習学年の復習
⑥ 個人の実態に応じた
学習内容の精選など

４　成果

○　学力向上と、校内研の取り組みを連動させ、「児童の表現する力を高める授業づくり」について、学級や学年、学校全体で情報交換を行い、授業の質的改善の取り組みを行うことができた。

○　カリキュラムマネジメントを教科横断的な視点で組み立て、年間のポートフォリオのように、分かりやすく可視化することで、年間の学習活動が把握しやすく、次年度の計画をたてる上でも有効な資料作りが出来た。

５　課題

●　自主的な家庭学習の推進は、昨年度から継続的に実施しているが、個人に適した学習内容の精選や担任の見取りなどにおいて、課題や負担が感じられる。今後はタブレットドリルの活用などを通して、個にあった効果的な自学自習の工夫や実践に取り組んでいきたい。

【報告書様式】　　令和５年度

団体名	連絡先　TEL：098-945-2362
南城市立 大里北小学校	E メール：ookita-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項（　②　今年度の実践　）

タイトル：「「主体的・対話的で深い学び」を育む授業実践を目指して」

２　実践内容

（１）校内研修を通した授業改善

国語科を中心とした校内研修を通して、評価の設定や単元計画の立て方を隣学年中心に取り組み、全職員が同じベクトルを意識した授業づくりを行っている。

（２）学習の基板となる規律の徹底

「確かな学力」の定着に向け、その素地となる学習規律を身につけさせるため、「大里北 10 の学習ルール」を設定し、児童の意識づけを行っている。

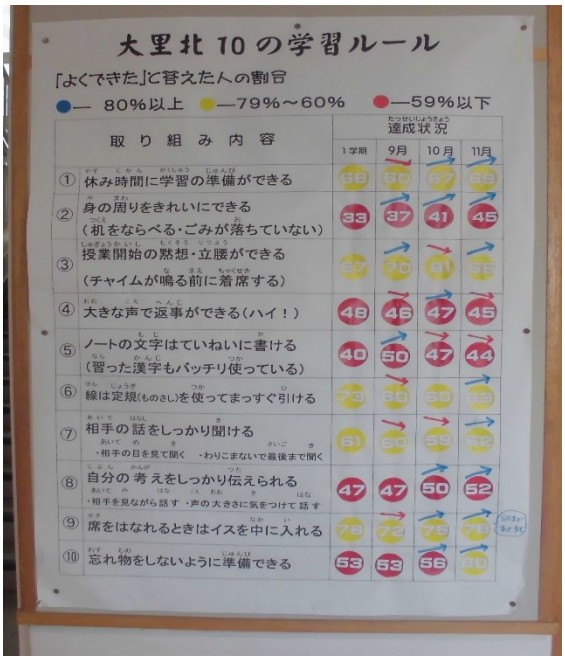
（３）カリキュラムマネジメントの取組における学習指導

教科横断的な学習を効果的に進めるために、各学年においてカリキュラムマネジメントに取り組み、児童が見ることで意欲的になれるよう掲示している。

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

（1）校内研修を通した授業改善（国語一人一授業）

（2）大里北10の学習ルール



（3）各学年のカリキュラムマネジメントの取り組み

4　成果

○児童が授業の中で多くの対話活動を経験することにより、自分の考えを意欲的に他者へ伝えることができるようになってきた。

○10 の学習ルールにおける学校全体の良いところや改善点を視覚的に捉えることができ、意識することができるようになってきた。

○カリキュラムマネジメントの表を仕上げていくことで、児童のその当時の気持ちや考えをいつでも振り返ることができ、児童自身の成長を感じることができた。

5　課題

●友達の考えを聞いた際に自分自身の考えがどのように深まったか実感させる工夫。

●「10 の学習ルール」を児童一人ひとりの成長を感じさせる工夫。

【様式１】　　令和５年度

団体名 **南城市立大里南小学校**	連絡先　TEL：**098 - 945 - 2455** Eメール：ozatominamisho@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項（①「特色ある取り組み」）

タイトル:「主体的に学ぶ児童の育成を目指して」

２　実践内容

（１）　学習規律の徹底（そろえる実践）

主体的・対話的で深い学びのための学習環境を整えるため、学習規律（そろえる実践）を確認し、全学年で統一した指導を行った。毎学期のスタート時に、スライドで再確認を行った。

（２）　クロムブックを活用し、児童が主体的に関わる授業の実践

各学年ともクロムブックを活用して、調べ学習や考えを深めあう交流活動を行った。

① インターネットを活用した調べ学習（国語・社会・理科・図工・外国語・総合）

② 実験の写真や調べたことをスライドでまとめ発表したり、他のグループと考えを比較検討したりする活動（理科・国語）〈資料１・２・３〉

③ 器械運動で動画の撮影、ボール運動でジャムボードを使ってチームの作戦を考える。（体育）〈資料４〉

④ ICT 支援員を活用したプログラミング授業の実践（算数）

⑤ 作品の写真を撮影し、鑑賞活動（図工）

⑥ タイピング練習

（３）　MIMによる読みの流暢性を目指した指導の工夫

１学年の入門期の指導で、特に習得が困難といわれる「特殊音節」について、効果的に指導を行うため、通常学級においてすべての子どもたちの学びを保障する学力指導モデル「多層指導モデル MIM」を取り入れた実践を行った。読みの流暢性を高めていくことを目的とし、校内研修の取組の一環として位置づけ、全校体制で取り組んでいる。〈資料５・６〉

（４）　児童と教師が「学び・育ち」を実感するカリキュラム・マネジメント表

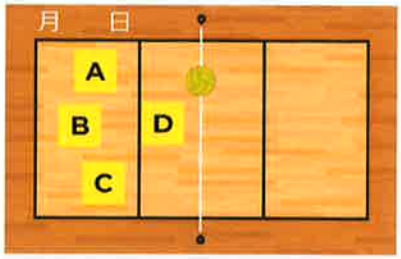
本校では、令和２年度より、教科的横断的な指導に役立てるためにカリキュラム・マネジメント表を活用している。本年度は、学校教育目標やめざす子ども像に迫ることを目指したカリキュラム・マネジメント表となるよう改善し、児童の学習や行事に対するふり返り等を写真と共に掲載し、児童の「学び・育ち」が実感できるようにした。この表を学年の掲示板に貼り児童と共有することで、児童は自身の努力や成長を実感でき、教師は PDCA サイクルを繰り返して、指導の充実を目指すことができるものとなっている。〈資料７・８〉

3　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

〈資料1〉調べ学習

〈資料2〉スライドで発表

〈資料3〉意見文の発表



〈資料4〉バレーボールの作戦

〈資料5〉長音の視覚化

〈資料6〉動作化

〈資料7・8〉各学年のカリキュラム・マネジメント表

4　成果

○クロムブックを活用することで、児童が主体的に取り組み、交流学習や発表などお互いに学び高め合う授業展開ができた。

○MIM では、視覚化・動作化により表記と音節の理解がスムーズにできた。また、児童の言語能力の実態把握ができ、次年度引継ぎ「言語に関して要支援の児童」が明確になった。

○学校教育目標やめざす子ども像の実現に向け、教科等横断的な指導、単元を見通した指導について修正し、次年度の指導をさらに効果的にすることができる。

○カリキュラム・マネジメント表を各学年の掲示板に掲示することで、子どもたちが自分の「学び・育ち」を実感しやすい。

5　課題

●全学年において、クロムブックを活用した実践の充実、情報モラルやマナーについての指導

●言葉が正しく読めることによる、読みの力（読解）につなげる授業実践における手立て

●MIM においては、経年変化の分析調査について

学校名 **南城市立玉城中学校**	連絡先　TEL：　098-948-7105 E メール：tamachu-kyoutou@edu.nanjo.okinawa.jp

タイトル：「　主体的・対話的で深い学びを目指す学校づくり　」

1　実践事項

【実践事項① 地域資源の活用】

家庭や地域と連携し、各教科・職場体験学習・平和集会等で、地域の「人材」「自然」「文化」「産業」を 活用した学習を行う。

【実践事項② 学習環境の充実】

職員全体の共通理解のもと、日常の授業の中で共通実践事項の徹底を行い、支持的風土のある学級づくりを目指す。

【実践事項③ 確かな学力の充実】

学力向上マネジメントを機能させることにより、学力向上の具体的な到達目標を共有し、手立ての明確化・徹底した取り組み、評価と連動した改善を行うことで、実践意欲を高め、学校全体で授業改善を推進し、生徒の学力の向上を図る。

【実践事項④ 校内研修の充実】

校外・校内研修と教科会・学年会を連動させ、目指す授業像の共有により授業改善・授業力向上を図るとともに、その具現化として一人一公開授業および研究授業参観の徹底を行う

【実践事項⑤「学級活動・生徒会活動の充実」】

支持的風土をつくる学級経営・生徒指導の三つの機能を生かした授業の日常化・学びに向かう集団づくりを進める学級活動及び生徒会活動の充実等により、自主性を高める取組を実践し、互いに高め合える集団づくりを図る。

2　実践内容

【実践事項① 地域資源の活用】

①6月：奥武島海神祭（ハーリー）にて地域の一員としての自覚と郷土への愛着を育む。

②6月：平和学習会を通じて平和の尊さを学ぶ。

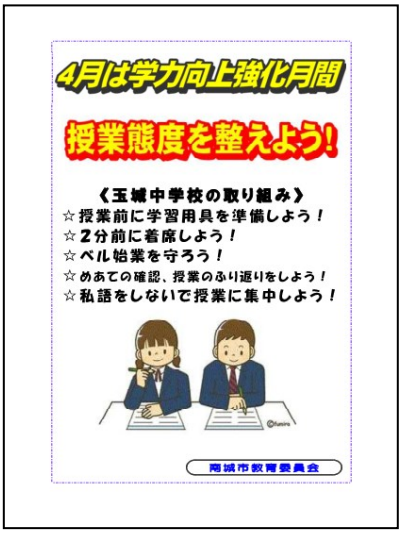
③10月：地元の小売店で職場体験。

【実践事項② 学習環境の充実】

①集会や授業の前に学習用具の準備を済ませ「2分前着席」「1分間黙想」を実施し、気持ちを落ち着けて集中力を高めてから授業に臨む。

②学習支援ボランティア「ミントゥンの会」の補習授業（数学・英語）

③大学生による放課後学習ボランティア



【実践事項③ 確かな学力の充実】

①『学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』『「問い」が生まれるサポートガイド』等を活用した授業の構築を図るため、一人一授業の公開と参観をすすめる。

②学力向上強化月間（4月・9月・1月～3月）にて、家庭学習の習慣化と基本的生活習慣の形成を図る。

③曜日ごとに教科それぞれの課題を用意し、授業と連動した家庭学習の時間を確保させた。家庭への協力を依頼し子どもたちの頑張りを褒め、次の取り組みへの意欲を持たせる。

【実践事項④ 校内研修の充実】

①校内研修の研究主題『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善』 に沿って授業づくりを教科研究部会で検討、実践を行った。

②また、本年度は、指導主事招聘授業を5名の教諭が行った。 授業者は、授業プランシートを作成し、授業を公開する。特に今年度は、より生徒の理解を深め学習意欲の向上につなげるため、ICT機器 （新型電子黒板・クロムブック）等を取り入れた授業の実践を意識した。

3　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

①学習支援ボランティア「ミントゥンの会」入慶田本（いりけだもと） 昌義氏による
「3年生へ贈る朗読会」

②保護者による「朝の読み聞かせ」

③マナー講習会

4　成果

〇家庭学習強化月間では、曜日ごとに教科を決め、授業と連動した課題を与え、学習することができた。
〇各主任や教科担当と連携し、学習支援を必要とする生徒を抽出できた。
〇一人一公開授業をすることで、教師一人一人の授業に対する意識が高まり、授業改善が推進されている。
〇教育委員会の地域コーディネーターや学習支援ボランティア「ミントゥンの会」と連携ができた。
〇学習支援を受けた生徒から「分かりやすい」「個別で支援してもらえるのでいい」との声があった。

5　課題

〇正答率が 30%未満の生徒の基礎的・基本的な力を伸ばすための手だてや支援策。
〇「2分前着席」「1分間黙想」といった共通実践事項が徹底できていない場面があった。
〇クロームブックの正しい使い方が徹底できていない。

【報告書様式】　令和５年度

団体名 **南城市立知念中学校**	連絡先 TEL：098-948-1303 Ｅメール：chichu-kyoutou@du.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項（ ① ）

タイトル：「 地域人材と教育資材の活用・地域との連携及び交流活動　」

（１） 地域人材の活用　（２）地域教育資源の活用　（３）地域との連携・交流活動

２　実践内容

（１）地域人材の活用

①【朝の読み聞かせ】

・地域の保護者や関係者を募り、毎月１回朝の読み聞かせを実施した。

②【総合学習における講話】

・社会人講話（2 年総合)、職業人講話（１年総合）において、本校 OB や地元の企業に勤める方々が社会人としての心構えやその職業の魅力等を生徒達に伝え、生徒の質問等にも答えた。

③【学習支援ボランティア】

・放課後の自学自習において学習の支援ができる地域のボランティアを募集している。

（２）地域教育資源の活用

①【総合学習における課題解決型学習】

・2 学年総合学習において企業型 PBL（商品開発）講話を実施し、地元の産業における課題について伝え、生徒達に具体的な取組について考えさせる学習を行った。

②【1 学年・第 1 次産業体験】

・地域の農業や水産業の方達の協力の下、生徒達が体験学習を 3 日間行った。

③【2 学年・職場体験】

・地域の企業やお店、消防署等の協力の下、生徒達が体験学習を 3 日間行った。

④【総合文化発表会における伝統芸能、知名ヌーバレーの披露】

・地域の伝統芸能の１つである知名ヌーバレーに携わる生徒達が、その演目を全校生徒及びその保護者関係者に披露した。

⑤【平和教育講話】

・沖縄戦禍で翻弄された知念に住むある一族の戦争体験について、平和教育担当教員が昨年に引き続き講話を行った。

（３）地域との連携・交流活動

①【海野ハーリーへの参加】

・学校行事として全校生徒が地域のハーリー行事に参加し、地元の人たちと交流したりハーリーの文化を楽しんで体験することができた。

②小中各字児童会・生徒会

・夏休み前に地区ごとに小学生、中学生とその区長さんたちが集まり、区長さんを中心に地域で行う夏休みの計画を立てた。

③環境教育の日ワークショップ

・生徒達が自分の住む地域においてゴミが捨てられている箇所をクロームブックで写真を撮り、その問題について地域ごとに生徒達が集まり問題解決に向けて話し合った。また地域ごとの環境問題とその解決策の案をお互いにシェアすることができた。

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

朝の読み聞かせ

社会人講話１

社会人講話２

職業人講話

企業型 PBL 講話

平和教育講話

小中各字生徒会

第１次産業体験

職場体験

海野ハーリー

知名区ヌーバレー

環境の日ワークショップ

４　成果

・地域人材を活用することにより、さまざまな課題を身近なものとしてとらえ、学習したり体験することができた。また多くの地域の方に学校に足を運んでもらい、地域と共にある学校として学校の取組を理解し協働してもらう良い機会になった。
・地域行事へ参加することで、地域文化に親しみ、地域文化を尊重し守ろうとする意識を向上させることができた。
・総合学習ではキャリア教育の観点から①社会人としての心構え、②将来を見据えた計画的な進路へのアプローチ、③自分で目標を定め、その目標に向かって課題を達成していく自主的主体的な学びの意義な等、自己実現ための要点を学ぶことができた。

５　課題

・将来を見据えて自主的及び計画的に課題に向かう力が弱い生徒がいるので、自分で計画を立てて実行するためのキャリアノートを導入し始めている。
・自主的主体的な学びの支援として、自学自習のためのタブレットドリル（クロームブックで自分のレベルに合わせてできるドリル）を推奨しているが、さらなる活性化が必要である。
・放課後自学自習の時間を設け、学習支援ボランティアを地域の方に募集しているが、なかなか集まらないので教師がローテーションで見守りしていく予定である。

【報告書様式】　　令和５年度

団体名	連絡先　TEL：098-948-3515
南城市立久高中学校	E メール:kudaka-kyoto@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項（今年度の実践）

タイトル：「　勉強の方法を勉強する！！　」

２　実践内容

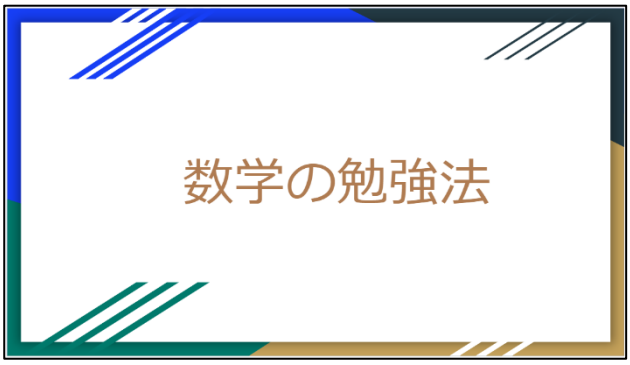
(1) 生徒各自の勉強の方法を振り返る
　① 学習意欲はあるが「勉強の仕方がわからない」と言う生徒が多く、現在どのような勉強をしているのか考えさせた。
　② 卒業生（現高校１年生）がどのように受験勉強をしたか振り返らせた。

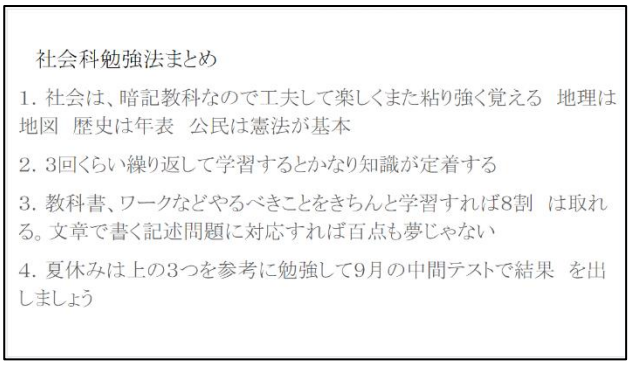
(2) 各教科の勉強の方法を調べる
　① 国語、数学、理科、社会、英語の５教科の勉強方法をインターネット、出版物を中心にして調べさせた。
　② 勉強の続け方についても調べさせた。

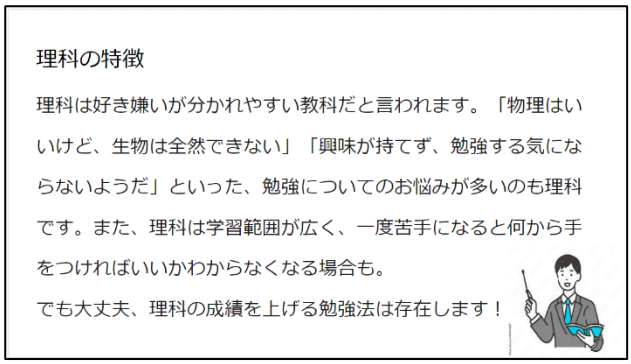
(3) 勉強の方法をスライドにまとめて共有する
　① 各教科の勉強方法をスライドにまとめて、中学部全体で発表・共有した。
　② 12 月に本校で行われた総合学習発表会では、これらのスライドを展示した。

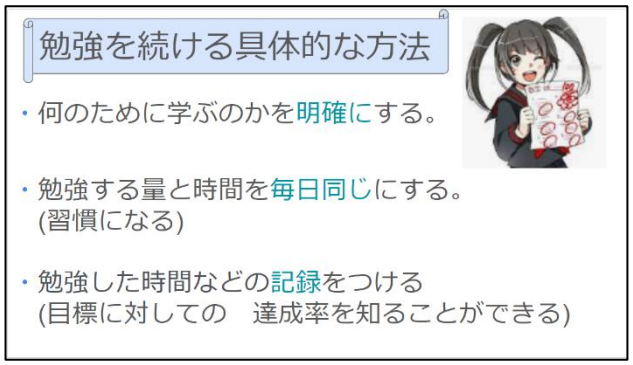
(4) 各教科の勉強の方法を実践する
　① 全教科ではなくどれか１つの教科について実践して、定期テストで結果を見取る。

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）









4　成果

(1) 勉強の方法がわかったことで、意欲的に学習に取り組む生徒が増えた。
(2) 勉強の続け方も調べたことで、定期テスト前から計画的に学習に取り組む生徒が増えた。
(3) 定期テストの後に、どのように勉強してきたかを振り返ることで、各自の勉強の方法を修正していくことができた。

5　課題

(1) 夏休みを迎えたためか、継続して続けることができなかった生徒が多く出た。そのため、定期テストでの取り組みの成果を見取ることが難しくなってしまった。
勉強の方法を見直していくためにも、1 学期の早い段階から取り組み、定期的な勉強の振り返りを行っていく必要がある。
(2) 勉強を継続して行うことは学校だけでの取り組みでは難しく、家庭や留学センターとの協力が必要であると感じた。とくに、基本的な生活習慣から見直す必要がある。

南城市立 佐敷中学校	TEL：０９８－９４７－６２１０ Ｅメール：sachu-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp

１　実践事項　②特色有る取り組み

「学びの質を高める授業つくり」を通した、「確かな学力」

２　実践内容

（１）「確かな学力」の育成を目指した授業改善について

①校内研修での全体研修会の実施

②１人１回以上の公開授業の実施

・公開授業を実施する際には，教務と連携し，職員室の黒板や週報にも掲載し，他の職員への周知を図る。

・公開授業を実施する際には「授業プランシート」を作成し，全職員に事前に配布。

・授業後は，参観シートに良かった点や改善点等を記入し，授業者に還元する。

・他教科の授業もできる限り２回以上は参観する。

③公開授業等を実施した後での教科会における授業リフレクション。

④主事招聘授業（英・国・数・学）による授業後の教科別研修会の実施。

⑤生徒指導の４つのポイントを意識した授業を日常化する。

（２）家庭学習の習慣化について

①家庭学習の習慣化

・教科・内容は生徒自身で決める。

・家庭学習の質の向上を目指し、原則生徒各自の学習能力に合わせた内容。

・学力向上週間中は，通常とのメリハリをつける。

（週間中は、通常課題＋１ページ）

②家庭学習ノートを学校で準備しておき，取り組みが終わった生徒が１冊終了する度に校長へ提出し，校長の激励の下、新しいノートを配布。

③生徒会学習委員会による取り組み

・生徒会学習委員会による家庭学習週間の取り組みを行っている。

・定期テスト前に，学習委員会による家庭学習強化週間「スタディーカップ」の実施。

・期間中提出率を学級ごとに集計し，意欲を高める。

・提出率上位の学級には賞状を生徒会朝会で授与する。

・「スタディーカップ」期間中には、給食時間の校内放送で学習委員が提出状況を毎日伝えている。

・家庭学習の良い例や家庭学習を行うメリットなどを作成し学年フロアに掲示している。

（３）読書活動の推進について

①図書館担当や図書館司書と連携し，年間目標読書冊数４０冊を設定し取り組んでいる。

②教務と連携し，朝の会や帰りの会を図書館で実施する学級の割り当てを週報に掲載し，生徒が本を借りやすい環境作りに努めている。

③各部部活動のキャプテンや図書委員による「おすすめの１冊」のコーナーを設置し，生徒の興味関心や読書意欲を高める。

④季節毎に各行事にちなんだイベントを設定し，生徒が図書館に向かいたくなるような雰囲気作りに努める。

（４）学習規律の徹底について

①授業開始の徹底

・２分前入室を行う。チャイムと同時に級長からの号令で授業の開始する。

・授業中の姿勢についても年度初めに学級担任を中心に「立腰」を呼びかける。

②テスト日課の実施

・定期テストの際には，休み時間を１５分間に設定し、落ち着いて取り組めるように配慮している

３　説明資料

授業の様子（一人一公開授業）、図書館の取り組み、学習委員会取り組み

3 年理科

2 年国語

１年数学

図書委員オススメＢＯＯＫ

特別企画（年末宝くじ）

学習委員会

４　成果

①テスト前の家庭学習強化週間（スタディーカップ）では、ほとんどのクラスで提出率が９０％を越えている。

②公開授業を受けての授業参観シートを活用して，他教師から助言を得たり，各教科で授業リフレクションを行うことで授業力の向上を図ることができた。

③公開授業の予定表を職員室に掲示することで授業準備を計画的にすすめることができた。

④コロナ禍が過ぎ，ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れる授業が増えた。生徒同士による学び合いや教え合いの場面が増えている。

５　課題

①学習規律を意識して行動し２分前入室ができている生徒とできていない生徒がいる。

②テスト前の家庭学習の取り組み「スタディーカップ」等イベントの際の提出率が上がるが，期間以外になると提出率が下がる。

③家庭学習の質の向上をはかる。意識の持たせ方や各教科との連携が必要である。

「南城市教育の日」を定める規則

平成 27 年 3 月 25 日
南城市教育委員会告示第１号

「南城市教育の日」を定める規則を次のように定める。

（目的）
第１条　教育に対する市民の意識と関心を高めるとともに、南城市の明日を担う子どもたちの健やかな成長を願って、学校・家庭・地域及び行政が連携し、市民全体で教育に関する取組を推進するため、南城市教育の日を定める。

（南城市教育の日）
第２条　南城市教育の日は、１月最終日曜日とする。

（南城市教育月間）
第３条　南城市教育の日の目的にふさわしい取組を行う月間として、毎年１月を南城市教育月間とする。

（補足）
第４条　この要綱の定めるもののほか、南城市教育の日に関し必要な事項は、教育長が定める。

（附則）
この規則は、公布の日から施行する。

南城市の教育目標

南城市教育委員会は、生涯教育・生涯学習の理念のもとに、教育基本法の精神に則り、国や県の教育施策との整合性を図りながら、南城市総合計画を踏まえ教育目標を以下のように掲げる。

家庭における教育力の向上

知・徳・体の調和の取れた幼児・児童・生徒の育成

生涯学習の理念のもと積極的に学ぶ市民の育成

市民性教育（シチズンシップ教育）の推進

南城市民としてのアイデンティティーの確立